

平成 29 年度
スポーツ庁企画事業

事業名：学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト
(テーマ① 体力低下種目等の課題対策プログラムの開発等)

体育の授業を苦手としている小学校教員向け
研修プログラムの作成及び実践研究

調査研究事業報告書

研究代表者	白 旗 和 也	日本体育大学体育学部
研究分担者	大 友 智	立命館大学スポーツ健康科学部
	細 越 淳 二	国士舘大学文学部
	原 佑 一	岡山大学大学院教育学研究科

平成 30 年 3 月

目次

第 I 部 本事業の概要	1
1 章 本事業の趣旨及び目的	1
1 節 本事業の背景	1
2 節 本事業の目的	2
2 章 本事業の研究体制	3
1 節 研究組織	3
2 節 研究体制	3
3 章 調査内容	4
第 II 部 研修プログラムの設定と実際	5
1 章 研修プログラムのねらいと留意点	5
2 章 研修の実際	6
1 節 (事例 1) 熊本県における研修プログラムの適用	6
2 節 (事例 2) 福岡県における研修プログラムの適用	9
3 節 (事例 3) 東京都における研修プログラムの適用	11
4 節 (事例 4) 徳島県における研修プログラムの適用	14
3 章 受講生のアンケート結果からみる研修プログラムの効果	17
1 節 調査目的、並びに、調査項目、対象、及び実施期日	17
2 節 分析の結果	18
3 節 まとめ	27
第 III 部 授業実践を踏まえた研修プログラムの効果	28
1 章 目的	28
2 章 対象	29
3 章 調査の実際	30

1 節 2018 年 2 月 22 日 福岡県 A 小学校 W 教諭	30
2 節 2018 年 2 月 22 日 福岡県 B 小学校 X 教諭	35
3 節 2018 年 2 月 23 日 熊本県 C 小学校 Y 教諭	38
4 節 2018 年 2 月 23 日 熊本県 D 小学校 Z 教諭	41
4 章 まとめ	45
1 節 成果として	45
2 節 課題として	45
第 IV 部 教師の効力感に関する検討	46
1 章 先行研究の検討	46
1 節 自己効力感研究	46
2 節 教師効力感研究	46
2 章 目的	48
3 章 研究方法	49
1 節 調査対象者	49
2 節 調査時期	49
4 章 尺度の作成	50
1 節 体育授業版教師効力感尺度の検討	50
2 節 教師効力感に影響を及ぼす要因	50
5 章 教師の効力感調査の結果	51
1 節 調査対象者及び調査時期・調査方法	51
2 節 各項目の平均値と標準偏差	51
3 節 各要因と各項目のクロス集計	53
6 章 まとめ	87
第 V 部 本調査研究の総括	88

1章 各調査研究の概要	88
1節 研修プログラムの設定と実際	88
2節 授業実践を踏まえた研修プログラムの効果の検討	89
3節 教師の効力感に関する検討	89
2章 本調査研究のまとめ及び今後の検討課題	91
巻末資料	93

第I部 本事業の概要

1章 本事業の趣旨及び目的

1節 本事業の背景

1項 子供の体力や健康に関して

日本の教育では、「生きる力」の育成を目指している。このことは、教育基本法(平成 18 年法律第 120 号)の第 2 条(教育の目標)に「教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」と規定されている。つまり、日本の教育においては、「健やかな体」を育成することは必要条件である。

平成 28 年度の本事業において開発した研修を実施して感じたことは、教員の体力についての理解が乏しいことである。体力調査結果だけが体力と捉えているところに問題がある。そのため、新体力テストの種目についてその数値を上げることが体力の向上であると間違った理解をしている教員が多く見られた。

平成 20 年 1 月の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援校の学習指導要領の改善について」では、「体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっており、「生きる力」の重要な要素である。」と述べており、さらには「子どもたちの体力低下は、将来的に国民全体の体力の低下につながり、社会全体の活力や文化を支える力が失われることにもなりかねない。」と警鐘を鳴らしている。しかし、現実的には、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向や子どもの体力の低下が依然深刻とされている。近年の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、ややよい兆しが見えているが、体力が高かった昭和 60 年頃と比べると低位な種目も多い。

2項 体育授業における教師の現状と課題

加えて、平成 28 年度の本事業において開発した研修を通して、教師の知識の課題が浮き彫りとなった。それは、体育の授業と体力向上が結び付いていないことである。

平成 28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査でも、体育を除く一週間の総運動時間は小学生男子の 6%強、小学校女子の 1.1%強が 60 分未満と回答しているが、どんなに運動しない児童であっても、体育の時間は、毎週 3 時間程度、必ず運動する。この運動が保証される時間をいかに魅力的にするかが、子どもの運動に影響することは間違いのないところである。このようにすべての教師がある程度の質を保障できる体育の授業を実践することが、運動好きな子どもを育て、運動機会が増加することで結果的に体力の向上につながると考えられる。

文部科学省発行の「子どもの体力向上取組ハンドブック」によれば、体力が高い学校での教師の意識には次の共通点が見られる。

- 動きのコツがわかり、技能が身に付くこと
- 適切な運動量が確保されていること
- 発達の段階や個人差を踏まえていること
- 運動の特性に触れる楽しさを実感できること
- 運動の習慣化につながる教材提供ができること

研究代表者は、年間 200 ほどの体育の授業や 20 ほどの実技研修を実施しているが、こうした授業が十分なされているとは言いがたい現状を感じている。

体育は豊かなスポーツライフを目指す教科であることから、運動の楽しさを十分味わえる授業が不可欠である。体育の学習成果を保障するためには、教師の深い教材研究、指導計画作成に裏付けられた授業において、学習課題の明確化や子供への積極的なフィードバックなどにより、質の高い授業展開が求められる（高橋 2011）。しかし、体育研究会などに所属していない小学校教師に話を聞くと指導資料や先輩教師の存在などの学びやすい環境が整っていなかったり、教師自身の運動経験や指導経験が少なかったりすることなどにより、教師が体育の授業改善に自信をもっておらず、諦めている教師が多いとの認識に至った。体育における授業改善に対する希望がもてないことは、学習成果の保障を考える上で大きな課題である。教師が抱える課題には「指導計画の作成手順」「指導内容・指導方法に関する知識」「教材に関する知識」「児童に関する理解」「安全に関する知識」「児童へのフィードバックの方法」「学習評価の知識」などが挙げられるが、これらを定量的に分析するとともに、単純に知識を教師に与えるだけでなく、その活用方法を含めた適時性のある支援（コンサルテーション）を行うことで教師の自己効力感を高めることにより、授業改善に意欲的に取り組めるようにすることが不可欠である。これらの課題の解決を目指し、子どもの体力向上につなげるためにも、教師が体育の目標、内容、方法を理解し、少しでも質の高い授業が展開できるための研修プログラムを開発する必要がある。

2節 本事業の目的

本研究の目的は、体育の授業を実施することに苦手意識を持っている小学校教員が、指導内容がしっかり身につく授業を展開できることにより、教師が自信と意欲を持って体育の授業に取り組み、結果として運動好きな子供を育て、体力の向上に寄与することを目指すものである。そのために、どの研修会でも効果を上げることができる研修プログラムを目指して作成する。具体的には、以下の3つの観点から研究を行った。

- ① 平成 28 年度に実施した研修における効果及び単独教員に実施した支援方法を精査し、教員の研修に対するニーズ、指導内容を身に付けることができる授業のために必要な知識などを特定することで、対象、内容、研修時間、領域、規模別に、効果が期待できる研修方法のプログラムを修正すること
- ② 同様の内容であっても、プログラムの順番を変えたり、導入の仕方を変えることなどにより、受講者の意欲に相違が見られることから、研修プログラムを活用する上での講師としての支援の在り方も検証すること。加えて、統合した研修（指導案づくりと授業の進め方）プログラムを構築し、その活用方法も含めて協力体制のある教育委員会の研修で実施し、自己効力感、知識、意欲などの変化を検証すること
- ③ 小学校教師の体育授業に対する自己効力感や授業づくりの課題を明らかにするために、平成 28 年度に実施した予備調査結果を精査し、質問紙法による調査を実施して、自己効力感因子や課題を明確にすること

2章 本事業の研究体制

1節 研究組織

調査研究組織は、以下の通りであった。なお、【 】内は、専門領域を示している。

研究代表者

白旗和也 日本体育大学体育学部 【スポーツ教育学】

研究分担者

大友智 立命館大学スポーツ健康科学部 【スポーツ教育学】

細越淳二 国士舘大学文学部 【スポーツ教育学】

原佑一 岡山大学大学院教育学研究科 【スポーツ教育学】

2節 研究体制

調査研究組織は、以下の通りであった(図 I-1)。

連携大学に関して、総括は日本体育大学、連携大学は立命館大学、国士舘大学及び岡山大学であった。

調査研究組織に関して、研究の総括は白旗(日本体育大学体育学部)、第Ⅱ部及び第Ⅲ部の研究統括は白旗、細越(国士舘大学文学部)、第Ⅳ部の研究統括は原(岡山大学大学院教育学研究科)が行った。

また、徳島県、熊本県、東京都、及び、福岡県の小学校教員並びに教育委員会と連携して調査研究を実施した。

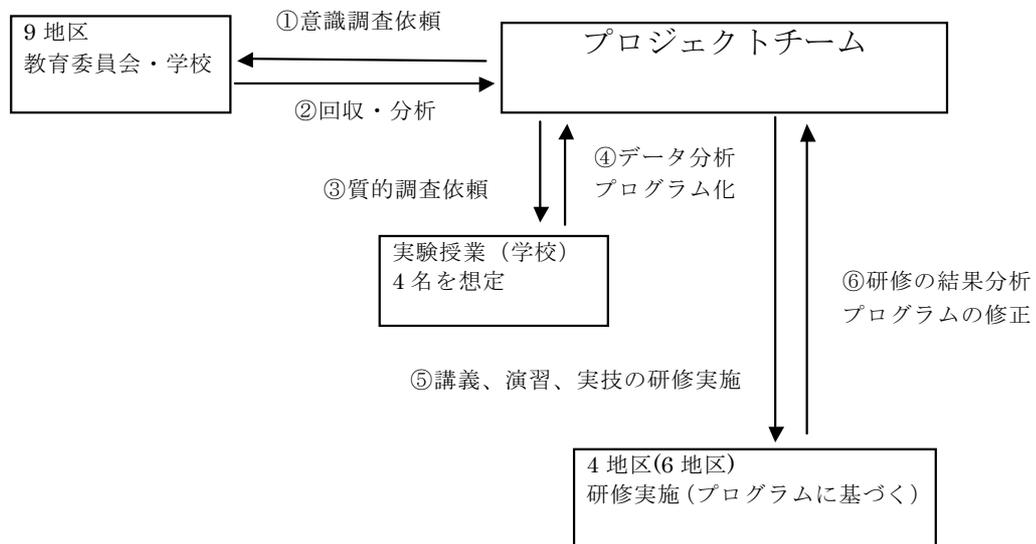


図 I-1 調査研究組織

3章 調査内容

本調査研究は、第Ⅱ部、第Ⅲ部、及び、第Ⅳ部に示す3つの研究から構成されている。

第Ⅱ部の目的は、体育の授業を実施するに当たって、苦手意識を持っている小学校教員を対象に実技研修と単元計画を作成する演習を実施し、授業づくりの見通しがもてるようにすることであった。昨年度の成果を踏まえて、今年度は、研修の実施主体である教育委員会と検討した結果、全ての研修を「体づくり運動領域」「7時間プログラム」として、ほぼ研修内容を統一して検証した。研修は、徳島県、熊本県、東京都、及び福岡県において実施し、受講者数は、238名であった。調査は、参加教師を対象に、研修を受ける前と後での受講生の体づくり運動についての理解度や意識を、質問紙調査票を用いて実施した。

第Ⅲ部の目的は、より効果的な教員研修の在り方を検討するための資料を収集するために、第Ⅱ部で実施した研修がどのように教師自身の授業に役だったのか、また、よりわかりやすく、活用しやすい研修にするにはどのような改善点があるのかをインタビューにより把握することであった。そこで、夏期に実施した研修参加者の中で「2学期以降に体づくり運動を実施すること」及び「授業実践を基にインタビューに応じてくれること」の条件を満たす教員を研修時に募集し、4名の教員（福岡県2名、熊本県2名）にインタビュー調査を実施した。

第Ⅳ部の目的は、教科指導＝体育の授業に関わる内容の尺度を開発することであった。尺度を検討し、O県K市の教員に対して悉皆調査を行い、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討した。分析対象者は、回答の得られた986名(回収率59.6%)のうち、有効回答である859名(男性331名(38.5%)、女性527名(61.5%))であった。

第II部 研修プログラムの設定と実際

1章 研修プログラムのねらいと留意点

今年度は、研修の実施主体である教育委員会と検討した結果、全ての研修を「体づくり運動領域」「7時間プログラム」として、ほぼ研修内容を統一して検証した。全国各地に於いて、様々な実技研修は実施されているが、実技研修では自ら子どもの代わりとなって体験することで動きのポイントや指導の進め方は理解できるものの、研修は教材提供や単元の中の部分的な情報提供にとどまる懸念がある。昨年度の調査結果から、実技とそれに連動した授業づくりの演習の組み合わせが有効であることの知見を得た。

そこで、7時間の時間を確保できることから、午前中には発達の段階を考慮した教材の工夫の仕方を中心とした実技研修を実施し、午後にはその経験を基に、指導内容の確認とそれを定着するための単元計画を基に1時間を詳細に立てる研修を実施し、授業づくりの見通しがもてるようにした。対象学年は3年生とし、共通の条件で研修を行ったことが、昨年度との違いである。このことにより、実技を通じた教材理解とそれを生かした単元計画の作成方法を理解することが可能ではないかと考えた。特に事例1、4については、参加者を女性のみ限定している。これまでの実技研修実施の反省から、本事業で特に対象としたい運動に苦手意識のある教員の場合、男性教員、とりわけ運動が得意な教員がいる場合、研修への参加に消極的になる傾向があることから、女性教員のみで実施した。

2章 研修の実際

1節 (事例1)熊本県における研修プログラムの適用

1項 研修に対する要望

熊本県では女性の教員のみを対象として実施した。研修に参加する教員からは、事前に以下のような授業の課題や研修への要望が挙げられた。

(体づくり運動について)

- ・本時の学習内容につながる楽しく短時間で効果の上がる、体づくり運動のさせ方で悩んでいる。
- ・体づくり運動について、発達年齢に応じた指導や体の動かし方への指導や支援について学びたい。
- ・子どもの意欲を引き出す言葉かけや基本的な動きのバリエーションを増やしたい。
- ・近年、子どもたちの運動能力の低下を感じるが、そのような中で、楽しく体力向上させるための指導法について知りたい。
- ・体づくり運動の授業の進め方について。
- ・子どもが楽しむ動きのレパートリーを増やしたい

(体育の授業・指導方法について)

- ・単元の流れ、計画づくりや毎時の授業の組み立て方
- ・自分が苦手な種目や動きを行うとき、手本を見せたり、コツを教えたりすることができない。
- ・指導方法が画一的になりがちなので、多様な方法を学びたい。

(マネジメント)

- ・低学年を担当しているが、場づくりに時間がかかることが悩みである。

(個に応じた指導、苦手な子への支援や声かけ、場づくり)

- ・運動が得意な子と苦手な子の差が大きくても、どの子どもも楽しめて運動量を確保することができる活動の仕方を知りたい。
- ・運動が苦手な子どもに対し、スモールステップでできるよう指導をしたいが、やり方がわからない。
- ・大勢でも一人ひとりの活動を保障できるような様々な工夫(場づくり、グループ活動など)のあり方を知りたい。
- ・どの子も(得意な子もそうでない子も)楽しめる活動にするための教具の工夫について
- ・苦手意識のある児童が楽しむことのできる活動や、一人一人が達成感を持つことができる活動をしたいといつも感じている。
- ・ボールを握ったり、タイヤを跳んだりなど自分の体をうまく使えないため、運動に苦手意識をもつ子供がいる。
- ・様々な身体的課題のある子どもが、基本的な運動を楽しく学ぶための授業づくり
- ・苦手意識のある子どもへの意欲付けの仕方

(運動量の確保について)

- ・運動量を確保した授業づくりの在り方
 - ・学級の児童の体力差が大きいと感じるので、誰もが運動量を確保できる運動・内容を知りたいし、指導で困っている。
- ・45分間における運動量の確保の工夫
- ・短い時間で児童の活動量を増やすための授業作りについて

(評価について)

- ・ 体育の評価の仕方を学びたい。

(学習資料やカードの活用など)

- ・ 短時間で記入できる学習カード

2項 実施日

平成29年8月4日(金)

3項 対象

熊本県内小学校教諭46名 体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ女性教員

4項 研修内容

体づくり運動(多様な動きをつくる運動(遊び))

5項 実際の研修

内 容	用 具
<p>○流れの説明 あいさつ、自己紹介、本日の流れ</p> <p>○体ほぐしの運動 ①自己紹介ゲーム ②言うこと一緒、やることいっしょ</p> <p>◎多様な動きをつくる運動(遊び) ○プレゼン・・・多様な動きの考え方</p> <p>○低学年・・・単元のはじめ ※一斉型で、展開</p> <p>1 <u>いろいろな動きに挑戦してみよう</u> <バランス系></p> <p>2 まず、一人でやってみよう</p> <p>1. ジャンプして回転 2. おしりで回転 3. だるま回り</p> <p>「おしりで回転上手だった人はいたかな？」 「どんあふうにするの」「やってみて」 「じゃあみんなもやってみよう」</p> <p>3 二人組でやってみよう</p> <p>1. 背中合わせ 2. バランス相撲 3. 回ってじゃんけん</p>	<p>リズム太鼓 1つ</p> <p>新聞紙 多数 ガムテープ</p> <p>プロジェクター スクリーン 簡単なプレゼン</p> <p>4つの場</p>

<p>4 みんなでやってみよう</p> <p>1. 片足じゃんけん列車 「今日やった動きで、何が楽しかった」 「どうして楽しかったの」</p> <p>○単元の後半・・・動きを工夫してみよう ＜用具操作を中心に＞</p> <p>○ボールを使って・・・一人で ①投げて捕る 「どんなことができるかな?」「グループみんなでやってみよう」 「真似してやってみよう」</p> <p>○二人で 1. 二人でボールを持って、キャッチボールしよう いろいろな投げ方、捕り方をしてみよう 「バウンドもできるね」「二人が違う投げ方もあるね」 2. 時間差キャッチボールをしてみよう 3. 近づいて、リアクションキャッチ</p> <p>○4人組で 4. トンネルを作るよ・・・ 「どんなトンネルで通過させるかな」</p> <p>○組み合わせの動きやゲームを作ろう ・半分のグループは組み合わせの運動をつくる残りはゲームをつくる。 ・兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる ◎まとめ</p> <p>— 休 憩 —</p> <p>○グループ編成 ・意見交換</p> <p>○ワークショップの説明 ※午前の実技研から授業づくりを考える 1単位時間を作る（3年生）・・・10時間の単元</p> <p>作業1 指導内容の確認 → 解説で確認</p> <p>作業2 時間を決める（○/10） 1. 目標をつくる ② 学習活動 教師の支援（評価）</p> <p>作業3 発表する</p> <p>質疑応答 ・各グループのメモから解説 終 了</p>	<p>短なわ 長なわ ドッジボール 平均台 フラフープ 長なわ カラーコーン</p>
--	--

図 II-1 熊本県において実施した研修内容及び用具

6項 研修に対する講師の印象

昨年度の評価を生かし、より授業づくりがイメージできるように研修を展開することとした。昨年度の体づくり運動の研修では、実技研修で様々な動きを紹介し、午後の演習では、それらの材料を使って単元計画をつくる研修であった。本年度は、午前から授業づくりとして、学習の進め方や指導の押さえどころを重視して実技指導を行い、午後は単元の時間の中の1時間を取り上げて、詳細に指導案を作成した。

実技研修では、動きを経験したり、アイデアを認識したりしただけで終わりがちであるため、よい動きの確認や工夫の視点など、授業中の教師行動を意識して実施した。実際に他の受講生のコツを聞いた後、自分でやってみるとできるようになったり、他の受講生の工夫例を参考に自分の動きを変化させたりする経験を通して、指導内容という意識が生まれたようであった。午後の演習では、午前中に実施した内容を単元として示し、そこからグループ内で深めたい1時間を選定した。知恵を出し合うことで、経験だけでなく、必然的に目標や指導内容の確認をする姿が見られた。時間が押してしまい、2グループごとの発表にとどまってしまったが、できればより多くのグループのアイデアを共有したいところであった。

2節 (事例2)福岡県における研修プログラムの適用

1項 研修に対する要望

福岡県において、体育の授業をしっかりと学びたい小学校教員(男女)を対象に実技研修及び授業づくりの演習を行った。この研修は平成26年度から実施しており、毎年改善を重ねてきている。かつては1日ばかりで、実技研修を行い、ひたすら材料提供をしてきたが、昨年度の研修から授業づくりに主眼を置き、演習を取り入れて実施した。実施方法は概ね事例1と同じである。2日間にわたって、全く同じ内容を行った。受講生は各日別である。

2項 実施日

平成29年8月8日(火)、9日(水)

3項 対象

体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ教員(男女)
福岡県内小学校教諭、特別支援学校教諭110名

4項 研修内容

体づくり運動(体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動(遊び))

5項 実際の研修

内 容	用 具
<p>○流れの説明 あいさつ、自己紹介、本日の流れ</p> <p>○体ほぐしの運動 ①自己紹介ゲーム ②言うこと一緒、やることいっしょ</p> <p>◎多様な動きをつくる運動（遊び） ○プレゼン・・・多様な動きの考え方</p> <p>○低学年・・・単元のはじめ ※一斉型で、展開</p> <p>1 いろいろな動きに挑戦してみよう ＜バランス系＞</p> <p>2 まず、一人でやってみよう</p> <p style="padding-left: 40px;">4. ジャンプして回転 5. おしりで回転 6. だるま回り</p> <p>「おしりで回転上手だった人はいたかな？」 「どんあふうにするの」「やってみて」 「じゃあみんなもやってみよう」</p> <p>3 二人組でやってみよう</p> <p style="padding-left: 40px;">4. 背中合わせ 5. バランス相撲 6. 回ってじゃんけん</p> <p>4 みんなでやってみよう</p> <p style="padding-left: 40px;">2. 片足じゃんけん列車</p> <p>「今日やった動きで、何が楽しかった」 「どうして楽しかったの」</p> <p>○単元の後半・・・動きを工夫してみよう ＜用具操作を中心に＞</p> <p>○ボールを使って・・・一人で</p> <p style="padding-left: 20px;">①投げて捕る</p> <p>「どんなことができるかな?」「グループみんなでやってみよう」 「真似してやってみよう」</p> <p>○二人で</p> <p style="padding-left: 40px;">5. 二人でボールを持って、キャッチボールしよう いろいろな投げ方、捕り方をしてみよう 「バウンドもできるね」「二人が違う投げ方もあるね」</p> <p style="padding-left: 40px;">6. 時間差キャッチボールをしてみよう 7. 近づいて、リアクションキャッチ</p> <p>○4人組で</p> <p style="padding-left: 40px;">8. トンネルを作るよ・・・ 「どんなトンネルで通過させるかな」</p> <p>○組み合わせの動きやゲームを作ろう</p>	<p>リズム太鼓 1つ</p> <p>新聞紙 多数 ガムテープ</p> <p>プロジェクター スクリーン 簡単なプレゼン</p> <p>4つの場</p> <p>短なわ 長なわ ドッジボール 平均台 フラフープ 長なわ カラーコーン</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 半分のグループは組み合わせの運動をつくる残りはゲームをつくる。 ・ 兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる <p>◎まとめ</p> <p>—— 休 憩 ——</p> <p>○ワークショップの説明</p> <p>※午前の実技研から授業づくりを考える</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 単位時間を作る（3年生）・・・10時間の単元</p> <p>作業1 指導内容の確認 → 解説で確認</p> <p>作業2 時間を決める（○／10）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 目標をつくる 3. 学習活動 教師の支援（評価） <p>作業3 全体を半分に分けて2会場で発表する</p> <p>まとめ</p> <p style="padding-left: 20px;">本日の研修内容と授業づくりのポイントの確認。</p> <p>終 了</p>	
--	--

図 II-2 福岡県において実施した研修内容及び用具

6項 研修に対する講師の印象

毎年、多くの出席者があり、抽選で参加者を決めてもらっているほどである。リピーターもおり、継続的に学んでいる受講生もいる。昨年度は熊本地震の関係でメインアリーナが使えず、空調のない高等学校での研修であったため、運動量はやや控えめであった。今年度は空調の効くアリーナであったこともあり、全員が最後まで実技研修に参加できた。実技研修の前半は、単元を意識した構成にしたが、自己の動きの変化を通して、コツや動き方を意識する必要性を感じたようであった。終盤にはグループごとに運動を工夫してもらった時間とした。組み合わせの動きと動きを活性化するゲームを作成するグループを割り振ったが、苦手な教員が多いため、動きづくりが活性するのに次官がかかった面も見られた。もう少し、工夫についての具体的なアイデア提供が必要であった。午後の授業づくり演習では、実技でのグループと同様であったため、雰囲気がよく、話し合いが活性化していた。苦手な教員同士だと臆せず、話し合える反面、リーダー不在となるため、講師が常に具体的な助言をする必要がある。発表の時間は、熊本での反省を生かし、多目にとることができた。より多くのアイデアを共有することができ、写真で撮影し合うなど、自己の授業づくりに生かしたいとの意見が多く聞かれた。

3節 （事例3）東京都における研修プログラムの適用

1項 研修に対する要望

東京都において、体育の授業をしっかりと学びたい小学校教員（男女）を対象に実技研修及び演習を行った。この研修は平成25年度から実施しているが、昨年度までは、全体の75%を実技研修に設定していた。今年度は他の研修同様、体づくり運動領域に限定し、授業づくりを目指した実技研修と演習で構成した。

<p>「真似してやってみよう」</p> <p>○二人で</p> <p>9. 二人でボールを持って、キャッチボールしよう いろいろな投げ方、捕り方をしてみよう 「バウンドもできるね」「二人が違う投げ方もあるね」</p> <p>10. 時間差キャッチボールをしてみよう</p> <p>11. 近づいて、リアクションキャッチ</p> <p>○4人組で</p> <p>12. トンネルを作るよ 「どんなトンネルで通過させるかな」</p> <p>○<u>組み合わせの動きやゲームを作ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・半分のグループは組み合わせの運動をつくる残りはゲームをつくる。 ・兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる <p>◎まとめ</p> <p>— 休 憩 —</p> <p>○グループ編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換 <p>○ワークショップの説明</p> <p>※午前の実技研から授業づくりを考える</p> <p><u>1 単位時間を作る（3年生）・・・10時間の単元</u></p> <p>作業1 指導内容の確認 → 解説で確認</p> <p>作業2 時間を決める（○/10）</p> <p>4. 目標をつくる</p> <p>② 学習活動 教師の支援（評価）</p> <p>作業3 発表する</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループのメモから解説 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の研修内容と授業づくりのポイントの確認 <p>終 了</p>	<p>カラーコーン</p>
--	---------------

図 II-3 東京都において実施した研修内容及び用具

6項 研修に対する講師の印象

東京都では大量採用が続いており、経験年数の少ない教員が大勢を占めるようになってきている。教員も教科書のない体育の研修の必要性は、どの県よりも強く感じている。本年度は8月下旬ですでに新学期が始まっている学校もあることから、参加者は例年より少なめであった。参加者は若手の教員が多いため、午前中の実技研修から、具体的な例を挙げたの解説を心がけた。授業経験が多くないため、実技には積極的に参加するが、動きの工夫においては広がらない傾向であった。そのため、工夫のためのアイデアを提供していく

必要があった。午後の演習では、学習指導要領解説により、指導内容の確認から行ったが、経験の浅い教員にとってはこうしたことが欲しい情報であったようである。やはり、授業づくりにおいては、経験不足によりなかなかまとまらない状況が見られた。実技研修同様、授業づくりの原則や視点を示すことで活発な話し合いがなされた。キャリアの豊富な教員が少ないことにより、主体的な研修を進めにくい傾向は他県での研修との違いであった。

4節 (事例4)徳島県における研修プログラムの適用

1項 研修に対する要望

徳島県では、参加対象を女性教員のみとし、研修内容及び方法は、他の研修と同様とした。

なお、事前に研修に参加する小学校教員から挙げられた主な指導上の課題や研修への要望は以下の通りである。

(体づくり運動について)

- ・体づくり運動ではどのような指導をしていけばよいのか。他の領域をする際も、体づくり運動の活動を通して体を動かす方法を教えていただきたい。
- ・昨年度参加させていただき、授業で使うことができました。用具を使って、または用具を使わなくてもできるいろいろな運動のバリエーションをおしえていただきたい。
- ・体づくり運動での1時間の授業の組み立て方を知りたい。
- ・体づくり運動＝ストレッチ、もともになる動き、体の使い方？と抽象的なイメージがあり、指導者等で確認しつつ「これで合っているのかな。」と不安が残ることが多い。
- ・低学年を担当しているのですが、いろんな動き、運動があり、どのように組み合わせて授業をつくっていけばよいのか教えていただきたい。
- ・体づくりと体反故氏のそれぞれの目的をはっきり理解したいという思いがある。

(体育の授業・指導方法について)

- ・学年を問わず、児童が楽しんで、主体的に取り組むためのポイントを教えてほしい。
- ・運動が苦手なため、体育での見本を示すことができず、口だけのアドバイスだけとなってしまっている。このような教師が児童に体育指導を行うときに、良い指導の仕方などがあったら教えていただきたい。
- ・ひとつの活動をするのに集中が続かず、途中でだれてしまうことがある授業の組み立て方を教えてほしい。

(個に応じた指導、苦手な子への支援や声かけ、場づくり)

- ・運動能力に差がある生徒の体づくり運動。障がいの種別は様々で、室内でできる20分程度の活動に幅をもたせたい。
- ・不器用な児童が多く、用具等を使用した動きをしてもなかなかできない。苦手な、そして不器用な児童に対しての指導内容の工夫や指導について教えていただきたい。

※昨年度に比べ、体づくり運動領域に直接関係する要望が多かった。

2項 実施日

平成30年1月5日(金)

3項 対象

徳島県内小学校教諭40名 体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ女性教員(特別支援学校 中等部1名 高等部3名の教員も含む)

4項 研修内容

体づくり運動領域（多様な動きをつくる運動）

5項 実際の研修

内 容	用 具
<p>○研修の説明 本日の研修内容の確認、準備運動、頭の体操</p> <p>○体ほぐしの運動 ①自己紹介ゲーム ②あんたがたどこさ ③大蔵じいさんとがん</p> <p>○多様な動きをつくる運動（遊び） ①多様な動きの考え方のプレゼンテーション</p> <p>○単元の授業展開を想定した実技研修 ※第3学年を想定</p> <p>1 単元前半 <u>いろいろな動きに挑戦してみよう</u> <バランス系> ※動きのポイントを確認しながら ①一人でやってみよう ②二人組でやってみよう ③みんなでやってみよう</p> <p>2 単元の後半 <u>動きを工夫してみよう</u> <用具操作> ※動きを広げるためには、工夫をしていく ①二人で ・二人でボールを持って、キャッチボールしよう ・時間差キャッチボールをしてみよう ・リアクションキャッチをしてみよう</p> <p>②4人組で ・トンネルを作ってみよう</p> <p>3 発展 <u>組み合わせの動きやゲームを作ろう</u> ※やや難しい動きにチャレンジする ※正しくやらないと勝てないゲーム（競争型）を作る ①5人組・・・半分のグループはとっておきの組み合わせの運動をつくる 残りのグループはゲームをつくる。 ②兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる</p> <p>まとめ</p> <p>○午後は午前の実技研修の内容を活かして、単元づくり ○グループごとに体育での悩みなどの意見交換 ○ワークショップ 作業1 指導内容の確認・・・学習指導要領解説体育編を基に 作業2 単元計画から1時間の詳細を作成する ① 目標をつくる</p>	<p>リズム太鼓 1つ</p> <p>新聞紙 多数 ガムテープ</p> <p>プロジェクター スクリーン 簡単なプレゼン</p> <p>4つの場</p> <p>短なわ 長なわ ドッジボール 平均台 フラフープ 長なわ カラーコーン</p>

<p>② 学習活動、教師の支援（評価）をつくる</p> <p>作業3 発表し、意見交換する</p> <p>授業づくりのまとめ</p>	
--	--

図 II-4 徳島県において実施した研修内容及び用具

6項 研修に対する講師の印象

体育の授業づくりが苦手な教員が対象であるため、午前中は基本的な授業づくりを見据えての実技研修であった。単元のはじめには、運動とのよい出会いができること。次にはよい動きのコツを確認すること。次いで動きを工夫することを押さえながら、実技による実感できる研修を展開した。受講生からは、「授業の進め方のイメージが持てた。」「いつ、何を押さえていくとよいのかの理解ができた」といった感想が得られた。女性のみでの参加であったため、ベテランの教員も臆することなく、最後まで全員が実技研修に参加した。運動をしながらの意見交換も活発で、今年度も女性に限定した研修は効果を上げやすいと感じた。午後の演習では、午前中の実技研修の内容を基に指導案を作成することをねらいとした。体育は活動あって学びなしといわれることも多いことから、小学校学習指導要領解説体育編により、指導内容の確認からはじめた。多くの受講生は、初めて具体的な体育の指導内容を確認できたようである。教員から「ここに書いてあるのか」といった声も聞かれた。その後は講師が示した単元の概要を基にグループごとに、1時間の詳細を作成した。この作業では繰り返し、指導内容の確認や活動の意義についての理由付けなどの話し合いが行われ、効果的であった。最後に4グループごとに分かれて発表を行ったが、時間が足りなくなり、十分な協議まではできなかった。質疑を経て、指導案の修正までできれば、さらに授業づくりの知識が深まったのではないかと感じられた。

3章 受講生のアンケート結果からみる研修プログラムの効果

1節 調査目的、並びに、調査項目、対象、及び実施期日

ここでは、本研究で開発した研修プログラムの効果を検証するために、研修を受ける前と後での受講生の体づくり運動についての理解度や意識を、調査票を用いて把握した結果を示していく。

調査は、2017（平成 29）年度の夏季休業中を中心に、東京都、徳島県、福岡県、熊本県で開催された、体づくり運動領域の講義及び実技研修に参加した教員（235 名）を対象に実施した。

調査項目としては、調査対象者の属性を把握するための質問として「性別」「教職歴（①～3 年、②4～10 年、③11～20 年、④21 年～）」「研究部（市区町村の教育研究会）の所属（①国語、②算数、③理科、④社会、⑤生活、⑥音楽、⑦図画工作、⑧体育、⑨家庭、⑩道徳、⑪その他）」を設定した。

続いて、受講した研修に関する以下の 7 項目を設定し、それに対して、①とても思う、②少し思う、③どちらでもない、④あまり思わない、⑤全く思わない、の 5 件法で回答を求めた。（各項目とも、明確な回答がある場合のみカウントし、それ以外はノーカウントとした）

<研修に関する質問項目>

- 1 学習指導要領について理解している（研修終了後は「理解できた」）
- 2 領域の考え方について理解している（研修終了後は「理解できた」）
- 3 指導内容についての理解している（研修終了後は「理解できた」）
- 4 教材について理解している（研修終了後は「理解できた」）
- 5 指導方法について理解している（研修終了後は「理解できた」）
- 6 単元計画づくりについて理解している（研修終了後は「理解できた」）
- 7 動きのポイントについて理解している（研修終了後は「理解できた」）

また研修終了後には「授業づくりができると思う（授業のイメージを持つことができた）」「授業で十分指導できると思う」についても尋ねた。（この他にもいくつかの設問を設けた。詳細は本稿末尾の調査票を参照のこと）

表 II-1 は、調査対象者の属性を示している。

性別は、男性が 39.49%、女性が 68.51%であった。教職歴は、～3 年が 31.03%、4～10 年が 43.97%、11～20 年が 14.22%、21 年～が 10.78%で、教職歴 10 年未満の教員が 75.00%を占めていた。

所属する地域の教育研究会等の教科は、体育部に所属する教員が 26.42%と最も多く、次いで国語部 15.54%、算数部 9.33%となっていた。

このことから、今回の調査対象者は、体育部で体育科を中心に教育研究活動を行っている者が全体の 4 分の 1 を占めていたこと、教職歴では若手から中堅の教員が多数受講していたことが確認された。

表 II-1 回答者の属性

		人	%
性別	男性	74	31.49
	女性	161	68.51
	合計	235	100.00
教職歴	～3年	72	31.03
	4～10年	102	43.97
	11～20年	33	14.22
	21年～	25	10.78
	合計	232	100.00
研究部	国語	30	15.54
	算数	18	9.33
	理科	5	2.59
	社会	14	7.25
	生活	13	6.74
	音楽	8	4.15
	図画工作	11	5.70
	体育	51	26.42
	家庭	5	2.59
	道徳	8	4.15
	その他	30	15.54
	合計	193	100.00

2節 分析の結果

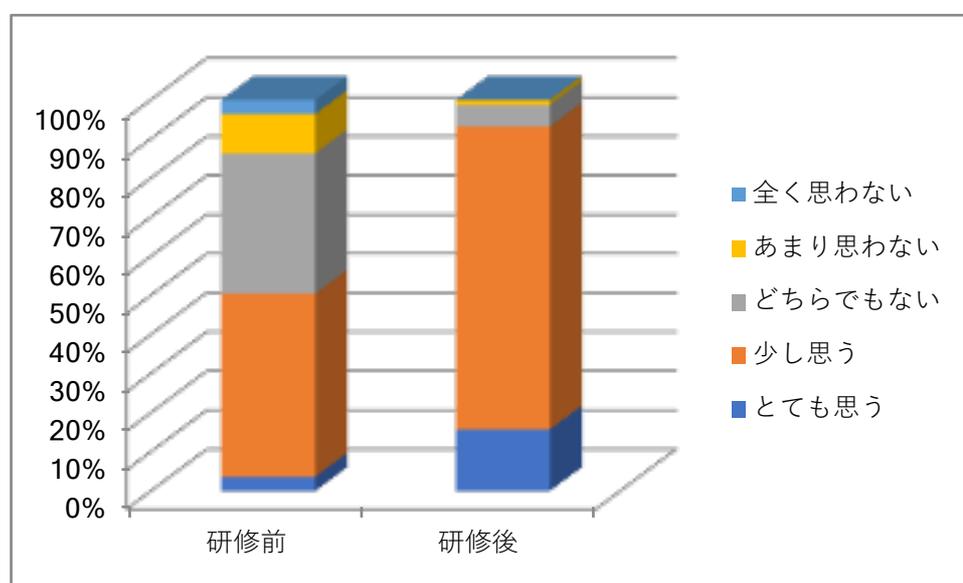
ここからは、研修前後の意識の変容を知る目的で設定した 7 つの質問に対する回答を示していく。

表 II-2 及び図 II-5 は、「学習指導要領について理解している／理解できた」かどうかについての回答である。

研修前は、「とても思う」が 2.55%、「少し思う」が 32.77%であったが、研修後にはそれぞれ 15.74%、77.45%となっていた。また「どちらでもない」が 25.11%から 5.52%へと減少していたことから、今回の研修プログラムによって、受講者の多くが学習指導要領の内容について理解を深めることができたという事実をうかがうことができた。

表 II-2 研修前と後の回答の推移：全体

Q.学習指導要領の内容を理解している／できた		(%)			
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない
研修前	2.55	32.77	25.11	7.02	2.55
研修後	15.74	77.45	5.53	1.28	0.00



Q.学習指導要領の内容を理解している／できた

図 II-5 研修前と後の回答の推移：全体

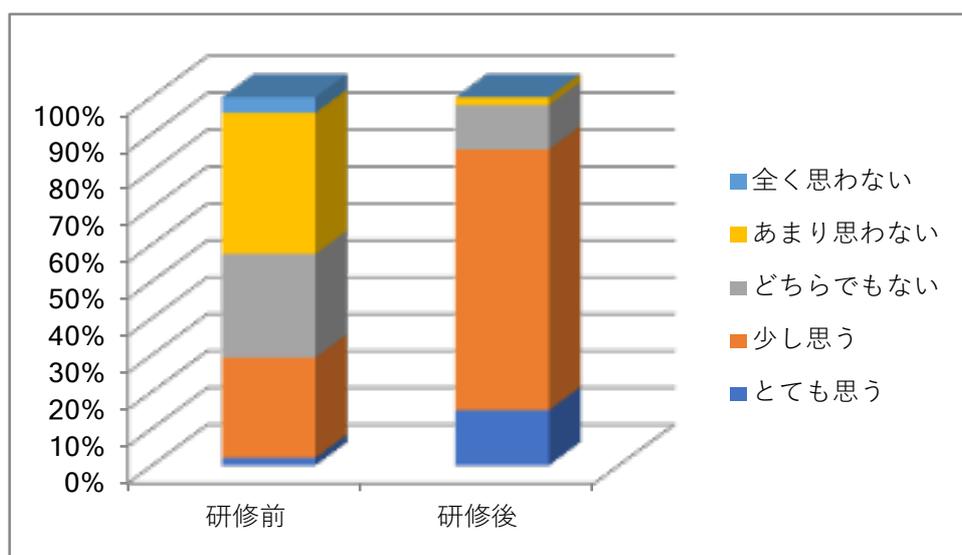
表 II-3 及び図 II-6 は、「領域の考え方について理解している／できた」かどうかについての回答である。

研修前は「どちらでもない」が 28.09%、「あまり思わない」が 38.30%であったが、研修後はそれぞれ 12.02%、2.15%へと推移していた。「全く思わない」は 0.00%となっていた。

体づくり運動の内容については、その内容について理解が難しいという意見もよく聞かれたが、本研修プログラムによって、非常に多くの教員が体づくり運動の内容について理解度を高めることができていたことが確認されたといえる。

表 II-3 研修前と後の回答の推移：全体

Q.領域の考え方を理解している／できた						(%)
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない	
研修前	2.13	27.23	28.09	38.30	4.26	
研修後	15.02	70.82	12.02	2.15	0.00	



Q.領域の考え方を理解している／できた

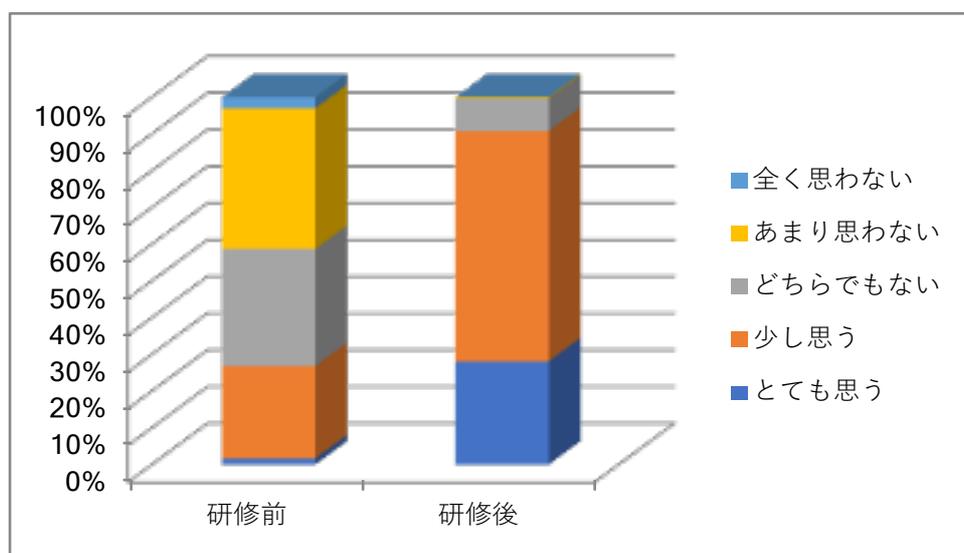
図 II-6 研修前と後の回答の推移：全体

表 II-4 及び図 II-7 は、「指導内容についての理解している／できた」かどうかについての回答である。

研修前の段階では、「少し思う」(25.11%)、「どちらでもない」(31.91%)、「あまり思わない」(38.30%)と、指導内容についての理解度にばらつきが見られたが、研修後の値を見ても、「思う」(28.61%)、「少し思う」(63.83%)と、体づくり運動の指導内容について、よく理解できたとする回答割合が高まっていたことが特徴的であった。

表 II-4 研修前と後の回答の推移：全体

Q.指導内容（動きのポイントを含む）を理解している／できた (%)					
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない
研修前	1.70	25.11	31.91	38.30	2.98
研修後	28.61	63.83	8.94	0.43	0.00



Q.指導内容（動きのポイントを含む）を理解している／できた

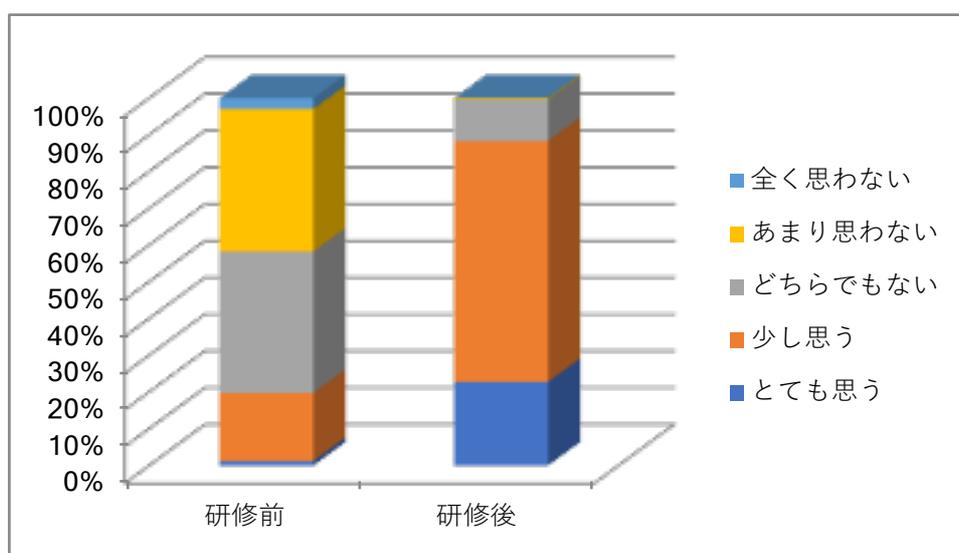
図 II-7 研修前と後の回答の推移：全体

表 II-5 及び図 II-8 は、「教材づくりについて理解している／できた」かどうかについての回答である。

研修前の段階では、「どちらでもない」が 38.87%、「あまり思わない」が 39.15%と、この領域の教材づくりについての知識や理解に対する教師の自信のなさが現れる結果であったが、研修後の値を見てみると、「とても思う」が 22.75%、「少し思う」が 65.67%と、体づくり運動の教材や教材づくりの考え方、プロセスについて、90%弱の受講者が理解度を高めたと意識していることが明らかであった。

表 II-5 研修前と後の回答の推移：全体

Q.教材づくりについて理解している／できた						(%)
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない	
研修前	1.28	18.72	38.87	39.15	2.98	
研修後	22.75	65.67	11.16	0.43	0.00	



Q.教材づくりについて理解している／できた

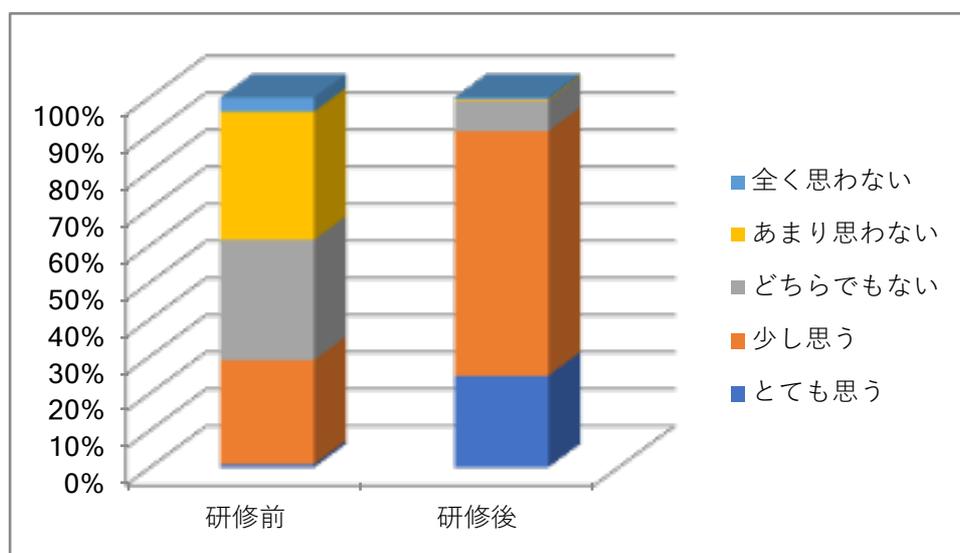
図 II-8 研修前と後の回答の推移：全体

表 II-6 及び図 II-9 は、「指導方法について理解している／できた」かどうかについての回答である。

研修前の段階では、「少し思う」が 28.21%、「どちらでもない」が 32.48%、「あまり思わない」が 34.62%と、指導方法が分からないもしくはやや理解が不足していると回答する受講者が多く見られた。しかし研修後の結果を見ると、「少し思う」が最も割合が高く 66.09%、次いで「とても思う」が 24.78%へと推移していたことから、本研修プログラムによって、受講者が体づくり運動についての指導方法について、知識や技能を習得できたと感じている事実を見て取れた。

表 II-6 研修前と後の回答の推移：全体

	Q.指導方法について理解している／できた (%)				
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない
研修前	0.85	28.21	32.48	34.62	3.85
研修後	24.78	66.09	8.26	0.43	0.43



Q.指導方法について理解している／できた

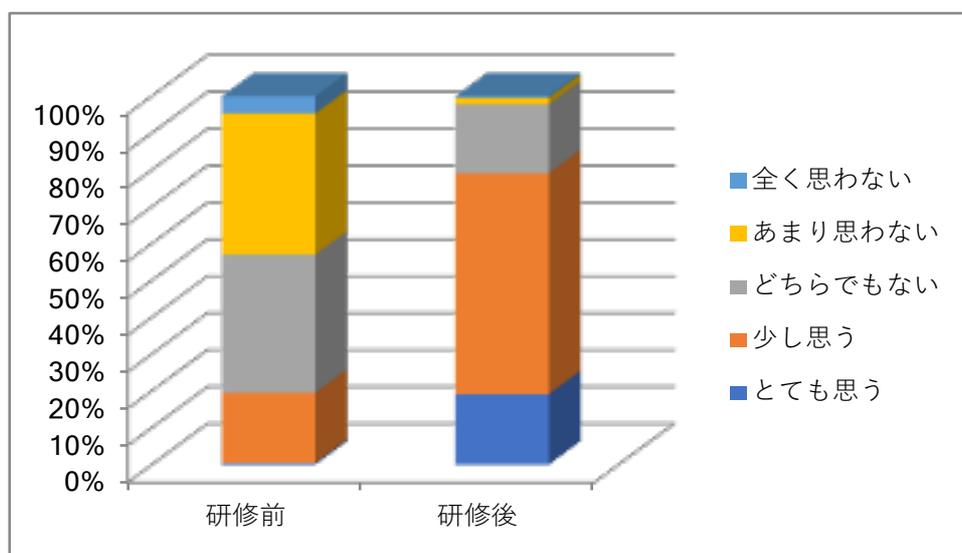
図 II-9 研修前と後の回答の推移：全体

表 II-7 及び図 II-10 は、「単元計画づくりについて理解している／できた」かどうかについての回答である。研修前は「どちらでもない」が 37.45%、「あまり思わない」が 38.30%と、全体の約 75%を占めていた。これが研修後には、「とても思う」が 19.13%、「少し思う」が 60.00%へと向上していた。

このことから、研修を通して受講者が、各教材のもつ意味だけではなく、単元を通して体づくり運動をどのように見通して授業化すればよいのかについて、知識と技能を身に付けたと感じている様子がうかがえた。しかし、研修後に「どちらでもない」が 18.70%であったことから、受講者の課題意識の違いももちろん想定はされるものの、今回のような研修で単元として体づくり運動について考えるということの難しさも見て取ることができた。

表 II-7 研修前と後の回答の推移：全体

	Q.単元計画づくりについて理解している／できた (%)				
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない
研修前	0.43	19.15	37.45	38.30	4.68
研修後	19.13	60.00	18.70	1.74	0.43



Q.単元計画づくりについて理解している／できた

図 II-10 研修前と後の回答の推移：全体

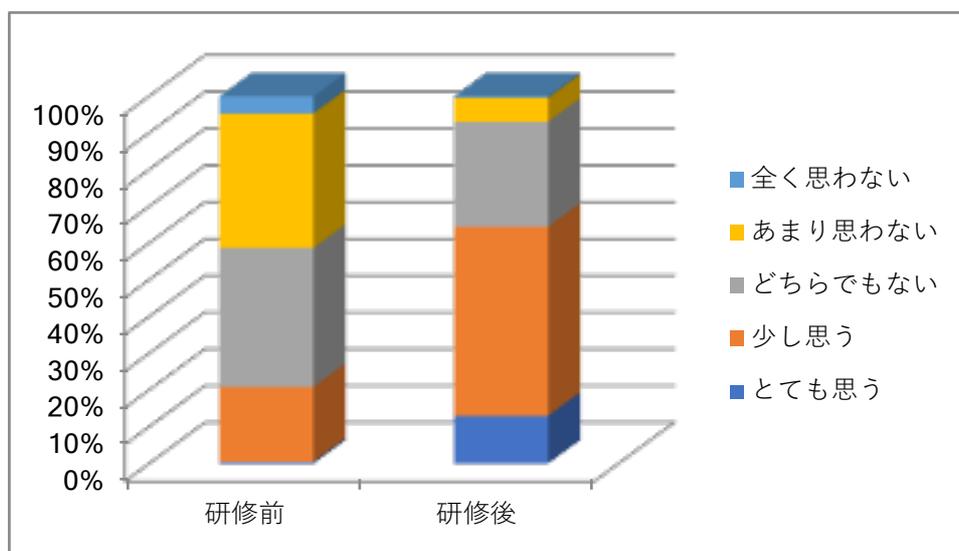
表 II-8 及び図 II-11 は、「評価の視点と方法について理解している／できた」かどうかについての回答である。

体づくり運動の評価については、他領域とは考え方が異なるため難しいという意見を耳にすることも多いが、このことを反映するように、研修前は「どちらでもない」が 37.87%、「あまり思わない」が 36.60%と、全体の 75%前後の割合を占めていた。

これが研修後には、「とても思う」が 12.99%、「少し思う」が 51.52%へと、その割合を高めていた。このことから、本研修プログラムが一定程度の評価の視点及び方法を受講者に伝えることができていたという事実がわかった。しかし「どちらでもない」が研修後に 28.57%となっていた。この結果は、体づくり運動に関する教員のニーズが授業づくりのノウハウにあるのか、あるいは授業づくりの知識や技能の習得を超えて評価に興味関心を持つ段階にいる教員がまだ少ないのかといった現状の捉え方もあるけれども、事実として評価についての理解度については課題が認められたといえる。

表 II-8 研修前と後の回答の推移：全体

Q.評価の視点と方法を理解している／できた		(%)			
	とても思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	全く思わない
研修前	0.43	20.43	37.87	36.60	4.68
研修後	12.99	51.52	28.57	6.49	0.43



Q.評価の視点と方法を理解している／できた

図 II-11 研修前と後の回答の推移：全体

表II-9 は、研修後に体づくり運動の授業づくりができる（授業のイメージを創ることができる）と感じているかどうかについて問うた結果である。

全体的な傾向としては、「とても思う」（29.44%）、「少し思う」（64.50%）が95%弱となっていたことから、本研修プログラムの受講によって、当該領域の授業イメージをもって授業に向き合う教員の力量を提供することができていたのではないかと推察することができた。

しかし、「～3年」の教師については、やはり指導経験の少なさのためか、研修を受けた段階でも、他のキャリアの教員に比べて「とても思う」が若干少なく、「少し思う」の割合が高いことが特徴的であったといえる。

表 II-9 質問 8 授業づくりができると思う（授業のイメージを持つことができた）

	とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	68	29.44	149	64.50	12	5.19	2	0.87	0	0.00
教職歴										
～3年	16	22.22	52	72.22	4	5.56	0	0.00	0	0.00
4～10年	35	35.35	58	58.59	5	5.05	1	1.01	0	0.00
11～20年	10	31.25	20	62.50	2	6.25	0	0.00	0	0.00
21年～	6	24.00	17	68.00	1	4.00	1	4.00	0	0.00

表 II-10 は、研修で学んだことを通して、今後、「授業で十分指導ができる」と感じられるかどうかを問うた結果である。

全体で見ると、「十分指導できる」と回答した割合は 13/04%と高い割合とはいえなかった。一方で「少し思う」が 57.39%と、半数以上の受講者は、一定程度の指導力の向上を実感していた様子をうかがうことができた。しかし「あまり思わない」(2.61%)「全く思わない」(0.00%)が少ないけれども、「どちらでもない」が 26.96%と、全体の 3分の1を占めていたことから、効果的な指導＝指導に関する有能感については、研修期間や受講者の興味関心（ニーズ）等の側面から、再度、内容の検討を図る必要性が感じられる結果であった。

表 II-10 質問 9 授業で十分指導できると思う

	とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
合計	30	13.04	132	57.39	62	26.96	6	2.61	0	0.00
教職歴										
～3年	2	2.82	45	63.38	20	28.17	4	5.63	0	0.00
4～10年	17	17.35	53	54.08	27	27.55	1	1.02	0	0.00
11～20年	8	24.24	17	51.52	8	24.24	0	0.00	0	0.00
21年～	3	12.00	16	64.00	5	20.00	1	4.00	0	0.00

3節 まとめ

以上の分析から、次のことがらが確認された；

- ①学習指導要領の理解については、受講した多くの教師が、その理解度を高めることができていた。
- ②領域の考え方の理解については、研修を通して多くの教師が理解度を高めていたことがわかった。中でも「あまり思わない」が38.30%から2.15%へと減少していたことが特徴的であった。
- ③指導内容の理解については、今回の研修プログラムを通して、約90%の教師が指導の自信を得ていたことが確かめられた。
- ④教材づくりの理解については、本研修プログラムの受講を通して、多くの教師がその理解度を高めていたことがわかった。中でも「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」と回答した教師の多くが研修後に理解度が高まったと意識していたことが明らかになった。
- ⑤指導方法の理解については、今回の研修プログラムを通して、「とても思う」が0.85%から24.78%、「どちらでもない」が32.48%から8.26%、「あまり思わない」が34.62%から0.43%へと変容していたことから、本プログラムが受講者の指導方法についてのニーズにフィットしていたものと推察することができた。
- ⑥単元計画づくりの理解については、「あまり思わない」が38.30%から1.74%へと減少していたことから、単元として体づくり運動をとらえる力量を高めることができた受講者がいた一方で、「どちらでもない」の割合が研修後に約20%であったことから、この点についての受講者のニーズの把握や研修内容の再検討が求められる結果であった。
- ⑦評価の視点と方法の理解については、「とても思う」「少し思う」の割合がそれぞれ0.43%から12.99%、20.43%から51.52%へと高まっていたが、一方で「どちらでもない」が37.87%から28.57%と、研修後も約3分の1の受講者が「理解が高まったとはいえない」と回答していたことから、この点についての研修プログラムの再検討が求められる結果であったということができた。
- ⑧研修後に「授業のイメージが持てたか」については、多くの受講者が「授業のイメージを持つことができた」と回答していた。しかしキャリアの少ない受講者の割合は低かったため、この層の教師に対するプログラムについても、あらためて検討する可能性があるものと思われた。
- ⑨「授業で十分指導できる」かどうかについては、約70%の受講者は「できる」と回答したが、約25%の受講者は「どちらでもない」と回答しており、研修で学んだことと子どもたちに直接的に指導することの間の指導の自信をどう持たせるかについて、検討の余地が残ったともいえる。

第Ⅲ部 授業実践を踏まえた研修プログラムの効果

1章 目的

実技、及び演習での研修内容がどのように自身の授業に役だったのか、また、よりわかりやすく、活用しやすい研修にするにはどのような改善点があるのかをインタビューにより把握する。

2章 対象

夏期に実施した研修参加者の中で「2学期以降に体づくり運動を実施すること」「授業実践を基にインタビューに応じてくれること」の条件を満たす教員を研修時に募集し、4名の教員（福岡県2名、熊本県2名）を決定した。

3章 調査の実際

平成30年2月22日 福岡県A小学校 W教諭、福岡県B小学校 X教諭

平成30年2月23日 熊本県C小学校 Y教諭、熊本県D小学校 Z教諭

体づくり運動／インタビュー調査

- 質問内容
- 先生の回答

1節 2018年2月22日 福岡県A小学校 W教諭

- 研修内容を振り返ってどうだったか
 - わかりやすいと思ったのは、多様な経験を通して結果的に体力が高まるってことを理解したことです。
 - 研修中は、いろんなことが盛りだくさんだったけれど、集中力きれずに聞けました。
 - 最初に講義→実践の流れで行う研修が長い中で、理論・実践の繰り返しで行った研修はどうだったか？
 - スポーツ選手との比較の話は、とっても面白かった
 - 多様な動きを自分がしたから、体づくりをすることで子供の畑づくりになるっていうのがすっと落ちた
 - 実際に授業をしてみてどうだったか。
 - 体づくりの授業は、気持ちよく授業ができた
 - 実際に研修の中で、グループに分かれて運動を組み合わせで自分たちで作ったことで、子供達だったらこう動くだろうなってのがよくわかった。
 - お店やさん形式の授業をする時、子供たちがつくるのが難しすぎるのも自分が研修で実践したからよくわかった。
 - 組み合わせの運動については、白旗先生の本を参考にした
 - 〇〇しながら〇〇する っていうのは、後になってわかった。
 - 特に自分がわかっていなかったから、何と何を組み合わせているのかがわかっていなかった
 - 同時にするやつと連続してやるのの違いがわからなかった
 - 具体的に子供にわかるから絵を用いた
 - 研修の内容・行いかたについて
 - 単元計画を提示していただいたので

グループで別れて指導案を考えたのが 一番良かった

体づくりの研修は3回受けたけど 単発の技の話聞いていたけど繋がらなかった

単元レベルで考えるのは初めてだった グループの中に他地区の先生がいて、刺激になった

単元がブツ切れだったのが研修を通して、こういう流れでっていうのがスッキリした。

単元構成を考えて指導案を作るのは、よかった

同じ地区だと情報が限定されていて、他地区の先生からの刺激は大きかった。

●実践をしてみたの感想

○子供の思いから発信したらいいのだろうけど、文科省のパンフレットを参考にして、こちらから動きの1、2、3、4を提示して7時間単元→経験がないのと、時間がないの

で・・・

○研修で発問の仕方を自分が子供になったことで振り返りができていたので、同じように子供に提示することができた。

○なぞる形で、組み合わせを考えさせた。

○子供達はとても楽しそうに取り組んでくれた。

○研修でしたことをそのまま教室で実践できた

○ワークシートは、実態に合わせたので、大変だったけど、ゴールイメージが 腑に落ちたので

○授業に取り組むことが億劫なことはなかった

○初めて、単元を組んでやれた

●手を繋いで起き上がる活動の例

○子ども達は、隣のグループのを見ながらコツを掴んでてすごいなと思った

●授業の実際について

○とにかくたくさん経験させた

○グループでできるようになった。

○アスレチックというかたちで子どもたちがかつてにどんどんやった

○ルールを説明してからお手本を見せるチームもあった

○自分じゃ思いつかない動きを考えて。

○お店やさんが色々とコツを指導した。

○物を用意しておけば子どもは動くということから、この行いかたは良かった。

○そうすることで、子ども達はとても意欲的に動く

●どの教科の研究部？

○あっちこっち行ってる 今は国語

○内容がわかるとすぐに授業ができる

●研修の行いかた、1日研修という設定について

○研修が1日というのが良かった。

○地方の先生の効果をあげてほしい

→都会は、実践が集まるだろうけど、田舎は情報があまり集まらない。

○遠いと、2時間かけて2日間研修行くのは辛い

○保育園のお迎えとかあると億劫になる。

○知りたけど、どうしようかなって時に、2日間あると遠い人ほど身構えると思う

○1日で効果的にしてもらえるとよかった。

○1日に越したことはない

●今までなぜ体づくり運動の授業についてできなかったのか

○勉強不足

○用具を使うっていうのが、しにくい

→合同体育で100人ぐらいいると、道具を使うのが大変でその工夫が今までできなかった。

た。

→広くないとできないなあと

○イメージができなかったんだろうな

○単元として組み合わせながら試行錯誤している様子が

●昨年の研修は行かれましたか？

○去年は、育休中で 旦那は行ったみたいだったけど

●去年は単元づくりをしたが

○深く知りたいと 授業づくりをもっとしたいと思うようになる

●理論やってから実技のパターン多いけど、今回はそれを逆転させましたがどうでしたか？

○わかっている人は、理論が先がいいけど、わかってない人は、理論を先にしてもどうせわからない。

→わかっているつもりにはなれるけど、わかっていない

- 実技をしながら理論を重ねてもらえるとよく理解が進んだ
- やっている意味が理解できて、イメージができた

●同僚にどう波及するか？

●他の領域に波及する？

- 单元モデルがあったからこそ、单元まで自由にされるときついで、その大元があるとやりやすい
- 展開例がいっぱいあっても、わからなくなる。
- ベースがあるからできた

●研修の手応えが授業にどのように生かされましたか？

- 单元のゴールイメージが掴めた
- 持って生き方、基本もした、組み合わせもした、お店やさんもした
- 子どもだったらこう動いたらいいんだということが具体的にわかった。
- 授業者としてわかった
- 自分の経験がないのに空想では考えられない。

●体づくり運動の指導案などはこれまで書かれたことがありますか？

- ない

○体づくりの中学年はばきとわかった

- 高学年はわかんないけど、低学年は基本の動きを丁寧にしていけばいいんだろうなっていうのはイメージがわいた

○高学年になるとわからないけど、どう発展してしていくのかって聞かれると、、、

- 低学年の頃にもっと基本のことをしていると、中学年とかでもう少し深められると思います。

●学習指導要領を研修でみましたが？

- 学習指導要領の解説をみたときに、ここに書いてあったのかって言われてたんですけど
- 指導案を書く時には見るけど、そうじゃなかったら具体的なワークシートなどから入ります。

すぐ使えるやつは何か？ って考える。

○体づくりの授業をちゃんとしたことがなかった

- 学年や合同体育でしたことはあったけど、体づくりの研修を受けてわかんなかった

●他のクラスの実践はどうでしたか？

○合同でできたら良かったけど、日程の関係でできなかった

○他のクラスの先生には、ワークシートができてから共有しやすい

●他クラスの先生は研修を受けていないので、イメージを共有しにくいと思うのですが？

○アイパッドで撮っているからイメージは共有できる

○残りの2クラスもやるっていった

○（校長）校内研修で去年の内容は全体に伝えている

○授業の実際、実践入れて自分たちと考えないと現場に帰った時に具現化されない

●苦手な先生ばかりで研修しましたが、どうでしたか？

○ボールゲームとかで体育経験で上手い人がいると、それに引っ張られるし、恥ずかしい。先日、表現にポンと入った時には、場違いだなと思った。自分が知らないところ知らない言葉が飛び交って勝手に展開していくので

○層を決めて研修してもらえるとありがたい。得意な人がいると、子供もそうだけど、ポンポンと進んでいくんで思考が追いつかないので、層を決めてもらった方が参加しやすい。

○ノーマルなスタートができるといい

●体づくり運動を今回行ってみてどうでしたか？

○子供の思いとかゴールここまでって築き上げていないけど、やろうか、やろうかで引っ張って行ったので、

子供発信ではないんだけど、やって良かった。

○こっちが簡単だと思ってるのも意外とできない子もいて・・・

○普段見ない、経験しない動きもできないので、今まで本当に経験していない

○子供よく考えました。物を与えていけば、子ども達は自由に考えて頑張れるということがわかった

●ICTの活用について

○（撮った動画を見せて）動画を見せてもイメージがわく

○うちのクラスができると多分隣のクラスもできる

○経験が一緒の動画を見ると理解できる。（文科省から示されている動画との比較で）実態のレベルが違うから、現場では実態によりけりかなあと。ちゃんと経験が積み重なっていないと、お手本のようにはならないので

●カードについて

○私がわからないので、自分が持って行って使うために絵をたくさん入れた。また、絵があると、「やりたい」と子供たちがいてくれるので良かった。

2節 2018年2月22日 福岡県B小学校 X教諭

●研修について

- 研修の内容を体育研究所の先生がペーパーに落とし込んでいるので、それを活用した。
- 学校の課題は長座体前屈と体育授業の学びを日常的につなげることです。

○3人が講習を受けた 2年目2人 学校15学級中11学級が二十代なので大変です

○スポーツ好きだけど、体育は。。。

○1時間の進め方、上手な子への指導、場作りに時間がかかる

○苦手な先生、大集合に惹かれた

○体育研究所の記録をもとに、次のような実践を行ってみた

- ① スキップ リズム体操の中でスキップを日常的にやっている
- ② 体でじゃんけんは表現でやったのでやらなかった
- ③ あんたがたどこさは、合同体育で盛り上がった 自然と声が上がった
- ④ ジャンプ回転
- ⑤ 座って回転 男子が全然できなかった できている女の子にコツを聞いても言えない サーキットゲームをした後は、うまくできるようになったという認識
- ⑥ 背中合わせでたつ 子供は難しいと言ってたけどコツさえつかめば
- ⑦ じゃんけん回転 ボールキャッチ
- ⑧ けんけん列車はじぶんたちがきつかったから取り入れなかった

15 動きを創ろう 先生自身は運動を組み合わせるってのが自分が一番よくわからなかった。

だけど、子供たちは盛り上がった。ただし、お手本になった子供たちに引っ張られたその他の動き

- 柔軟性 教えてもらったのを活用したりした
- ダブルタッチ できるできないがはっきりしていたので子供たちは盛り上がった
- 子供の感想は、体がほぐれた、コツがわかったら楽しかったなどであった。

●授業を行ってみてどうだったか

○自分がやってみて

1時間の組み立てが難しい

動き作りは、他のグループに挑戦するとコツや課題がはっきりする

どこでもできて日常化しやすい動きはいいなと思った。

文科省のパンフレットは、わかりやすかった。

○レシピカードがいっぱいあっても、どれとどれを組み合わせればいいのか？

献立が素敵に見えても・・・ 力量とは別

●午後の研修は、授業の流れを意識したけれど、そちらの研修の内容は？

- 自分が体験して、勉強不足なのですが、運動の組み合わせと運動を取り入れたゲームが自分の中ではっきりしてなくて・・・ペアでもどう違うの？っていうのがあった。
- 子供たちにしてみると、私はゲームを作ってもらおうつもりだったけど、子供たちは工夫をした。研修では分かり切らなかったけれど、子供の姿を見てわかった部分があった。
- ワークショップをしたかったんだけど、時間的に厳しくなった。子供たちが、どんどん工夫して行ったので
- 研修で行った指導案作りについては、正直言って最初は辛かった。
- 実際は、午前中にだいぶ動いていたので、先生たちとする時に、あれは難しいよね・・・とかっていういろんな意見を取り入れられた。
- ただ、男性の先生がもっといいものにと思っていたのに取り入れられなかった。
- あの短時間で、よく指導案って作りましたね。

●講義→実技の流れが多いけれど、逆バージョンは？

- 苦手な先生集合・・・一緒に行った20代の先生は、緊張されていた。第1時の軽いものからスタートされたので、ご飯食べる時も楽しかったと言っていた。
- こういうのはありがたいなあと
- 後半になると、研修の順番に対する意識は吹っ飛んでいた

●グループで指導案作っていくときはどうでしたか？

- 知らない先生方の中で、ドキドキしていた
- 皆さん、共通の実践をしていたので割と上手くいっていたと思いました。
- どれを選んでもいいのか、ってことを考える時に、自分たちに根拠がないから、とりあえずこうかなあって感じで。

●2グループで指導案を見せ合った時は？

- 同じ体験をしていたので、相手は若手中心、自分たちはベテランが何人かいたのですが、わかり会えました。また、汗かいてやっていたので、自分の体の中でわかったから、これはこうじゃないですか、安全面とか具体的な内容に話が向かった。

●学習指導要領の解説を開いてもらって、目的などについて検討してもらいましたが、いかがでしたか？

- 一緒に考えた先生は、1名ベテランの先生は、読まれたことがあると聞いていたけれど、若手の先生は、見たこともなかったと言われていた。

●女性を対象に研修をしましたが？

- 体育の研修って、女性陣が参加しにくい・・・男性ばかりだから、こわい。できない人は、ダメなんじゃない？とってしまう。
- 今回は、ネーミングが後押しされていて、参加しやすかった。

- 実技は、参加したら楽しんですけど、みんな仲良くなるので。ただし、一回参加したら参加したくなるんですけど、はじめのハードルは高いんです。
- 女性のみの方が、人数が集まる

- 体づくり運動について実践をしてみてくださいですか？
- 活動すると楽しいんですけど、教科として成立するのかな？と思っていた。
- 学級作りに役に立つ。

- 授業の単元イメージは？研修前後で変わりましたか？
- 単元だけじゃないんですけど、講習を受ける前は、いろんな動きをたくさんさせた方がよいと思ってたんですけど、気づきやコツなんかも研究の時に聞いていたので、単元通して、コツなどを子供達には伝えることができました。
- 第1時とかに動いたりとかは取り入れたけど、柔軟に内容を取り入れた
- 最初は、あんたがたどこさが自分自身が行って楽しかったの、そこから取りいれました。

- 他の領域への波及効果は？
- 体育であんたがたどこさはしたことがなかった
- 低学年中学年ではあったんですけど、体育で成立するってきいてびっくりした
- いろんな動きなどはアバウトにさせていたのが体育でも使えるんだって気づいた。
- 表現運動は、松原ソーランがあるので、村田先生の研修を受けて勉強していたので、これにも使えるんだっておもいました。
- コツや気づきは、他の領域でも使えると思いました。
- 手を挙げさせて聞くことは、よくしていたけど、実は、講習中に褒められて嬉しくって、みんなができるようになって。研修の中で自分が褒められて、自分が子供と同じように嬉しかったのから、今までは、教師のテクニックとして使っていたけど、子供をスターにしたいなって使うようになりました。

- この実践を機に変えたい内容は？
- これを、やった後に体育委員会の子供達に協力してもらって、動きをカード化して並べ直して、次の学年の先生に使ってもらおうとしてる
- 今回は、口で説明してたけど、子供たちがやっているのを使おうとしている。そっちの方が、若い先生方が使いやすいと思う。
- 絵はわかりにくいので、写真にしようと思っています。自分のレベル、知っている顔の子がやっている、子供達はイメージしやすく、機能する。
- パンフレットは教師にとってよかった
- 知っている子供という意味では、そのカードはどれぐらいの期間使えると思いますか。
- 顔見知りというなら五年間使える
- 体操服が同じだと思う子供が全然違う
- 同じ集団というなかで、子供達の学びは変わる。

●実施方法について

●授業改善するとすれば、どうしますか、そのために必要な情報は？

- つくる・組み合わせるなどは、苦しんだ割には、楽しかった
- 面白いなど思ったので、もっと詳しくしたかったな
- あの時は、何が大切なのかとかがわからない部分があった
- タブレットは使っていきたい。高跳びとかがとりいれられるようになってきたので他のところでも活用したい。

●研修の方法については？

- 服装と、集合走れがビックリした。研修に挑む姿勢 体育の匂いがした。集めた時に広がらないなど、体育の授業の時に、メリハリが必要だなと思った。
- 褒めてもらったところは、よかった。
- 苦手な先生ほど、知らない世界だったけど、規律があってよかった。
- マネジメントの仕方について、指示の仕方、モチベーションの上げ方についても研修だったので
- グループで別れてやったけど、(センターが分けていたが) グループは、午前中の動き作りの時のグループだったので、あのグループでやったので、仲良くなった上で、考え方の違いが明らかになったところとかがわかった。
- つくって、苦しんで、楽しんで、頭を使ってという流れは良かった。
- そのグループの先生とは、その後、連絡は取っていないけど、覚えている。次の年に、去年来ていたよねっていう話をしていくと思う。

3節 2018年2月23日 熊本県C小学校 Y教諭

●研修をしたことをどのように生かすことができたか 内容に関する事について教えてください。

- 白旗先生からもらったのを、もとに作りました。
- 3年生の時に単元としてはしていないような感じだったので、3年生の復習として動きを多めに取ったが、それでも時間が足りなかった。
- パンフレットを元にしたのと、実際に実技研の時にやったのを織り交ぜながらやった。
- 流れがイメージしやすかったのが研修で一番理解がすすんだ部分です。
- 紙に書いてあっても、なかなか理解できないので研修は良かった。
- 2人組からグループで楽しむところまでを体ほぐしとして取り入れていきました。ここから、それぞれの体つくりの内容に入っていったというのがイメージしやすかったなあと思います。

○移動する運動についてですが、パンフレットにあったように、はじめ一人でやって、いろんな方向に進むなあというのが良かった。

○パンフレットのおかげで、自分なりに順番を考えられた。

○自分で考えるには限界があって、私が思いつかないような内容もあって、役に立ちました。

○用具のところで（フラフープ）子供たちが競争したいってなって、面白かった。フラフープを使ってボールを運ぼうっていうのが出てきました。その中で、作戦立てやすく、単元の後半での学習につながっていった。

力比べは、どこまでさせるのかっていうのがあって怖かったけど、子供たちに聞くと、これが一番面白かったといっていました。

○1つ1つが面白かったんだけど、4時間で全部体験させるっていうのは、時間が足りな

くって、3年生からのカリキュラムができていればいいけど、なかなか体育が得意な先生ばかりでなくて、話もできない状況でした。

○後半になってすごく悩みました。ここで運動量が激減するんですよね。考えさせた

い、思考させたいと思うんだけど、止まっている子たちはずっと止まっている。5時間目

の反省を解消しようと思って、6時間目は、つくったものを簡単に発表させて、私が手動

で、運動量が多くてみんなが関わらなければならないものをピックアップして全員でやりました。運動量が確保できるように工夫して、やり方も変えてみて、やっとなんとか。

○子供たちが考えるのと、教師主導で行うのとを入れ込みながら工夫していかないと

○単元の後半が特に苦しかったです。

●研修の進め方についてはいかがでしたか？

○指導案づくりについてですが、前半でも後半でも思ったのは、体育で45分間を考える

考え方が先生によって異なっていました。私の中では、思考の部分を入れたいんだけど、入れられない方が結構いらっしやって・・・

体育の1時間の中で、運動量としっかり思考を入れる部分との両方を入れないといけない

思うんだけど、入れられない先生とすり合わせをしきれなかった。

○1人でも意識の高い先生がいると、全然違うんだけど、今回はそうじゃない先生が多か

ったので、1時間の流れの提示があると良かったと思います。1時間をつくるのは良かったです。

○体づくりを考えるにしても、準備時間の時間がなかなか取れない

○体育は柔軟な教科だなと改めて感じました。授業づくりの中で先生方の悩みは同じようなものがあつた。

○めあてをたてて、練習内容をどうするって？やなんているなあと感じた。

○悩み相談ができる時間としては、ありがたかった。

○あの1時間を、持って帰ってそのまま使えるかって言われると。。。

○体ほぐしの2、3時間どうするかって考えたけど、結局どうすれば良かったのかについてわからなかった。

○体育って、他の教科と比べて授業をつくる元になるものが少ない気がします。

○体育にはまっている先生は何でもかんでも取り入れられて

○この学校に来て、1年生がずーっとドッジボール何ですよ。それがもったいなくって、

○この単元はこうやってやったらいいんだよってわかるものが、沢山あった

●体づくり運動の授業イメージできましたか？

○はい

●体育の研修にはどれぐらい参加してましたか？

○出産前までは、熊本市の小学校体育研究会に所属していた。月1回と年4回ぐらい。そ

れでも体育難しい 体育できる先生って、学習カードも3枚ぐらい作られて、ポスター掲示されたりするんですけどわたしたちにはそんなに時間がない。どうやって効率よくやれるかを求めている。

○お母さん先生を見ると準備に手が回らない。それをどうクリアするのか？が課題

○パンフレットがあって、一回コピーして今回ように書き込めるようにして、一冊書き込んだんですけど。

パンフレットみたいなのがあったら先生方はもっと体育しやすくなると思う

○単元の1時間の流れを表にして手元に持っておくっていうのを今までしなかったので、

他の領域でも流れを意識してつくって、初任者と一緒にすすめています。それは、わたしもしやすい。

○体づくり運動を単元でしたことがなかったですが、帯じゃなくて単元ですることは面白かった。やっぱりこうやっていかないといけないなっていうのが

●他の先生方へ、今回の研修をどのように伝えられていますか？

○初任の先生に教える時に表を渡して学習カードを共有しています。

○1時間の流れをシミュレーションしている。

○わかりにくいところは合同体育でしたりしている。

○5時間目、6時間目 t1 t2 を入れ替えてやってみてる

T1を見ることでイメージをしやすくなったという初任者の声もある。

初任者が T1 をした時のコメントは、2人の目があると子供達見やすいですよ。

○ベテランの先生への相談はしている。授業のながしかた、練習方法など サッカーのコートに広さなど。

資料を沢山持っていらっしやるので助かる。

●他の領域など、研修ニーズはありますか？

○簡単そうでむずかしいのがサッカー。

○器械運動が研修ニーズが高い。補助の仕方がいろいろ出ているので、本当にこれでいいのかっていうのがある。教えてもらったけど、女性だとできないものもある。

●このような大学の教員が行う研修と先生方で集まっている研修でのニーズの違いは？

○小学校体育研究会では、思考力をいかに高めるのかに目標を置いてそれを授業にどのように反映していくのか、わたしの興味もそこにあるので。学年主任からは技能面からアドバイス

○参加できる時間帯が、公的なものだと出やすい時間がおおくて助かる。

○今回の研修に参加したのは、白旗先生が来られるからというのが大きかった。体づくりのニーズもあります

●女性だけの研修でしたが、どうでしたか。

○女性ならではの力が弱いことや、男性ではできることが女性ではできないこともあるので、安心感があった。

○とても参加しやすかった。

○運動量も男性に合わされていくので、女性って限定されているのは参加しやすかった。女性だけだと見学者はいない

●同僚との情報共有は？

○お互いに授業を撮りあいしていて、携帯を使って映像を見せ合ったりしている。

4節 2018年2月23日 熊本県D小学校 Z教諭

●授業内容について、難しかったこと、悩んだことはどうでしたか。

○4つの運動遊びを全て取り入れないといけないのかな？

○子供の実態とかいろんなことを考えていいよと言われたので、今回は用具操作と移動の遊びをした

○学習指導要領を読むだけだと、わからなかったけど、副読本などをつかった

○絵があったので参考になった。

○単調な動きだけだと子供達が飽きてしまうので、子供たちのアイデアを取り入れる

○去年までいた学校が校内研に体育をしていたり、体力向上の指定校をうけていたのでなんとなくイメージはあった。

○具体的には、以下のような内容に取り組んだ。

・缶ぽっくん

マット並べてやっていたのが、缶ぽっくん陣取りになった。マットを敷く形はグループごとに考えた。

・フラフープ

回すぐらいしか知らなかったので、1分間で何回行ったり来たりができるかなをした

まわす 跳ぶ ボールを使う 平均台を出して回しながら渡ってみよう

・ワンワンロード

前向き、後ろ向きなど タイマーを100均で買ってきて渡していたら、競争が始まっ

て面白くなった。

・ゴムを使って

はじめはただ跳ぶだけの動きだった。縄跳びの経験をつかって、上か下か真ん中か？をするようになった

○実際に授業をやって見て、私たちが思っている以上にいろんな遊びを考えるのが上手い

○タイムを測定したり、競争を取り入れたりすることで、子供たちは意欲的になった。

○私たちが子供の頃していた遊びが体育の中でできるようになってきた。

○授業後、宝運び鬼でもいろんな動きを工夫するようになってきた。宝運び鬼は3年生で行うラグビーボールを使ったがその中で、いろんな工夫が出てきた。また、マット遊びでもいろんな工夫が出てくるようになった。

●体づくりの研修を受けて授業に使えたことは？

○みんなでアイデアを出して、フラフープや縄だとかこんなことができるっているアイデア出しは、自分では

できないので、いろんな先生がいたのは良かった

○授業の流し方について理解できた。

○絵が入った資料はわかりやすかった。

●もっと知りたかったことは？

○指導要領だけ見てもわかんないから、こんな風にしたりとか道具とかを沢山出してもらおうといいかな。

○動画があってもいいかな

○学習カードは毎回悩みます。元になるものとかがあると、作り変えたりできるようなものがあるといいな。学習カードを1から作るのは時間がかかるので。

●研修の進め方については？

○体づくりに関しては、自分でやった実践とかを持ち寄ってグループ協議なんかに入れるともっとディスカッションが深まったのではないかなと思う。

○実技が先は、心も体もほぐれたので良かった。

●これまで、体づくり運動について単元を組んで実践していたか？

○昨年（前勤務校）は校内研でやっていたので 授業づくりは、みんなで苦労した。

●今回の実践を通して他の領域にいきたことがありましたか？

○今、マット運動をしているんだけど、今までは教師主導でやっていたのですが、体づくりで子供達がいろんなことをするのを目の当たりにしていたので、子供に任せる部分が出てきた。

●体育の授業づくりの研修とかは年間どれぐらいありましたか？

○今年は白旗先生の2回

○昨年は、ラグビーに興味があったので参加した。あと、公開授業を見に行きました。

○研修に参加したいけれど、子供が小さいので夜は厳しい

●今回、研修に参加していない初任者に伝えるときに工夫したことや苦労したことは？

○学習カードを見せて、活動内容を共有していった。

○音楽をいつも使うので2分10秒とかのマネジメントがしやすいようにデータを共有している。

○何回か、イメージがわからないときは授業を見にきてもらった

○宝運び鬼の時、自分はこういう意図でこういう動きを入れているって言うんだけど、どう意図があってやっているのかは伝わりにくい。

●研修中は、その動きの意図などをよく考えた？

○普段やらない動きが出てくるので、はってくぐるなどを考えた。子供には、普段やらない動きをやらせたいな

●研修は3年生をターゲットにしたが2年生にする時に変えた内容は？

○特に、楽しさを重視した。

○あんまり難しくなくて子供達を楽しめるように、教具を工夫した。竹馬とかもあるけれど、保育園児でもできるからということで缶ポックリを取り入れた。

●他の領域だと、どのような研修を望みますか？

○跳び箱です。学年でも考えているけれど、高学年が多かった先生だと開脚跳びなどになっちゃうんですけど、低学年ならではの遊びを学びたい。イメージが湧きにくいです。

●女性だけの研修でしたが、この点はいかがでしたか？

- 女性だけの方が話しやすい。男性がいると専門的なことになってしまい、わからないことを言えない
- 体育が好きな人ばかり集まると、まず言葉がわからない

4章 まとめ

1節 成果として

- 参加者を体育授業の苦手な教員として、参加者を絞ったことが応募しやすい要因になっている。特に熊本は女性教員に限定したことで参加者に安心感を与えていた。
- 午前中に授業づくりを意識した実技研修を行い、午後にその実践を基に指導案づくりをしたことで内容の系統性がわかりやすく、理解しやすかった。
- 実技研修の間に、適宜、プレゼンテーションで情報を補ったことが、体づくり運動領域の内容や指導方法の理解を促進した。
- 午後の演習では、学習指導要領解説で指導内容を確認した上で、具体的な授業づくりを実施したことにより、活動だけでなく、指導内容を意識した授業づくりがイメージできた。
- グループ単位での演習であったため、対話を通して、悩みの共有や身の丈に合った授業づくりができた。

2節 課題として

- 1日に実践できる研修内容は限られてしまうが、毎年継続できれば、参加者の授業力は確実に上がっていく。単年度開催になるのが残念である。
- 組み合わせの運動など、領域固有の知識が必要な場面では、一層ていねいな指導が必要であった。
- 体育の苦手な教員のみで研修を実施したため、アイデアが広がりにくかった。授業づくりのヒントをもう少し出した方が時間内に効率よく指導案が作成できたと感じた。

第Ⅳ部 教師の効力感に関する検討

本章は、2016年度の調査を継続している部分が多いため、2016年度報告書の内容を一部再掲する。なお、分析についてはより詳細に行なっている為その部分については追記する。

1章 先行研究の検討

1節 自己効力感研究

自己効力感とは、社会的学習理論を体系化した Bandura が定義した概念である。社会的学習理論においては、人間の行動を決定する要因として「先行要因(生理・情動反応、学習の生得的機制、予期機能)」、「結果要因(外的強化、代理的強化、自己強化)」、「認知に基づく動機づけ、随伴性の認知的表象」があげられ、それらの要因が複雑に絡み合いながら人と行動と環境という三項間の相互作用の循環が形成されると述べられている。Bandura(1977)ⁱは、行動決定の先行要因としての予期は結果予期と効力予期の二つがあるとし、結果予期を「ある行動がどのような結果を生み出すかという予期」とし、効力予期を「その結果が生ずるのに必要な行動をうまく行うことができるかどうかという予期」と述べる。ここで重要なのは、環境の出来事についての結果予期よりも、自己がある結果を生み出すために必要な行動をどの程度実現可能であるのかと認識しているかという自己効力感である。

この自己効力感は、次の三つの次元に沿って変化するとされている。それは、「水準(自分にはどこまで解決可能かという予期のレベルの高さ)」、「強度(どのくらい確実に実行できそうかという確信の程度)」、「一般性(どの程度まで、対象・状況・行動を超えて広がりを持つか)」である。このような次元から自己効力感を高めていくアプローチがとられることで、教師自身が体育授業をできそうだと感じ、日々の実践に取り組めるようになると考えられる。

2節 教師効力感研究

自己効力感研究の中でも、一般性セルフ・エフィカシー尺度の研究と特性的自己効力感尺度の研究が近年なされてきており(池辺・三國、2014)ⁱⁱ、後者は、行動遂行場面に限定した尺度化が検討されているところである。そのような自己効力感研究を背景にしながら、教師行動に限定した教師効力感研究がなされている。

教師教育の分野では、「教師効力感」として研究が進められつつあるが、まだまだ歴史も浅く研究途上である。教師効力感とは、一般的に「望ましい教育的結果を遂行できるという教師の信念」(淵上ら、2004)ⁱⁱⁱ、p1)という概念であるここでは捉えておきたい。

教師の自己効力感に関する主な研究として、松田・鈴木(1997)^{iv}、(1999)の中堅教師を対象とした研究がある。これらの研究では、単に経験年数の増加が自己効力感の増加にはつながらず、教師を取り巻く人間関係のあり方が教師の自己効力感の形成要因として重要であると結論づけている。この結論は鈴木・松田・石田(2001)^vによって明らかにされた、教師の自己効力感のあり方を総合的学習の時間に対する態度との関連における研究の結論とも一致する。また近年、教師の多忙化やいじめ・学業不振・不登校などの様々な深刻な問題を抱える教育現場の現状から、教師のメンタルヘルスを保つために教師バーンアウトと教師効力感との関連を明らかにする研究も散見される。その中でも谷島(2013)^{vi}は、教師本来の職務である児童生徒に真剣に向きあうことでバーンアウトを予防することができ、その環境を多忙な教師に提供することが教師のメンタルヘルスを保つ上で重要であると指摘している。一方で、上述した松田・鈴木たちの研究の結論と同様な、教師を取り巻く環境の重要性を明らかにした研究に淵上・西村(2004)の研究がある。淵上らは教師効力感の低さがバーンアウトの高さと関連し、協働的効力感(「学校組織の改善に向けて、同僚と協力し合う協働を軸とした教師効力感」(淵上ら、2004、p1))の形成が職場の環境と密接に関連しているだ

けでなく、バーンアウトの軽減に欠かさない要素であると指摘する。また貝川・鈴木(2006)^{vii}の「協働性」や「職場満足」の2因子からなる学校組織特性と教師効力感、バーンアウトとの関連を明らかにした研究も散見される。貝川・鈴木は学校組織特性が高いことは教師効力感を高め、バーンアウトの要因となる「達成感の後退」を軽減すること、また教師力量の限界を感じることでバーンアウトに陥りやすくなると結論づけている。加えて、教師の力量とバーンアウトとの関連についての研究には、伊藤(2000)^{viii}の研究がある。伊藤はバーンアウトの要因について、教師観のタイプで要因が異なることを明らかにし、教師の能力に対する自信のなさ、つまりは授業や学級経営などに対する苦手意識がバーンアウトに関連すると述べる。

2章 目的

以上、概観してきたように、教師効力感研究は、教師のやりがいやバーンアウトとどのように関連しているのかが検討されてきている。つまり、教師の置かれた学校という組織内において教師の効力感が検討されてきたということであろう。ところが、小学校教員に目を向けると、その仕事内容は多岐に渡り、その中でも得意な仕事とそうでない仕事があると思われる。さらにいえば、小学校教員の教育に関わる実践は、主に教科という形で枠組みが形成されており、得意教科不得意教科があることはこれまでも様々な研究において指摘されてきたところである。つまり、教科固有の学習内容と、白旗(2013)^{ix}が指摘するように教科固有の指導に関する知識がある以上、教科ごとの教師効力感研究をしていかなければ、現実的に活用できる尺度にはならないと考えられる。よって本研究では、教師効力感のなかでも学級経営等の内容を除外した、教科指導＝体育の授業に関わる内容の尺度を開発することを目的とする。

3章 研究方法

研究方法は、質問紙調査法を用い、学校単位の留め置き法を用いることとした。なお、今年度は教員の全体傾向をつかむ必要があったため、O 県 K 市の教員に対して悉皆調査を行うこととした。

1節 調査対象者

調査対象者は、O 県 K 市立全校の小学校教員 1654 名であった。なお、有効回答された 859 名(男性 331 名 (38.5%)、女性 527 名 (61.5%))を分析対象とした。

2節 調査時期

調査時期は、2016 年 11 月の 1 ヶ月間であった。

4章 尺度の作成

1節 体育授業版教師効力感尺度の検討

教師効力感研究では、学級経営に関する内容と教科指導に関する内容に分けられて検討されてきている。本調査では、淵上ら(2004)*の研究をもとに学級経営の内容を除外した教科固有の内容を抽出し、5名の研究者とともに体育固有の内容などを検討し調査項目を決定した。その結果、以下の19目を設定することとなった。

- ・児童の実態に応じた道具を工夫することができる
- ・もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる
- ・児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる
- ・実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる
- ・休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる
- ・もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる
- ・児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える
- ・授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている
- ・必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる
- ・ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる
- ・身体感覚イメージを子どもに伝えることができる
- ・子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる
- ・状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる
- ・特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる
- ・体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる
- ・子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる
- ・単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる
- ・グループ学習をうまくコーディネートすることができる
- ・自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

2節 教師効力感に影響を及ぼす要因

体育授業版教師効力感尺度を検討する上で、影響を及ぼすと思われる要因を以下のように設定し、検討することとした。

- ①性別
- ②体育授業の得意不得意意識
- ③現在のスポーツ実施
- ④過去の体育授業に対するイメージ
- ⑤過去の運動・スポーツ好感度

5章 教師の効力感調査の結果

1節 調査対象者及び調査時期・調査方法

質問紙調査法を用い、O 県 K 市立全校の小学校教員 1654 名を対象とした。調査時期は 2016 年 11 月の 1 ヶ月間である。K 市の小学校教員に対して悉皆調査を行うため、K 市の体育部会会長から調査実施の許可を得た後、同時期に行われた K 市の体育授業研究会に参加していた K 市の各学校の教員に、その場で研究の趣旨を説明し、同意を得て調査用紙と返送用封筒を配布した。また、研究会に参加していなかった小学校に対しては、研究者と同研究室の研究者 2 名が直接各学校に訪問し、研究の趣旨を説明した上で、同意を得て調査用紙と返送用封筒を配布した。各学校アンケート実施後は研究者の元へ返送用封筒を用いて返送するようお願いをし、郵送にて 986 名から回収を行った(回収率 59.6%)。それらの中から有効回答された 859 名(男性 331 名(38.5%)、女性 527 名(61.5%))を分析対象とした。

分析対象者の属性は次の通りである。

- 1)年代は 20 代が 256 名(29.8%)、30 代が 181 名(21.1%)、40 代が 184 名(21.4%)、50 代が 238 名(22.7%)であった。
- 2)現在スポーツを行っている教員は 370 名(43.1%)、行っていない教員は 486 名(56.6%)であった。
- 3)体育授業の指導が得意かどうかについての質問に対して、とても得意であると回答したのは 8 人(0.9%)、わりと得意であると回答したのは 311 名(36.2%)、あまり得意でないと回答したのは 493 名(57.4%)、全く得意ではないと回答したのは 47 名(5.5%)であった。
- 4)過去の体育授業に対する好感度については、とても好きだったと回答したのは 428 名(49.8%)、少し好きだったと回答したのは 238 名(27.7%)、あまり好きではなかったと回答したのは 154 名(17.9%)、全く好きではなかったと回答したのは 35 名(4.1%)であった。
- 5)過去の運動・スポーツに対する好感度については、とても好きだったと回答したのは 509 名(59.3%)、少し好きだったと回答したのは 223 名(26.0%)、あまり好きではなかったと回答したのは 102 名(11.9%)、全く好きではなかったと回答したのは 23 名(2.7%)であった。

2節 各項目の平均値と標準偏差

体育授業版教師効力感の測定項目の平均値と標準偏差は下記の表IV-1 に示す通りとなった。

表 IV-1 体育授業版教師効力感測定項目の平均値と標準偏差

体育授業版教師効力感		最小値	最大値	平均値	標準偏差
1	児童の実態に応じた道具を工夫することができる	1	7	4.46	1.028
2	もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる	1	7	4.56	.963
3	児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる	1	7	4.62	.953
4	実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる	1	7	4.51	1.059
5	休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる	1	7	4.55	1.321
6	もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる	1	7	4.17	1.072
7	児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える	1	7	4.13	1.062
8	授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている	1	7	3.81	1.104
9	必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる	1	7	3.80	1.304
10	ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる	1	7	3.52	1.287
11	身体感覚イメージを子どもに伝えることができる	1	7	4.00	1.131
12	子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる	1	7	4.02	1.020
13	状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる	1	7	5.07	.912
14	特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる	1	7	4.31	.970
15	体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる	1	7	3.90	1.088
16	子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる	1	7	4.33	1.008
17	単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる	1	7	4.42	1.046
18	グループ学習をうまくコーディネートすることができる	1	7	4.25	1.067
19	自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる	1	7	4.26	1.114

3節 各要因と各項目のクロス集計

1項 性別と各項目のクロス集計

性別と各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-2～表IV-20 のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果 1%水準で有意な値を示した。

表 IV-2 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	2	18	119	145	220	23	0	527
		性別の%	.4%	3.4%	22.6%	27.5%	41.7%	4.4%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	1	3	29	55	162	74	7	331
		性別の%	.3%	.9%	8.8%	16.6%	48.9%	22.4%	2.1%	100.0%
合計		度数	3	21	148	200	382	97	7	858
		性別の%	.3%	2.4%	17.2%	23.3%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%

表 IV-3 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	2	15	89	129	262	29	1	527
		性別の%	.4%	2.8%	16.9%	24.5%	49.7%	5.5%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	0	3	27	62	167	69	3	331
		性別の%	0.0%	.9%	8.2%	18.7%	50.5%	20.8%	.9%	100.0%
合計		度数	2	18	116	191	429	98	4	858
		性別の%	.2%	2.1%	13.5%	22.3%	50.0%	11.4%	.5%	100.0%

表 IV-4 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	2	8	82	119	275	40	1	527
		性別の%	.4%	1.5%	15.6%	22.6%	52.2%	7.6%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	0	7	26	58	170	65	5	331
		性別の%	0.0%	2.1%	7.9%	17.5%	51.4%	19.6%	1.5%	100.0%
合計		度数	2	15	108	177	445	105	6	858
		性別の%	.2%	1.7%	12.6%	20.6%	51.9%	12.2%	.7%	100.0%

表 IV-5 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	2	18	101	134	230	41	1	527
		性別の%	.4%	3.4%	19.2%	25.4%	43.6%	7.8%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	1	9	34	62	139	81	5	331
		性別の%	.3%	2.7%	10.3%	18.7%	42.0%	24.5%	1.5%	100.0%
合計		度数	3	27	135	196	369	122	6	858
		性別の%	.3%	3.1%	15.7%	22.8%	43.0%	14.2%	.7%	100.0%

表 IV-6 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	16	30	116	115	166	75	9	527
		性別の%	3.0%	5.7%	22.0%	21.8%	31.5%	14.2%	1.7%	100.0%
	男性	度数	2	7	28	45	120	105	24	331
		性別の%	.6%	2.1%	8.5%	13.6%	36.3%	31.7%	7.3%	100.0%
合計	度数	18	37	144	160	286	180	33	858	
	性別の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.3%	21.0%	3.8%	100.0%	

表 IV-7 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	7	30	161	158	153	17	1	527
		性別の%	1.3%	5.7%	30.6%	30.0%	29.0%	3.2%	.2%	100.0%
	男性	度数	2	3	42	88	152	37	7	331
		性別の%	.6%	.9%	12.7%	26.6%	45.9%	11.2%	2.1%	100.0%
合計	度数	9	33	203	246	305	54	8	858	
	性別の%	1.0%	3.8%	23.7%	28.7%	35.5%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-8 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	9	29	147	196	127	19	0	527
		性別の%	1.7%	5.5%	27.9%	37.2%	24.1%	3.6%	0.0%	100.0%
	男性	度数	1	3	53	91	127	54	2	331
		性別の%	.3%	.9%	16.0%	27.5%	38.4%	16.3%	.6%	100.0%
合計	度数	10	32	200	287	254	73	2	858	
	性別の%	1.2%	3.7%	23.3%	33.4%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-9 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	14	59	204	164	79	7	0	527
		性別の%	2.7%	11.2%	38.7%	31.1%	15.0%	1.3%	0.0%	100.0%
	男性	度数	2	10	66	94	122	35	2	331
		性別の%	.6%	3.0%	19.9%	28.4%	36.9%	10.6%	.6%	100.0%
合計	度数	16	69	270	258	201	42	2	858	
	性別の%	1.9%	8.0%	31.5%	30.1%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-10 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	31	82	174	138	94	7	1	527
		性別の%	5.9%	15.6%	33.0%	26.2%	17.8%	1.3%	.2%	100.0%
	男性	度数	6	16	56	66	124	57	6	331
		性別の%	1.8%	4.8%	16.9%	19.9%	37.5%	17.2%	1.8%	100.0%
合計	度数	37	98	230	204	218	64	7	858	
	性別の%	4.3%	11.4%	26.8%	23.8%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%	

表 IV-11 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	43	108	178	116	78	4	0	527
		性別の%	8.2%	20.5%	33.8%	22.0%	14.8%	.8%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	11	21	80	81	101	34	3	331
		性別の%	3.3%	6.3%	24.2%	24.5%	30.5%	10.3%	.9%	100.0%
合計		度数	54	129	258	197	179	38	3	858
		性別の%	6.3%	15.0%	30.1%	23.0%	20.9%	4.4%	.3%	100.0%

表 IV-12 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	14	47	159	155	144	8	0	527
		性別の%	2.7%	8.9%	30.2%	29.4%	27.3%	1.5%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	2	10	58	90	134	27	10	331
		性別の%	.6%	3.0%	17.5%	27.2%	40.5%	8.2%	3.0%	100.0%
合計		度数	16	57	217	245	278	35	10	858
		性別の%	1.9%	6.6%	25.3%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%

表 IV-13 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	8	37	159	197	113	13	0	527
		性別の%	1.5%	7.0%	30.2%	37.4%	21.4%	2.5%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	2	5	52	96	150	25	1	331
		性別の%	.6%	1.5%	15.7%	29.0%	45.3%	7.6%	.3%	100.0%
合計		度数	10	42	211	293	263	38	1	858
		性別の%	1.2%	4.9%	24.6%	34.1%	30.7%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-14 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	1	12	23	69	295	112	15	527
		性別の%	.2%	2.3%	4.4%	13.1%	56.0%	21.3%	2.8%	100.0%
性別	男性	度数	1	2	9	33	165	109	12	331
		性別の%	.3%	.6%	2.7%	10.0%	49.8%	32.9%	3.6%	100.0%
合計		度数	2	14	32	102	460	221	27	858
		性別の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.6%	25.8%	3.1%	100.0%

表 IV-15 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	5	16	114	199	171	22	0	527
		性別の%	.9%	3.0%	21.6%	37.8%	32.4%	4.2%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	1	6	26	94	160	42	2	331
		性別の%	.3%	1.8%	7.9%	28.4%	48.3%	12.7%	.6%	100.0%
合計		度数	6	22	140	293	331	64	2	858
		性別の%	.7%	2.6%	16.3%	34.1%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-16 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	14	52	159	192	98	11	1	527
		性別の%	2.7%	9.9%	30.2%	36.4%	18.6%	2.1%	.2%	100.0%
	男性	度数	2	11	63	100	125	28	2	331
		性別の%	.6%	3.3%	19.0%	30.2%	37.8%	8.5%	.6%	100.0%
合計		度数	16	63	222	292	223	39	3	858
		性別の%	1.9%	7.3%	25.9%	34.0%	26.0%	4.5%	.3%	100.0%

表 IV-17 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	6	21	114	143	223	19	1	527
		性別の%	1.1%	4.0%	21.6%	27.1%	42.3%	3.6%	.2%	100.0%
	男性	度数	0	8	40	71	173	38	1	331
		性別の%	0.0%	2.4%	12.1%	21.5%	52.3%	11.5%	.3%	100.0%
合計		度数	6	29	154	214	396	57	2	858
		性別の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.6%	.2%	100.0%

表 IV-18 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	4	23	96	135	241	27	1	527
		性別の%	.8%	4.4%	18.2%	25.6%	45.7%	5.1%	.2%	100.0%
	男性	度数	1	8	38	77	144	56	7	331
		性別の%	.3%	2.4%	11.5%	23.3%	43.5%	16.9%	2.1%	100.0%
合計		度数	5	31	134	212	385	83	8	858
		性別の%	.6%	3.6%	15.6%	24.7%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%

表 IV-19 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	7	27	125	155	192	21	0	527
		性別の%	1.3%	5.1%	23.7%	29.4%	36.4%	4.0%	0.0%	100.0%
	男性	度数	2	5	49	86	135	50	4	331
		性別の%	.6%	1.5%	14.8%	26.0%	40.8%	15.1%	1.2%	100.0%
合計		度数	9	32	174	241	327	71	4	858
		性別の%	1.0%	3.7%	20.3%	28.1%	38.1%	8.3%	.5%	100.0%

表 IV-20 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	7	36	118	148	190	27	1	527
		性別の%	1.3%	6.8%	22.4%	28.1%	36.1%	5.1%	.2%	100.0%
	男性	度数	2	7	49	76	142	48	7	331
		性別の%	.6%	2.1%	14.8%	23.0%	42.9%	14.5%	2.1%	100.0%
合計		度数	9	43	167	224	332	75	8	858
		性別の%	1.0%	5.0%	19.5%	26.1%	38.7%	8.7%	.9%	100.0%

全体的に、女性よりも男性の方が体育授業に関する教師効力感を高く認知している傾向にあった。

2項 得意不得意と各項目のクロス集計

体育授業が得意か不得意かによって各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-21～表IV-39のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果1%水準で有意な値を示した。

表 IV-21 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	0	4	3	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	50.0%	37.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	11	39	176	80	4	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	3.5%	12.5%	56.6%	25.7%	1.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	10	121	149	200	12	0	493
		苦手意識の%	.2%	2.0%	24.5%	30.2%	40.6%	2.4%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	2	10	16	12	6	1	0	47
		苦手意識の%	4.3%	21.3%	34.0%	25.5%	12.8%	2.1%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	21	148	201	382	97	7	859	
	苦手意識の%	.3%	2.4%	17.2%	23.4%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%	

表 IV-22 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	4	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	9	38	195	67	1	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	2.9%	12.2%	62.7%	21.5%	.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	10	90	138	226	26	2	493
		苦手意識の%	.2%	2.0%	18.3%	28.0%	45.8%	5.3%	.4%	100.0%
	全く得意ではない	度数	1	7	17	13	8	1	0	47
		苦手意識の%	2.1%	14.9%	36.2%	27.7%	17.0%	2.1%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	18	116	191	430	98	4	859	
	苦手意識の%	.2%	2.1%	13.5%	22.2%	50.1%	11.4%	.5%	100.0%	

表 IV-23 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	3	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	6	38	198	65	3	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	1.9%	12.2%	63.7%	20.9%	1.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	7	88	125	234	36	2	493
		苦手意識の%	.2%	1.4%	17.8%	25.4%	47.5%	7.3%	.4%	100.0%
	全く得意ではない	度数	1	7	14	13	11	1	0	47
		苦手意識の%	2.1%	14.9%	29.8%	27.7%	23.4%	2.1%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	15	108	178	445	105	6	859	
	苦手意識の%	.2%	1.7%	12.6%	20.7%	51.8%	12.2%	.7%	100.0%	

表 IV-24 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

		IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	0	5	2	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	62.5%	25.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	0	8	53	163	83	4	311
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	2.6%	17.0%	52.4%	26.7%	1.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	0	18	112	128	201	34	0	493
		苦手意識の%	0.0%	3.7%	22.7%	26.0%	40.8%	6.9%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	3	9	15	14	6	0	0	47	
	苦手意識の%	6.4%	19.1%	31.9%	29.8%	12.8%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	3	27	135	196	370	122	6	859	
	苦手意識の%	.3%	3.1%	15.7%	22.8%	43.1%	14.2%	.7%	100.0%	

表 IV-25 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

		IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	1	2	0	3	2	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	37.5%	25.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	3	4	27	50	106	99	22	311
		苦手意識の%	1.0%	1.3%	8.7%	16.1%	34.1%	31.8%	7.1%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	11	23	107	98	171	74	9	493
		苦手意識の%	2.2%	4.7%	21.7%	19.9%	34.7%	15.0%	1.8%	100.0%
全く得意ではない	度数	4	10	9	10	9	5	0	47	
	苦手意識の%	8.5%	21.3%	19.1%	21.3%	19.1%	10.6%	0.0%	100.0%	
合計	度数	18	37	144	160	286	181	33	859	
	苦手意識の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.3%	21.1%	3.8%	100.0%	

表 IV-26 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

		IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	4	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	2	20	71	174	38	5	311
		苦手意識の%	.3%	.6%	6.4%	22.8%	55.9%	12.2%	1.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	4	21	163	164	127	12	2	493
		苦手意識の%	.8%	4.3%	33.1%	33.3%	25.8%	2.4%	.4%	100.0%
全く得意ではない	度数	4	10	20	9	4	0	0	47	
	苦手意識の%	8.5%	21.3%	42.6%	19.1%	8.5%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	9	33	203	246	306	54	8	859	
	苦手意識の%	1.0%	3.8%	23.6%	28.6%	35.6%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-27 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

		IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	4	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	1	15	74	163	55	2	311
		苦手意識の%	.3%	.3%	4.8%	23.8%	52.4%	17.7%	.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	2	20	171	197	89	14	0	493
		苦手意識の%	.4%	4.1%	34.7%	40.0%	18.1%	2.8%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	7	11	14	15	0	0	0	47	
	苦手意識の%	14.9%	23.4%	29.8%	31.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	10	32	200	288	254	73	2	859	
	苦手意識の%	1.2%	3.7%	23.3%	33.5%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-28 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

		IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	3	3	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	5	33	95	141	35	2	311
		苦手意識の%	0.0%	1.6%	10.6%	30.5%	45.3%	11.3%	.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	5	51	222	154	57	4	0	493
		苦手意識の%	1.0%	10.3%	45.0%	31.2%	11.6%	.8%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	11	13	15	8	0	0	0	47	
	苦手意識の%	23.4%	27.7%	31.9%	17.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	16	69	270	259	201	42	2	859	
	苦手意識の%	1.9%	8.0%	31.4%	30.2%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-29 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

		IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	5	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	62.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	2	8	26	75	142	52	6	311
		苦手意識の%	.6%	2.6%	8.4%	24.1%	45.7%	16.7%	1.9%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	22	76	190	125	73	7	0	493
		苦手意識の%	4.5%	15.4%	38.5%	25.4%	14.8%	1.4%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	13	14	14	3	2	0	1	47	
	苦手意識の%	27.7%	29.8%	29.8%	6.4%	4.3%	0.0%	2.1%	100.0%	
合計	度数	37	98	230	205	218	64	7	859	
	苦手意識の%	4.3%	11.4%	26.8%	23.9%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%	

表 IV-30 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

		IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	1	1	3	3	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	5	18	72	91	94	29	2	311
		苦手意識の%	1.6%	5.8%	23.2%	29.3%	30.2%	9.3%	.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	38	98	174	99	77	6	1	493
		苦手意識の%	7.7%	19.9%	35.3%	20.1%	15.6%	1.2%	.2%	100.0%
全く得意ではない	度数	11	14	11	6	5	0	0	47	
	苦手意識の%	23.4%	29.8%	23.4%	12.8%	10.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	54	130	258	197	179	38	3	859	
	苦手意識の%	6.3%	15.1%	30.0%	22.9%	20.8%	4.4%	.3%	100.0%	

表 IV-31 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

		IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	3	2	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	7	32	82	155	25	9	311
		苦手意識の%	.3%	2.3%	10.3%	26.4%	49.8%	8.0%	2.9%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	7	36	173	152	117	8	0	493
		苦手意識の%	1.4%	7.3%	35.1%	30.8%	23.7%	1.6%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	8	14	12	10	3	0	0	47	
	苦手意識の%	17.0%	29.8%	25.5%	21.3%	6.4%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	16	57	217	246	278	35	10	859	
	苦手意識の%	1.9%	6.6%	25.3%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%	

表 IV-32 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	4	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	1	31	87	164	26	1	311
		苦手意識の%	.3%	.3%	10.0%	28.0%	52.7%	8.4%	.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	5	23	167	195	95	8	0	493
		苦手意識の%	1.0%	4.7%	33.9%	39.6%	19.3%	1.6%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	18	13	10	2	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	38.3%	27.7%	21.3%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	10	42	211	294	263	38	1	859
		苦手意識の%	1.2%	4.9%	24.6%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-33 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	2	5	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	2	5	13	163	112	16	311
		苦手意識の%	0.0%	.6%	1.6%	4.2%	52.4%	36.0%	5.1%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	0	5	25	77	276	99	11	493
		苦手意識の%	0.0%	1.0%	5.1%	15.6%	56.0%	20.1%	2.2%	100.0%
	全く得意ではない	度数	2	7	2	11	20	5	0	47
		苦手意識の%	4.3%	14.9%	4.3%	23.4%	42.6%	10.6%	0.0%	100.0%
合計		度数	2	14	32	102	461	221	27	859
		苦手意識の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.7%	25.7%	3.1%	100.0%

表 IV-34 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	2	2	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	3	14	55	192	46	0	311
		苦手意識の%	.3%	1.0%	4.5%	17.7%	61.7%	14.8%	0.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	11	109	224	132	16	0	493
		苦手意識の%	.2%	2.2%	22.1%	45.4%	26.8%	3.2%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	8	17	13	5	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	17.0%	36.2%	27.7%	10.6%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	6	22	140	294	331	64	2	859
		苦手意識の%	.7%	2.6%	16.3%	34.2%	38.5%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-35 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	3	5	0	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	2	10	35	106	123	32	3	311
		苦手意識の%	.6%	3.2%	11.3%	34.1%	39.5%	10.3%	1.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	7	39	174	174	92	7	0	493
		苦手意識の%	1.4%	7.9%	35.3%	35.3%	18.7%	1.4%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	7	14	13	10	3	0	0	47
		苦手意識の%	14.9%	29.8%	27.7%	21.3%	6.4%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	16	63	222	293	223	39	3	859
		苦手意識の%	1.9%	7.3%	25.8%	34.1%	26.0%	4.5%	.3%	100.0%

表 IV-36 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	4	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	4	15	55	194	42	1	311
		苦手意識の%	0.0%	1.3%	4.8%	17.7%	62.4%	13.5%	.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	2	16	124	146	193	11	1	493
		苦手意識の%	.4%	3.2%	25.2%	29.6%	39.1%	2.2%	.2%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	9	15	11	8	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	19.1%	31.9%	23.4%	17.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	29	154	214	397	57	2	859	
	苦手意識の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.6%	.2%	100.0%	

表 IV-37 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	1	5	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	62.5%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	12	54	174	63	7	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	3.9%	17.4%	55.9%	20.3%	2.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	21	106	147	203	15	0	493
		苦手意識の%	.2%	4.3%	21.5%	29.8%	41.2%	3.0%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	9	16	10	8	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	19.1%	34.0%	21.3%	17.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	5	31	134	212	386	83	8	859	
	苦手意識の%	.6%	3.6%	15.6%	24.7%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%	

表 IV-38 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	5	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	62.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	2	29	57	170	50	3	311
		苦手意識の%	0.0%	.6%	9.3%	18.3%	54.7%	16.1%	1.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	3	21	129	172	151	16	1	493
		苦手意識の%	.6%	4.3%	26.2%	34.9%	30.6%	3.2%	.2%	100.0%
	全く得意ではない	度数	6	9	16	10	6	0	0	47
		苦手意識の%	12.8%	19.1%	34.0%	21.3%	12.8%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	32	174	241	328	71	4	859	
	苦手意識の%	1.0%	3.7%	20.3%	28.1%	38.2%	8.3%	.5%	100.0%	

表 IV-39 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	4	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	4	29	58	166	50	4	311
		苦手意識の%	0.0%	1.3%	9.3%	18.6%	53.4%	16.1%	1.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	5	22	128	153	161	21	3	493
		苦手意識の%	1.0%	4.5%	26.0%	31.0%	32.7%	4.3%	.6%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	17	10	11	5	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	36.2%	21.3%	23.4%	10.6%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	43	167	224	333	75	8	859	
	苦手意識の%	1.0%	5.0%	19.4%	26.1%	38.8%	8.7%	.9%	100.0%	

全体的に、体育授業に対して指導が得意であると回答した教師の方が教師効力感を高く認知している傾向にあった。

3項 現在のスポーツ実施と各項目のクロス集計

現在スポーツを行っているか否かによって各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-40～表IV-58 のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果 5%水準で有意な値を示した。

表 IV-40 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	4	61	71	166	61	6	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	1.1%	16.5%	19.2%	44.9%	16.5%	1.6%	100.0%
	未実施	度数	2	17	87	130	215	34	1	486
		現在のスポーツ実践の%	.4%	3.5%	17.9%	26.7%	44.2%	7.0%	.2%	100.0%
合計		度数	3	21	148	201	381	95	7	856
		現在のスポーツ実践の%	.4%	2.5%	17.3%	23.5%	44.5%	11.1%	.8%	100.0%

表 IV-41 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	5	41	78	190	52	3	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	1.4%	11.1%	21.1%	51.4%	14.1%	.8%	100.0%
	未実施	度数	1	13	75	113	237	46	1	486
		現在のスポーツ実践の%	.2%	2.7%	15.4%	23.3%	48.8%	9.5%	.2%	100.0%
合計		度数	2	18	116	191	427	98	4	856
		現在のスポーツ実践の%	.2%	2.1%	13.6%	22.3%	49.9%	11.4%	.5%	100.0%

表 IV-42 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	4	46	68	188	58	6	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	1.1%	12.4%	18.4%	50.8%	15.7%	1.6%	100.0%
	未実施	度数	2	11	62	110	255	46	0	486
		現在のスポーツ実践の%	.4%	2.3%	12.8%	22.6%	52.5%	9.5%	0.0%	100.0%
合計		度数	2	15	108	178	443	104	6	856
		現在のスポーツ実践の%	.2%	1.8%	12.6%	20.8%	51.8%	12.1%	.7%	100.0%

表 IV-43 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	8	55	73	165	65	4	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	2.2%	14.9%	19.7%	44.6%	17.6%	1.1%	100.0%
	未実施	度数	3	19	80	123	203	56	2	486
		現在のスポーツ実践の%	.6%	3.9%	16.5%	25.3%	41.8%	11.5%	.4%	100.0%
合計		度数	3	27	135	196	368	121	6	856
		現在のスポーツ実践の%	.4%	3.2%	15.8%	22.9%	43.0%	14.1%	.7%	100.0%

表 IV-44 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	4	14	53	58	133	87	21	370
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	3.8%	14.3%	15.7%	35.9%	23.5%	5.7%	100.0%
	未実施	度数	14	23	91	102	152	92	12	486
		現在のスポーツ実践の%	2.9%	4.7%	18.7%	21.0%	31.3%	18.9%	2.5%	100.0%
合計		度数	18	37	144	160	285	179	33	856
		現在のスポーツ実践の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.7%	33.3%	20.9%	3.9%	100.0%

表 IV-45 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	7	86	92	147	29	7	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	1.9%	23.2%	24.9%	39.7%	7.8%	1.9%	100.0%
	未実施	度数	7	25	116	154	159	24	1	486
		現在のスポーツ実践の%	1.4%	5.1%	23.9%	31.7%	32.7%	4.9%	.2%	100.0%
合計		度数	9	32	202	246	306	53	8	856
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	3.7%	23.6%	28.7%	35.7%	6.2%	.9%	100.0%

表 IV-46 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	11	76	109	130	40	2	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	3.0%	20.5%	29.5%	35.1%	10.8%	.5%	100.0%
	未実施	度数	8	21	123	178	123	33	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.6%	4.3%	25.3%	36.6%	25.3%	6.8%	0.0%	100.0%
合計		度数	10	32	199	287	253	73	2	856
		現在のスポーツ実践の%	1.2%	3.7%	23.2%	33.5%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%

表 IV-47 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	31	101	111	103	20	2	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	8.4%	27.3%	30.0%	27.8%	5.4%	.5%	100.0%
	未実施	度数	14	38	168	147	98	21	0	486
		現在のスポーツ実践の%	2.9%	7.8%	34.6%	30.2%	20.2%	4.3%	0.0%	100.0%
合計		度数	16	69	269	258	201	41	2	856
		現在のスポーツ実践の%	1.9%	8.1%	31.4%	30.1%	23.5%	4.8%	.2%	100.0%

表 IV-48 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	14	32	82	86	118	33	5	370
		現在のスポーツ実践の%	3.8%	8.6%	22.2%	23.2%	31.9%	8.9%	1.4%	100.0%
	未実施	度数	23	66	148	117	99	31	2	486
		現在のスポーツ実践の%	4.7%	13.6%	30.5%	24.1%	20.4%	6.4%	.4%	100.0%
合計		度数	37	98	230	203	217	64	7	856
		現在のスポーツ実践の%	4.3%	11.4%	26.9%	23.7%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%

表 IV-49 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	15	47	105	86	93	24	0	370
		現在のスポーツ実践の%	4.1%	12.7%	28.4%	23.2%	25.1%	6.5%	0.0%	100.0%
	未実施	度数	39	83	152	111	84	14	3	486
		現在のスポーツ実践の%	8.0%	17.1%	31.3%	22.8%	17.3%	2.9%	.6%	100.0%
合計		度数	54	130	257	197	177	38	3	856
		現在のスポーツ実践の%	6.3%	15.2%	30.0%	23.0%	20.7%	4.4%	.4%	100.0%

表 IV-50 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	3	22	74	104	136	25	6	370
		現在のスポーツ実践の%	.8%	5.9%	20.0%	28.1%	36.8%	6.8%	1.6%	100.0%
	未実施	度数	13	35	142	141	141	10	4	486
		現在のスポーツ実践の%	2.7%	7.2%	29.2%	29.0%	29.0%	2.1%	.8%	100.0%
合計	度数	16	57	216	245	277	35	10	856	
	現在のスポーツ実践の%	1.9%	6.7%	25.2%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%	

表 IV-51 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	11	81	108	140	27	1	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	3.0%	21.9%	29.2%	37.8%	7.3%	.3%	100.0%
	未実施	度数	8	31	129	186	121	11	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.6%	6.4%	26.5%	38.3%	24.9%	2.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	10	42	210	294	261	38	1	856	
	現在のスポーツ実践の%	1.2%	4.9%	24.5%	34.3%	30.5%	4.4%	.1%	100.0%	

表 IV-52 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	2	8	46	198	100	16	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	.5%	2.2%	12.4%	53.5%	27.0%	4.3%	100.0%
	未実施	度数	2	12	24	56	262	119	11	486
		現在のスポーツ実践の%	.4%	2.5%	4.9%	11.5%	53.9%	24.5%	2.3%	100.0%
合計	度数	2	14	32	102	460	219	27	856	
	現在のスポーツ実践の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.7%	25.6%	3.2%	100.0%	

表 IV-53 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	8	56	113	155	35	2	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	2.2%	15.1%	30.5%	41.9%	9.5%	.5%	100.0%
	未実施	度数	5	14	84	179	175	29	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.0%	2.9%	17.3%	36.8%	36.0%	6.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	22	140	292	330	64	2	856	
	現在のスポーツ実践の%	.7%	2.6%	16.4%	34.1%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%	

表 IV-54 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	5	26	95	104	114	23	3	370
		現在のスポーツ実践の%	1.4%	7.0%	25.7%	28.1%	30.8%	6.2%	.8%	100.0%
	未実施	度数	11	37	126	187	109	16	0	486
		現在のスポーツ実践の%	2.3%	7.6%	25.9%	38.5%	22.4%	3.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	16	63	221	291	223	39	3	856	
	現在のスポーツ実践の%	1.9%	7.4%	25.8%	34.0%	26.1%	4.6%	.4%	100.0%	

表 IV-55 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	7	59	92	181	29	2	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	1.9%	15.9%	24.9%	48.9%	7.8%	.5%	100.0%
	未実施	度数	6	22	94	122	214	28	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.2%	4.5%	19.3%	25.1%	44.0%	5.8%	0.0%	100.0%
合計		度数	6	29	153	214	395	57	2	856
		現在のスポーツ実践の%	.7%	3.4%	17.9%	25.0%	46.1%	6.7%	.2%	100.0%

表 IV-56 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	8	60	78	176	41	7	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	2.2%	16.2%	21.1%	47.6%	11.1%	1.9%	100.0%
	未実施	度数	5	23	73	134	208	42	1	486
		現在のスポーツ実践の%	1.0%	4.7%	15.0%	27.6%	42.8%	8.6%	.2%	100.0%
合計		度数	5	31	133	212	384	83	8	856
		現在のスポーツ実践の%	.6%	3.6%	15.5%	24.8%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%

表 IV-57 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	8	76	96	154	32	3	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	2.2%	20.5%	25.9%	41.6%	8.6%	.8%	100.0%
	未実施	度数	8	24	98	144	173	38	1	486
		現在のスポーツ実践の%	1.6%	4.9%	20.2%	29.6%	35.6%	7.8%	.2%	100.0%
合計		度数	9	32	174	240	327	70	4	856
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	3.7%	20.3%	28.0%	38.2%	8.2%	.5%	100.0%

表 IV-58 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	12	66	93	151	41	5	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	3.2%	17.8%	25.1%	40.8%	11.1%	1.4%	100.0%
	未実施	度数	7	31	100	131	180	34	3	486
		現在のスポーツ実践の%	1.4%	6.4%	20.6%	27.0%	37.0%	7.0%	.6%	100.0%
合計		度数	9	43	166	224	331	75	8	856
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	5.0%	19.4%	26.2%	38.7%	8.8%	.9%	100.0%

全体的に、現在スポーツ実践をしている人の方が体育授業に関する教師効力感を高く認知している傾向にあった。

4項 過去の体育授業に対するイメージと各項目のクロス集計

過去の体育授業に対するイメージと各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-59～表IV-77ようになった。いずれもカイ二乗検定の結果5%水準で有意な値を示した。

表 IV-59 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

		IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	2	4	59	89	209	59	6	428
		好意度の%	.5%	.9%	13.8%	20.8%	48.8%	13.8%	1.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	8	42	64	100	24	0	238
		好意度の%	0.0%	3.4%	17.6%	26.9%	42.0%	10.1%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	39	38	59	11	1	154
		好意度の%	0.0%	3.9%	25.3%	24.7%	38.3%	7.1%	.6%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	3	8	8	12	3	0	35
		好意度の%	2.9%	8.6%	22.9%	22.9%	34.3%	8.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	21	148	199	380	97	7	855	
	好意度の%	.4%	2.5%	17.3%	23.3%	44.4%	11.3%	.8%	100.0%	

表 IV-60 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

		IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	0	8	49	91	218	60	2	428
		好意度の%	0.0%	1.9%	11.4%	21.3%	50.9%	14.0%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	1	5	25	50	133	22	2	238
		好意度の%	.4%	2.1%	10.5%	21.0%	55.9%	9.2%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	5	31	37	69	12	0	154
		好意度の%	0.0%	3.2%	20.1%	24.0%	44.8%	7.8%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	0	10	12	8	4	0	35
		好意度の%	2.9%	0.0%	28.6%	34.3%	22.9%	11.4%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	18	115	190	428	98	4	855	
	好意度の%	.2%	2.1%	13.5%	22.2%	50.1%	11.5%	.5%	100.0%	

表 IV-61 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

		IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	0	7	42	82	229	64	4	428
		好意度の%	0.0%	1.6%	9.8%	19.2%	53.5%	15.0%	.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	1	3	33	53	124	22	2	238
		好意度の%	.4%	1.3%	13.9%	22.3%	52.1%	9.2%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	3	29	35	75	12	0	154
		好意度の%	0.0%	1.9%	18.8%	22.7%	48.7%	7.8%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	2	4	8	13	7	0	35
		好意度の%	2.9%	5.7%	11.4%	22.9%	37.1%	20.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	15	108	178	441	105	6	855	
	好意度の%	.2%	1.8%	12.6%	20.8%	51.6%	12.3%	.7%	100.0%	

表 IV-62 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

		IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	1	7	53	89	196	77	5	428
		好意度の%	.2%	1.6%	12.4%	20.8%	45.8%	18.0%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	10	44	56	101	26	1	238
		好意度の%	0.0%	4.2%	18.5%	23.5%	42.4%	10.9%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	5	31	42	60	15	0	154
		好意度の%	.6%	3.2%	20.1%	27.3%	39.0%	9.7%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	5	7	9	10	3	0	35
		好意度の%	2.9%	14.3%	20.0%	25.7%	28.6%	8.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	27	135	196	367	121	6	855	
	好意度の%	.4%	3.2%	15.8%	22.9%	42.9%	14.2%	.7%	100.0%	

表 IV-63 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	5	16	62	70	145	108	22	428
		好意度の%	1.2%	3.7%	14.5%	16.4%	33.9%	25.2%	5.1%	100.0%
	少し好きだった	度数	6	10	52	44	75	45	6	238
		好意度の%	2.5%	4.2%	21.8%	18.5%	31.5%	18.9%	2.5%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	8	26	38	51	25	3	154
		好意度の%	1.9%	5.2%	16.9%	24.7%	33.1%	16.2%	1.9%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	4	3	4	7	13	3	1	35
		好意度の%	11.4%	8.6%	11.4%	20.0%	37.1%	8.6%	2.9%	100.0%
合計	度数	18	37	144	159	284	181	32	855	
	好意度の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.2%	21.2%	3.7%	100.0%	

表 IV-64 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	2	12	73	117	181	38	5	428
		好意度の%	.5%	2.8%	17.1%	27.3%	42.3%	8.9%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	11	68	60	86	9	2	238
		好意度の%	.8%	4.6%	28.6%	25.2%	36.1%	3.8%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	8	50	57	31	5	1	154
		好意度の%	1.3%	5.2%	32.5%	37.0%	20.1%	3.2%	.6%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	2	11	10	7	2	0	35
		好意度の%	8.6%	5.7%	31.4%	28.6%	20.0%	5.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	33	202	244	305	54	8	855	
	好意度の%	1.1%	3.9%	23.6%	28.5%	35.7%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-65 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	1	13	77	133	158	45	1	428
		好意度の%	.2%	3.0%	18.0%	31.1%	36.9%	10.5%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	10	64	79	65	17	1	238
		好意度の%	.8%	4.2%	26.9%	33.2%	27.3%	7.1%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	4	4	52	59	25	10	0	154
		好意度の%	2.6%	2.6%	33.8%	38.3%	16.2%	6.5%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	5	7	16	3	1	0	35
		好意度の%	8.6%	14.3%	20.0%	45.7%	8.6%	2.9%	0.0%	100.0%
合計	度数	10	32	200	287	251	73	2	855	
	好意度の%	1.2%	3.7%	23.4%	33.6%	29.4%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-66 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	2	24	123	127	121	29	2	428
		好意度の%	.5%	5.6%	28.7%	29.7%	28.3%	6.8%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	23	81	68	55	9	0	238
		好意度の%	.8%	9.7%	34.0%	28.6%	23.1%	3.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	17	55	52	21	3	0	154
		好意度の%	3.9%	11.0%	35.7%	33.8%	13.6%	1.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	6	5	8	12	3	1	0	35
		好意度の%	17.1%	14.3%	22.9%	34.3%	8.6%	2.9%	0.0%	100.0%
合計	度数	16	69	267	259	200	42	2	855	
	好意度の%	1.9%	8.1%	31.2%	30.3%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-67 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	13	35	96	106	128	46	4	428
		好意度の%	3.0%	8.2%	22.4%	24.8%	29.9%	10.7%	.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	12	35	64	52	61	12	2	238
		好意度の%	5.0%	14.7%	26.9%	21.8%	25.6%	5.0%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	5	23	60	37	24	5	0	154
		好意度の%	3.2%	14.9%	39.0%	24.0%	15.6%	3.2%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	7	5	7	9	5	1	1	35	
	好意度の%	20.0%	14.3%	20.0%	25.7%	14.3%	2.9%	2.9%	100.0%	
合計		度数	37	98	227	204	218	64	7	855
		好意度の%	4.3%	11.5%	26.5%	23.9%	25.5%	7.5%	.8%	100.0%

表 IV-68 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	25	64	117	100	101	21	0	428
		好意度の%	5.8%	15.0%	27.3%	23.4%	23.6%	4.9%	0.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	18	36	78	49	47	8	2	238
		好意度の%	7.6%	15.1%	32.8%	20.6%	19.7%	3.4%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	22	53	39	26	8	0	154
		好意度の%	3.9%	14.3%	34.4%	25.3%	16.9%	5.2%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	8	8	8	4	1	1	35	
	好意度の%	14.3%	22.9%	22.9%	22.9%	11.4%	2.9%	2.9%	100.0%	
合計		度数	54	130	256	196	178	38	3	855
		好意度の%	6.3%	15.2%	29.9%	22.9%	20.8%	4.4%	.4%	100.0%

表 IV-69 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	2	24	97	113	157	26	9	428
		好意度の%	.5%	5.6%	22.7%	26.4%	36.7%	6.1%	2.1%	100.0%
	少し好きだった	度数	7	15	60	71	77	7	1	238
		好意度の%	2.9%	6.3%	25.2%	29.8%	32.4%	2.9%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	12	49	52	37	1	0	154
		好意度の%	1.9%	7.8%	31.8%	33.8%	24.0%	.6%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	4	6	10	8	6	1	0	35	
	好意度の%	11.4%	17.1%	28.6%	22.9%	17.1%	2.9%	0.0%	100.0%	
合計		度数	16	57	216	244	277	35	10	855
		好意度の%	1.9%	6.7%	25.3%	28.5%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%

表 IV-70 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	2	13	97	135	154	26	1	428
		好意度の%	.5%	3.0%	22.7%	31.5%	36.0%	6.1%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	4	13	56	83	74	8	0	238
		好意度の%	1.7%	5.5%	23.5%	34.9%	31.1%	3.4%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	9	50	63	28	3	0	154
		好意度の%	.6%	5.8%	32.5%	40.9%	18.2%	1.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	6	8	11	6	1	0	35	
	好意度の%	8.6%	17.1%	22.9%	31.4%	17.1%	2.9%	0.0%	100.0%	
合計		度数	10	41	211	292	262	38	1	855
		好意度の%	1.2%	4.8%	24.7%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-71 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	1	4	13	41	227	125	17	428
		好意度の%	.2%	.9%	3.0%	9.6%	53.0%	29.2%	4.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	4	9	26	136	55	8	238
		好意度の%	0.0%	1.7%	3.8%	10.9%	57.1%	23.1%	3.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	3	10	28	81	30	2	154
		好意度の%	0.0%	1.9%	6.5%	18.2%	52.6%	19.5%	1.3%	100.0%
全く好きではなかった	度数	1	3	0	7	14	10	0	35	
	好意度の%	2.9%	8.6%	0.0%	20.0%	40.0%	28.6%	0.0%	100.0%	
合計		度数	2	14	32	102	458	220	27	855
		好意度の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.6%	25.7%	3.2%	100.0%

表 IV-72 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	1	7	59	129	195	35	2	428
		好意度の%	.2%	1.6%	13.8%	30.1%	45.6%	8.2%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	5	43	86	81	21	0	238
		好意度の%	.8%	2.1%	18.1%	36.1%	34.0%	8.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	7	33	62	47	4	0	154
		好意度の%	.6%	4.5%	21.4%	40.3%	30.5%	2.6%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	3	4	15	7	4	0	35	
	好意度の%	5.7%	8.6%	11.4%	42.9%	20.0%	11.4%	0.0%	100.0%	
合計		度数	6	22	139	292	330	64	2	855
		好意度の%	.7%	2.6%	16.3%	34.2%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-73 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	3	22	97	149	128	27	2	428
		好意度の%	.7%	5.1%	22.7%	34.8%	29.9%	6.3%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	5	20	66	75	62	9	1	238
		好意度の%	2.1%	8.4%	27.7%	31.5%	26.1%	3.8%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	14	53	57	26	1	0	154
		好意度の%	1.9%	9.1%	34.4%	37.0%	16.9%	.6%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	6	6	10	6	2	0	35	
	好意度の%	14.3%	17.1%	17.1%	28.6%	17.1%	5.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	16	62	222	291	222	39	3	855
		好意度の%	1.9%	7.3%	26.0%	34.0%	26.0%	4.6%	.4%	100.0%

表 IV-74 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	0	8	66	95	218	39	2	428
		好意度の%	0.0%	1.9%	15.4%	22.2%	50.9%	9.1%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	9	41	64	112	10	0	238
		好意度の%	.8%	3.8%	17.2%	26.9%	47.1%	4.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	7	39	46	56	6	0	154
		好意度の%	0.0%	4.5%	25.3%	29.9%	36.4%	3.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	4	5	7	8	9	2	0	35	
	好意度の%	11.4%	14.3%	20.0%	22.9%	25.7%	5.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	6	29	153	213	395	57	2	855
		好意度の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.7%	.2%	100.0%

表 IV-75 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

		IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	1	9	67	93	197	57	4	428
		好意度の%	.2%	2.1%	15.7%	21.7%	46.0%	13.3%	.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	10	34	67	103	18	4	238
		好意度の%	.8%	4.2%	14.3%	28.2%	43.3%	7.6%	1.7%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	28	42	71	7	0	154
		好意度の%	0.0%	3.9%	18.2%	27.3%	46.1%	4.5%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	6	5	8	13	1	0	35	
	好意度の%	5.7%	17.1%	14.3%	22.9%	37.1%	2.9%	0.0%	100.0%	
合計		度数	5	31	134	210	384	83	8	855
		好意度の%	.6%	3.6%	15.7%	24.6%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%

表 IV-76 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

		IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	2	6	80	113	180	44	3	428
		好意度の%	.5%	1.4%	18.7%	26.4%	42.1%	10.3%	.7%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	11	57	65	82	19	1	238
		好意度の%	1.3%	4.6%	23.9%	27.3%	34.5%	8.0%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	9	27	57	55	6	0	154
		好意度の%	0.0%	5.8%	17.5%	37.0%	35.7%	3.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	4	6	9	5	9	2	0	35	
	好意度の%	11.4%	17.1%	25.7%	14.3%	25.7%	5.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	9	32	173	240	326	71	4	855
		好意度の%	1.1%	3.7%	20.2%	28.1%	38.1%	8.3%	.5%	100.0%

表 IV-77 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

		IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業好意度	とても好きだった	度数	3	10	83	99	183	42	8	428
		好意度の%	.7%	2.3%	19.4%	23.1%	42.8%	9.8%	1.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	16	45	69	87	19	0	238
		好意度の%	.8%	6.7%	18.9%	29.0%	36.6%	8.0%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	10	32	46	52	12	0	154
		好意度の%	1.3%	6.5%	20.8%	29.9%	33.8%	7.8%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	7	4	10	10	2	0	35	
	好意度の%	5.7%	20.0%	11.4%	28.6%	28.6%	5.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	9	43	164	224	332	75	8	855
		好意度の%	1.1%	5.0%	19.2%	26.2%	38.8%	8.8%	.9%	100.0%

全体的に、過去に受けた体育授業に対して好意を持っている人の方が体育授業に関する教師効力感を高く認知する傾向にあった。

5項 過去の運動・スポーツ好感度と各項目のクロス集計

過去の運動・スポーツに対する好感度と各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-78～表IV-96 ようになった。いずれもカイ二乗検定の結果5%水準で有意な値を示した。

表 IV-78 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	5	74	107	245	70	6	509
		過去のスポーツの%	.4%	1.0%	14.5%	21.0%	48.1%	13.8%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	8	44	64	88	18	1	223
		過去のスポーツの%	0.0%	3.6%	19.7%	28.7%	39.5%	8.1%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	27	22	40	7	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	5.9%	26.5%	21.6%	39.2%	6.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	1	2	3	7	8	2	0	23	
	過去のスポーツの%	4.3%	8.7%	13.0%	30.4%	34.8%	8.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	3	21	148	200	381	97	7	857
		過去のスポーツの%	.4%	2.5%	17.3%	23.3%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%

表 IV-79 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	10	57	106	261	72	2	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.0%	11.2%	20.8%	51.3%	14.1%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	3	31	52	118	17	2	223
		過去のスポーツの%	0.0%	1.3%	13.9%	23.3%	52.9%	7.6%	.9%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	5	23	25	42	7	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	4.9%	22.5%	24.5%	41.2%	6.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	1	0	5	8	7	2	0	23	
	過去のスポーツの%	4.3%	0.0%	21.7%	34.8%	30.4%	8.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	2	18	116	191	428	98	4	857
		過去のスポーツの%	.2%	2.1%	13.5%	22.3%	49.9%	11.4%	.5%	100.0%

表 IV-80 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	0	8	56	101	263	77	4	509
		過去のスポーツの%	0.0%	1.6%	11.0%	19.8%	51.7%	15.1%	.8%	100.0%
	少し好きだった	度数	1	2	32	45	127	14	2	223
		過去のスポーツの%	.4%	.9%	14.3%	20.2%	57.0%	6.3%	.9%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	4	19	27	41	11	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	3.9%	18.6%	26.5%	40.2%	10.8%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	1	1	1	5	12	3	0	23	
	過去のスポーツの%	4.3%	4.3%	4.3%	21.7%	52.2%	13.0%	0.0%	100.0%	
合計		度数	2	15	108	178	443	105	6	857
		過去のスポーツの%	.2%	1.8%	12.6%	20.8%	51.7%	12.3%	.7%	100.0%

表 IV-81 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	10	65	112	228	87	6	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.0%	12.8%	22.0%	44.8%	17.1%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	8	41	53	96	25	0	223
		過去のスポーツの%	0.0%	3.6%	18.4%	23.8%	43.0%	11.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	7	23	25	38	8	0	102
		過去のスポーツの%	1.0%	6.9%	22.5%	24.5%	37.3%	7.8%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	1	2	6	6	6	2	0	23	
	過去のスポーツの%	4.3%	8.7%	26.1%	26.1%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	3	27	135	196	368	122	6	857
		過去のスポーツの%	.4%	3.2%	15.8%	22.9%	42.9%	14.2%	.7%	100.0%

表 IV-82 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	6	18	77	86	174	123	25	509
		過去のスポーツの%	1.2%	3.5%	15.1%	16.9%	34.2%	24.2%	4.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	6	11	49	43	67	42	5	223
		過去のスポーツの%	2.7%	4.9%	22.0%	19.3%	30.0%	18.8%	2.2%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	6	16	25	35	15	2	102
		過去のスポーツの%	2.9%	5.9%	15.7%	24.5%	34.3%	14.7%	2.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	2	2	6	8	1	1	23	
	過去のスポーツの%	13.0%	8.7%	8.7%	26.1%	34.8%	4.3%	4.3%	100.0%	
合計		18	37	144	160	284	181	33	857	
		過去のスポーツの%	2.1%	4.3%	16.8%	18.7%	33.1%	21.1%	3.9%	100.0%

表 IV-83 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	16	91	135	220	40	5	509
		過去のスポーツの%	.4%	3.1%	17.9%	26.5%	43.2%	7.9%	1.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	8	71	67	64	9	2	223
		過去のスポーツの%	.9%	3.6%	31.8%	30.0%	28.7%	4.0%	.9%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	7	34	38	15	4	1	102
		過去のスポーツの%	2.9%	6.9%	33.3%	37.3%	14.7%	3.9%	1.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	2	7	5	6	1	0	23	
	過去のスポーツの%	8.7%	8.7%	30.4%	21.7%	26.1%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計		9	33	203	245	305	54	8	857	
		過去のスポーツの%	1.1%	3.9%	23.7%	28.6%	35.6%	6.3%	.9%	100.0%

表 IV-84 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	15	98	163	180	50	2	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.9%	19.3%	32.0%	35.4%	9.8%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	7	67	73	57	16	0	223
		過去のスポーツの%	1.3%	3.1%	30.0%	32.7%	25.6%	7.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	7	30	43	13	6	0	102
		過去のスポーツの%	2.9%	6.9%	29.4%	42.2%	12.7%	5.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	3	5	9	2	1	0	23	
	過去のスポーツの%	13.0%	13.0%	21.7%	39.1%	8.7%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計		10	32	200	288	252	73	2	857	
		過去のスポーツの%	1.2%	3.7%	23.3%	33.6%	29.4%	8.5%	.2%	100.0%

表 IV-85 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	35	146	149	140	35	2	509
		過去のスポーツの%	.4%	6.9%	28.7%	29.3%	27.5%	6.9%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	18	80	70	47	5	0	223
		過去のスポーツの%	1.3%	8.1%	35.9%	31.4%	21.1%	2.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	13	38	31	13	1	0	102
		過去のスポーツの%	5.9%	12.7%	37.3%	30.4%	12.7%	1.0%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	3	5	9	0	1	0	23	
	過去のスポーツの%	21.7%	13.0%	21.7%	39.1%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計		16	69	269	259	200	42	2	857	
		過去のスポーツの%	1.9%	8.1%	31.4%	30.2%	23.3%	4.9%	.2%	100.0%

表 IV-86 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	15	46	121	122	147	53	5	509
		過去のスポーツの%	2.9%	9.0%	23.8%	24.0%	28.9%	10.4%	1.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	11	31	62	59	52	7	1	223
		過去のスポーツの%	4.9%	13.9%	27.8%	26.5%	23.3%	3.1%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	18	41	17	17	3	0	102
		過去のスポーツの%	5.9%	17.6%	40.2%	16.7%	16.7%	2.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	3	5	6	2	1	1	23	
	過去のスポーツの%	21.7%	13.0%	21.7%	26.1%	8.7%	4.3%	4.3%	100.0%	
合計		37	98	229	204	218	64	7	857	
		過去のスポーツの%	4.3%	11.4%	26.7%	23.8%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%

表 IV-87 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	31	76	144	118	114	25	1	509
		過去のスポーツの%	6.1%	14.9%	28.3%	23.2%	22.4%	4.9%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	14	29	78	47	45	9	1	223
		過去のスポーツの%	6.3%	13.0%	35.0%	21.1%	20.2%	4.0%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	4	21	32	25	16	3	1	102
		過去のスポーツの%	3.9%	20.6%	31.4%	24.5%	15.7%	2.9%	1.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	4	3	6	4	1	0	23	
	過去のスポーツの%	21.7%	17.4%	13.0%	26.1%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	54	130	257	196	179	38	3	857	
	過去のスポーツの%	6.3%	15.2%	30.0%	22.9%	20.9%	4.4%	.4%	100.0%	

表 IV-88 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	3	31	115	132	190	29	9	509
		過去のスポーツの%	.6%	6.1%	22.6%	25.9%	37.3%	5.7%	1.8%	100.0%
	少し好きだった	度数	7	9	61	78	63	4	1	223
		過去のスポーツの%	3.1%	4.0%	27.4%	35.0%	28.3%	1.8%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	13	36	29	20	1	0	102
		過去のスポーツの%	2.9%	12.7%	35.3%	28.4%	19.6%	1.0%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	4	5	6	4	1	0	23	
	過去のスポーツの%	13.0%	17.4%	21.7%	26.1%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	16	57	217	245	277	35	10	857	
	過去のスポーツの%	1.9%	6.7%	25.3%	28.6%	32.3%	4.1%	1.2%	100.0%	

表 IV-89 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	19	111	166	180	30	1	509
		過去のスポーツの%	.4%	3.7%	21.8%	32.6%	35.4%	5.9%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	4	9	61	83	61	5	0	223
		過去のスポーツの%	1.8%	4.0%	27.4%	37.2%	27.4%	2.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	9	35	36	18	2	0	102
		過去のスポーツの%	2.0%	8.8%	34.3%	35.3%	17.6%	2.0%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	5	4	8	3	1	0	23	
	過去のスポーツの%	8.7%	21.7%	17.4%	34.8%	13.0%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	10	42	211	293	262	38	1	857	
	過去のスポーツの%	1.2%	4.9%	24.6%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%	

表 IV-90 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	5	17	48	272	147	19	509
		過去のスポーツの%	.2%	1.0%	3.3%	9.4%	53.4%	28.9%	3.7%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	4	8	35	122	48	6	223
		過去のスポーツの%	0.0%	1.8%	3.6%	15.7%	54.7%	21.5%	2.7%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	3	7	16	57	17	2	102
		過去のスポーツの%	0.0%	2.9%	6.9%	15.7%	55.9%	16.7%	2.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	1	2	0	3	8	9	0	23	
	過去のスポーツの%	4.3%	8.7%	0.0%	13.0%	34.8%	39.1%	0.0%	100.0%	
合計	度数	2	14	32	102	459	221	27	857	
	過去のスポーツの%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.6%	25.8%	3.2%	100.0%	

表 IV-91 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	10	69	158	228	41	2	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.0%	13.6%	31.0%	44.8%	8.1%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	4	44	87	73	13	0	223
		過去のスポーツの%	.9%	1.8%	19.7%	39.0%	32.7%	5.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	6	25	39	23	8	0	102
		過去のスポーツの%	1.0%	5.9%	24.5%	38.2%	22.5%	7.8%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	2	1	9	7	2	0	23	
	過去のスポーツの%	8.7%	8.7%	4.3%	39.1%	30.4%	8.7%	0.0%	100.0%	
合計	度数	6	22	139	293	331	64	2	857	
	過去のスポーツの%	.7%	2.6%	16.2%	34.2%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%	

表 IV-92 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	3	28	123	170	152	31	2	509
		過去のスポーツの%	.6%	5.5%	24.2%	33.4%	29.9%	6.1%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	6	20	59	82	49	6	1	223
		過去のスポーツの%	2.7%	9.0%	26.5%	36.8%	22.0%	2.7%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	4	9	37	34	17	1	0	102
		過去のスポーツの%	3.9%	8.8%	36.3%	33.3%	16.7%	1.0%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	6	3	6	4	1	0	23
		過去のスポーツの%	13.0%	26.1%	13.0%	26.1%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	16	63	222	292	222	39	3	857	
	過去のスポーツの%	1.9%	7.4%	25.9%	34.1%	25.9%	4.6%	.4%	100.0%	

表 IV-93 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	0	12	83	115	253	44	2	509
		過去のスポーツの%	0.0%	2.4%	16.3%	22.6%	49.7%	8.6%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	8	39	63	104	7	0	223
		過去のスポーツの%	.9%	3.6%	17.5%	28.3%	46.6%	3.1%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	5	26	33	32	5	0	102
		過去のスポーツの%	1.0%	4.9%	25.5%	32.4%	31.4%	4.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	4	6	2	7	1	0	23
		過去のスポーツの%	13.0%	17.4%	26.1%	8.7%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	29	154	213	396	57	2	857	
	過去のスポーツの%	.7%	3.4%	18.0%	24.9%	46.2%	6.7%	.2%	100.0%	

表 IV-94 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	13	78	119	228	63	7	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.6%	15.3%	23.4%	44.8%	12.4%	1.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	8	31	60	105	16	1	223
		過去のスポーツの%	.9%	3.6%	13.9%	26.9%	47.1%	7.2%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	21	30	42	3	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	5.9%	20.6%	29.4%	41.2%	2.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	2	4	4	2	10	1	0	23
		過去のスポーツの%	8.7%	17.4%	17.4%	8.7%	43.5%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	5	31	134	211	385	83	8	857	
	過去のスポーツの%	.6%	3.6%	15.6%	24.6%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%	

表 IV-95 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	11	103	131	208	51	3	509
		過去のスポーツの%	.4%	2.2%	20.2%	25.7%	40.9%	10.0%	.6%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	10	41	75	81	13	0	223
		過去のスポーツの%	1.3%	4.5%	18.4%	33.6%	36.3%	5.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	8	25	29	33	6	1	102
		過去のスポーツの%	0.0%	7.8%	24.5%	28.4%	32.4%	5.9%	1.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	4	3	5	5	5	1	0	23
		過去のスポーツの%	17.4%	13.0%	21.7%	21.7%	21.7%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	32	174	240	327	71	4	857	
	過去のスポーツの%	1.1%	3.7%	20.3%	28.0%	38.2%	8.3%	.5%	100.0%	

表 IV-96 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	4	14	97	116	221	49	8	509
		過去のスポーツの%	.8%	2.8%	19.1%	22.8%	43.4%	9.6%	1.6%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	17	40	70	75	19	0	223
		過去のスポーツの%	.9%	7.6%	17.9%	31.4%	33.6%	8.5%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	8	25	31	31	5	0	102
		過去のスポーツの%	2.0%	7.8%	24.5%	30.4%	30.4%	4.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	4	4	7	5	2	0	23
		過去のスポーツの%	4.3%	17.4%	17.4%	30.4%	21.7%	8.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	43	166	224	332	75	8	857	
	過去のスポーツの%	1.1%	5.0%	19.4%	26.1%	38.7%	8.8%	.9%	100.0%	

全体的に、過去の運動・スポーツに対して好意を持っている人の方が体育授業に関する教師効力感を高く認知する傾向にあった。

6項 年代と各項目のクロス集計

年代と各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-97～表IV-115 のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果5%水準で有意な値を示した。

表 IV-97 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
年代	20代	度数	2	7	55	66	116	10	0	256
		年代の%	.8%	2.7%	21.5%	25.8%	45.3%	3.9%	0.0%	100.0%
	30代	度数	0	7	28	37	84	24	1	181
		年代の%	0.0%	3.9%	15.5%	20.4%	46.4%	13.3%	.6%	100.0%
	40代	度数	0	4	32	46	82	18	2	184
		年代の%	0.0%	2.2%	17.4%	25.0%	44.6%	9.8%	1.1%	100.0%
	50代	度数	1	3	33	52	100	45	4	238
		年代の%	.4%	1.3%	13.9%	21.8%	42.0%	18.9%	1.7%	100.0%
	合計	度数	3	21	148	201	382	97	7	859
		年代の%	.3%	2.4%	17.2%	23.4%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%

表 IV-98 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
年代	20代	度数	0	8	48	67	117	16	0	256
		年代の%	0.0%	3.1%	18.8%	26.2%	45.7%	6.3%	0.0%	100.0%
	30代	度数	0	3	31	40	86	20	1	181
		年代の%	0.0%	1.7%	17.1%	22.1%	47.5%	11.0%	.6%	100.0%
	40代	度数	0	3	17	37	108	18	1	184
		年代の%	0.0%	1.6%	9.2%	20.1%	58.7%	9.8%	.5%	100.0%
	50代	度数	2	4	20	47	119	44	2	238
		年代の%	.8%	1.7%	8.4%	19.7%	50.0%	18.5%	.8%	100.0%
	合計	度数	2	18	116	191	430	98	4	859
		年代の%	.2%	2.1%	13.5%	22.2%	50.1%	11.4%	.5%	100.0%

表 IV-99 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	0	8	48	68	111	20	1	256
		年代の%	0.0%	3.1%	18.8%	26.6%	43.4%	7.8%	.4%	100.0%
	30代	度数	0	4	24	34	102	17	0	181
		年代の%	0.0%	2.2%	13.3%	18.8%	56.4%	9.4%	0.0%	100.0%
	40代	度数	0	3	18	32	106	23	2	184
		年代の%	0.0%	1.6%	9.8%	17.4%	57.6%	12.5%	1.1%	100.0%
	50代	度数	2	0	18	44	126	45	3	238
		年代の%	.8%	0.0%	7.6%	18.5%	52.9%	18.9%	1.3%	100.0%
	合計	度数	2	15	108	178	445	105	6	859
		年代の%	.2%	1.7%	12.6%	20.7%	51.8%	12.2%	.7%	100.0%

表 IV-100 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	1	15	68	62	91	18	1	256
		年代の%	.4%	5.9%	26.6%	24.2%	35.5%	7.0%	.4%	100.0%
	30代	度数	0	7	32	40	77	24	1	181
		年代の%	0.0%	3.9%	17.7%	22.1%	42.5%	13.3%	.6%	100.0%
	40代	度数	1	3	18	43	93	26	0	184
		年代の%	.5%	1.6%	9.8%	23.4%	50.5%	14.1%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	2	17	51	109	54	4	238
		年代の%	.4%	.8%	7.1%	21.4%	45.8%	22.7%	1.7%	100.0%
	合計	度数	3	27	135	196	370	122	6	859
		年代の%	.3%	3.1%	15.7%	22.8%	43.1%	14.2%	.7%	100.0%

表 IV-101 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	6	17	56	38	86	44	9	256
		年代の%	2.3%	6.6%	21.9%	14.8%	33.6%	17.2%	3.5%	100.0%
	30代	度数	5	8	29	38	46	48	7	181
		年代の%	2.8%	4.4%	16.0%	21.0%	25.4%	26.5%	3.9%	100.0%
	40代	度数	2	9	32	35	66	33	7	184
		年代の%	1.1%	4.9%	17.4%	19.0%	35.9%	17.9%	3.8%	100.0%
	50代	度数	5	3	27	49	88	56	10	238
		年代の%	2.1%	1.3%	11.3%	20.6%	37.0%	23.5%	4.2%	100.0%
	合計	度数	18	37	144	160	286	181	33	859
		年代の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.3%	21.1%	3.8%	100.0%

表 IV-102 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	4	18	79	74	69	12	0	256
		年代の%	1.6%	7.0%	30.9%	28.9%	27.0%	4.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	3	8	40	54	67	7	2	181
		年代の%	1.7%	4.4%	22.1%	29.8%	37.0%	3.9%	1.1%	100.0%
	40代	度数	1	3	39	61	70	8	2	184
		年代の%	.5%	1.6%	21.2%	33.2%	38.0%	4.3%	1.1%	100.0%
	50代	度数	1	4	45	57	100	27	4	238
		年代の%	.4%	1.7%	18.9%	23.9%	42.0%	11.3%	1.7%	100.0%
	合計	度数	9	33	203	246	306	54	8	859
		年代の%	1.0%	3.8%	23.6%	28.6%	35.6%	6.3%	.9%	100.0%

表 IV-103 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	6	17	89	82	55	7	0	256
		年代の%	2.3%	6.6%	34.8%	32.0%	21.5%	2.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	1	5	38	68	52	17	0	181
		年代の%	.6%	2.8%	21.0%	37.6%	28.7%	9.4%	0.0%	100.0%
	40代	度数	2	4	36	69	59	13	1	184
		年代の%	1.1%	2.2%	19.6%	37.5%	32.1%	7.1%	.5%	100.0%
	50代	度数	1	6	37	69	88	36	1	238
		年代の%	.4%	2.5%	15.5%	29.0%	37.0%	15.1%	.4%	100.0%
	合計	度数	10	32	200	288	254	73	2	859
		年代の%	1.2%	3.7%	23.3%	33.5%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%

表 IV-104 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	6	39	118	60	29	4	0	256
		年代の%	2.3%	15.2%	46.1%	23.4%	11.3%	1.6%	0.0%	100.0%
	30代	度数	4	11	57	53	50	5	1	181
		年代の%	2.2%	6.1%	31.5%	29.3%	27.6%	2.8%	.6%	100.0%
	40代	度数	5	12	51	57	51	8	0	184
		年代の%	2.7%	6.5%	27.7%	31.0%	27.7%	4.3%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	7	44	89	71	25	1	238
		年代の%	.4%	2.9%	18.5%	37.4%	29.8%	10.5%	.4%	100.0%
	合計	度数	16	69	270	259	201	42	2	859
		年代の%	1.9%	8.0%	31.4%	30.2%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%

表 IV-105 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	14	49	83	52	46	12	0	256
		年代の%	5.5%	19.1%	32.4%	20.3%	18.0%	4.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	9	19	45	43	50	14	1	181
		年代の%	5.0%	10.5%	24.9%	23.8%	27.6%	7.7%	.6%	100.0%
	40代	度数	7	16	52	45	49	14	1	184
		年代の%	3.8%	8.7%	28.3%	24.5%	26.6%	7.6%	.5%	100.0%
	50代	度数	7	14	50	65	73	24	5	238
		年代の%	2.9%	5.9%	21.0%	27.3%	30.7%	10.1%	2.1%	100.0%
	合計	度数	37	98	230	205	218	64	7	859
		年代の%	4.3%	11.4%	26.8%	23.9%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%

表 IV-106 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	18	55	91	45	40	6	1	256
		年代の%	7.0%	21.5%	35.5%	17.6%	15.6%	2.3%	.4%	100.0%
	30代	度数	15	25	43	42	48	8	0	181
		年代の%	8.3%	13.8%	23.8%	23.2%	26.5%	4.4%	0.0%	100.0%
	40代	度数	12	23	59	39	40	11	0	184
		年代の%	6.5%	12.5%	32.1%	21.2%	21.7%	6.0%	0.0%	100.0%
	50代	度数	9	27	65	71	51	13	2	238
		年代の%	3.8%	11.3%	27.3%	29.8%	21.4%	5.5%	.8%	100.0%
	合計	度数	54	130	258	197	179	38	3	859
		年代の%	6.3%	15.1%	30.0%	22.9%	20.8%	4.4%	.3%	100.0%

表 IV-107 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	7	25	86	62	65	11	0	256
		年代の%	2.7%	9.8%	33.6%	24.2%	25.4%	4.3%	0.0%	100.0%
	30代	度数	4	15	40	44	71	3	4	181
		年代の%	2.2%	8.3%	22.1%	24.3%	39.2%	1.7%	2.2%	100.0%
	40代	度数	3	8	42	65	59	6	1	184
		年代の%	1.6%	4.3%	22.8%	35.3%	32.1%	3.3%	.5%	100.0%
	50代	度数	2	9	49	75	83	15	5	238
		年代の%	.8%	3.8%	20.6%	31.5%	34.9%	6.3%	2.1%	100.0%
	合計	度数	16	57	217	246	278	35	10	859
		年代の%	1.9%	6.6%	25.3%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%

表 IV-108 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	5	14	92	82	55	8	0	256
		年代の%	2.0%	5.5%	35.9%	32.0%	21.5%	3.1%	0.0%	100.0%
	30代	度数	2	12	41	56	64	5	1	181
		年代の%	1.1%	6.6%	22.7%	30.9%	35.4%	2.8%	.6%	100.0%
	40代	度数	2	8	44	66	55	9	0	184
		年代の%	1.1%	4.3%	23.9%	35.9%	29.9%	4.9%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	8	34	90	89	16	0	238
		年代の%	.4%	3.4%	14.3%	37.8%	37.4%	6.7%	0.0%	100.0%
	合計	度数	10	42	211	294	263	38	1	859
		年代の%	1.2%	4.9%	24.6%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-109 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	0	5	16	46	136	47	6	256
		年代の%	0.0%	2.0%	6.3%	18.0%	53.1%	18.4%	2.3%	100.0%
	30代	度数	0	5	9	22	99	44	2	181
		年代の%	0.0%	2.8%	5.0%	12.2%	54.7%	24.3%	1.1%	100.0%
	40代	度数	1	2	5	12	114	41	9	184
		年代の%	.5%	1.1%	2.7%	6.5%	62.0%	22.3%	4.9%	100.0%
	50代	度数	1	2	2	22	112	89	10	238
		年代の%	.4%	.8%	.8%	9.2%	47.1%	37.4%	4.2%	100.0%
	合計	度数	2	14	32	102	461	221	27	859
		年代の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.7%	25.7%	3.1%	100.0%

表 IV-110 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	3	9	61	95	81	7	0	256
		年代の%	1.2%	3.5%	23.8%	37.1%	31.6%	2.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	1	8	25	62	72	12	1	181
		年代の%	.6%	4.4%	13.8%	34.3%	39.8%	6.6%	.6%	100.0%
	40代	度数	1	2	30	63	78	10	0	184
		年代の%	.5%	1.1%	16.3%	34.2%	42.4%	5.4%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	3	24	74	100	35	1	238
		年代の%	.4%	1.3%	10.1%	31.1%	42.0%	14.7%	.4%	100.0%
	合計	度数	6	22	140	294	331	64	2	859
		年代の%	.7%	2.6%	16.3%	34.2%	38.5%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-111 15) 体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15 体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	8	24	88	73	55	8	0	256
		年代の%	3.1%	9.4%	34.4%	28.5%	21.5%	3.1%	0.0%	100.0%
	30代	度数	2	18	36	67	49	8	1	181
		年代の%	1.1%	9.9%	19.9%	37.0%	27.1%	4.4%	.6%	100.0%
	40代	度数	2	8	51	68	45	9	1	184
		年代の%	1.1%	4.3%	27.7%	37.0%	24.5%	4.9%	.5%	100.0%
	50代	度数	4	13	47	85	74	14	1	238
		年代の%	1.7%	5.5%	19.7%	35.7%	31.1%	5.9%	.4%	100.0%
合計	度数	16	63	222	293	223	39	3	859	
	年代の%	1.9%	7.3%	25.8%	34.1%	26.0%	4.5%	.3%	100.0%	

表 IV-112 16) 子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16 子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	2	9	68	59	105	12	1	256
		年代の%	.8%	3.5%	26.6%	23.0%	41.0%	4.7%	.4%	100.0%
	30代	度数	1	10	25	47	85	12	1	181
		年代の%	.6%	5.5%	13.8%	26.0%	47.0%	6.6%	.6%	100.0%
	40代	度数	0	5	31	53	81	14	0	184
		年代の%	0.0%	2.7%	16.8%	28.8%	44.0%	7.6%	0.0%	100.0%
	50代	度数	3	5	30	55	126	19	0	238
		年代の%	1.3%	2.1%	12.6%	23.1%	52.9%	8.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	29	154	214	397	57	2	859	
	年代の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.6%	.2%	100.0%	

表 IV-113 17) 単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17 単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	2	12	62	74	95	10	1	256
		年代の%	.8%	4.7%	24.2%	28.9%	37.1%	3.9%	.4%	100.0%
	30代	度数	1	9	28	39	89	14	1	181
		年代の%	.6%	5.0%	15.5%	21.5%	49.2%	7.7%	.6%	100.0%
	40代	度数	1	5	24	51	79	23	1	184
		年代の%	.5%	2.7%	13.0%	27.7%	42.9%	12.5%	.5%	100.0%
	50代	度数	1	5	20	48	123	36	5	238
		年代の%	.4%	2.1%	8.4%	20.2%	51.7%	15.1%	2.1%	100.0%
合計	度数	5	31	134	212	386	83	8	859	
	年代の%	.6%	3.6%	15.6%	24.7%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%	

表 IV-114 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	3	14	82	76	72	9	0	256
		年代の%	1.2%	5.5%	32.0%	29.7%	28.1%	3.5%	0.0%	100.0%
	30代	度数	1	11	30	58	69	10	2	181
		年代の%	.6%	6.1%	16.6%	32.0%	38.1%	5.5%	1.1%	100.0%
	40代	度数	3	3	35	43	82	18	0	184
		年代の%	1.6%	1.6%	19.0%	23.4%	44.6%	9.8%	0.0%	100.0%
	50代	度数	2	4	27	64	105	34	2	238
		年代の%	.8%	1.7%	11.3%	26.9%	44.1%	14.3%	.8%	100.0%
	合計	度数	9	32	174	241	328	71	4	859
		年代の%	1.0%	3.7%	20.3%	28.1%	38.2%	8.3%	.5%	100.0%

表 IV-115 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	2	19	65	69	82	17	2	256
		年代の%	.8%	7.4%	25.4%	27.0%	32.0%	6.6%	.8%	100.0%
	30代	度数	4	14	30	48	70	12	3	181
		年代の%	2.2%	7.7%	16.6%	26.5%	38.7%	6.6%	1.7%	100.0%
	40代	度数	2	3	38	48	77	14	2	184
		年代の%	1.1%	1.6%	20.7%	26.1%	41.8%	7.6%	1.1%	100.0%
	50代	度数	1	7	34	59	104	32	1	238
		年代の%	.4%	2.9%	14.3%	24.8%	43.7%	13.4%	.4%	100.0%
	合計	度数	9	43	167	224	333	75	8	859
		年代の%	1.0%	5.0%	19.4%	26.1%	38.8%	8.7%	.9%	100.0%

項目ごとによって、教師効力感の捉え方に異なった傾向があり、30代、50代の教員が高く認知する傾向のあるものや、50代の教員が高く認知する傾向にあるものなど、内容によって違いがあることが明らかとなった。

7項 クラスタ分析

上記の結果を受けて、項目間のまとまりについてクラスタ分析(ユークリッド距離法、Ward法)を行うこととした。その結果、以下の図IV-1のようになった。なお、分析の過程で質問5(休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる)と質問10(ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる)については、解釈が十分にできない分類になったため削除した。その理由は、休み時間を使わなくても準備ができる教師の存在や、ICTなどは学校ごとの環境に依存するといったことがあり、現在の教師が置かれている現状にばらつきがあると考えられる。この点については、今後の検討課題としたい。クラスタは、解釈可能性を考慮し距離クラスタ10のところでは線引きをしたため、3つのクラスタに分類できた。

第一クラスタは、質問11(身体感覚イメージを子どもに伝えることができる)、質問12(子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる)、質問15(体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる)、質問6(もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる)、質問7(児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える)、質問14(特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる)、質問8(授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている)、質問9(必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる)となった。以上のことから、第一クラスタは、子ども達に特性や魅力といった内容を伝達できるかどうかに関わった項目が集まっていることから、

「魅力の伝達」とした。

第二クラスタは、質問 16(子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる)、質問 17(単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる)、質問 18(グループ学習をうまくコーディネートすることができる)、質問 19(自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる)、となった。以上のことから第二クラスタは、子ども同士の関係を構築していくことによってよりよい体育授業ができるような内容が含まれているため、「グループの構成」とした。

第三クラスタは、質問 2(もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる)、問 3(児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる)、質質問 4(実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる)、質問 1(児童の実態に応じた道具を工夫することができる)、質問 13(状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる)となった。第 3 因子については、子どもの学びをよりよいものに工夫していくことが集まったため、「学びのコーディネート」とした。

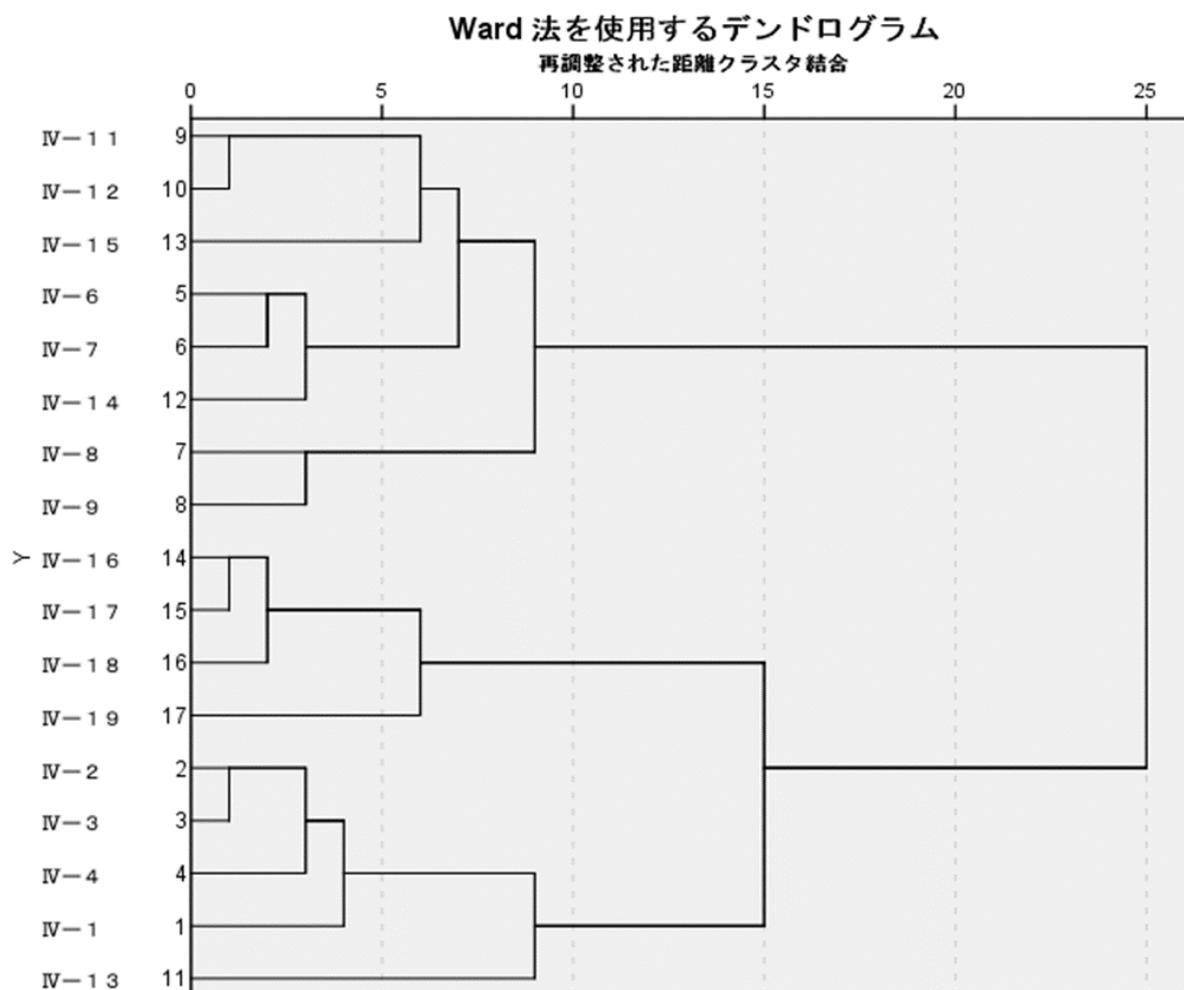
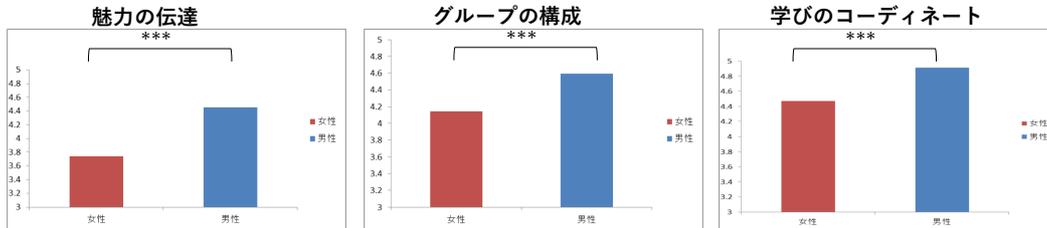


図 IV-1 クラスタ分析結果

8項 各要因における因子別得点の比較

結果と考察 性別



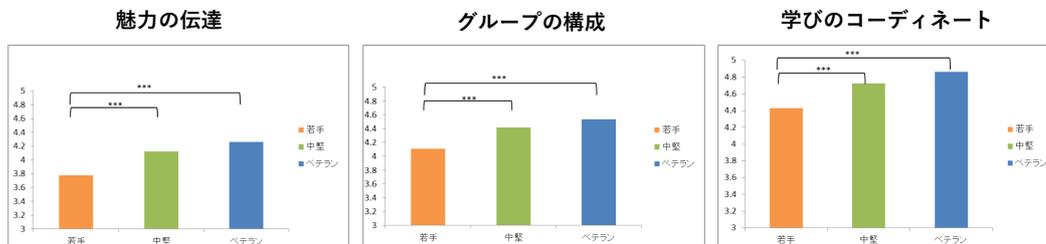
結果

・3群全てにおいて男性と女性との間に有意差がみられた。 (***: $p < 0.001$)
 ⇒ **男性**の方が女性よりも効力感が高い。

考察

・松田 (2016) が、男性教員で体育を得意と答えている割合が高いと指摘しているように、体育授業に対する苦手意識が教師効力感における性別による差を生じさせることが推察される。

結果と考察 教職歴熟練度



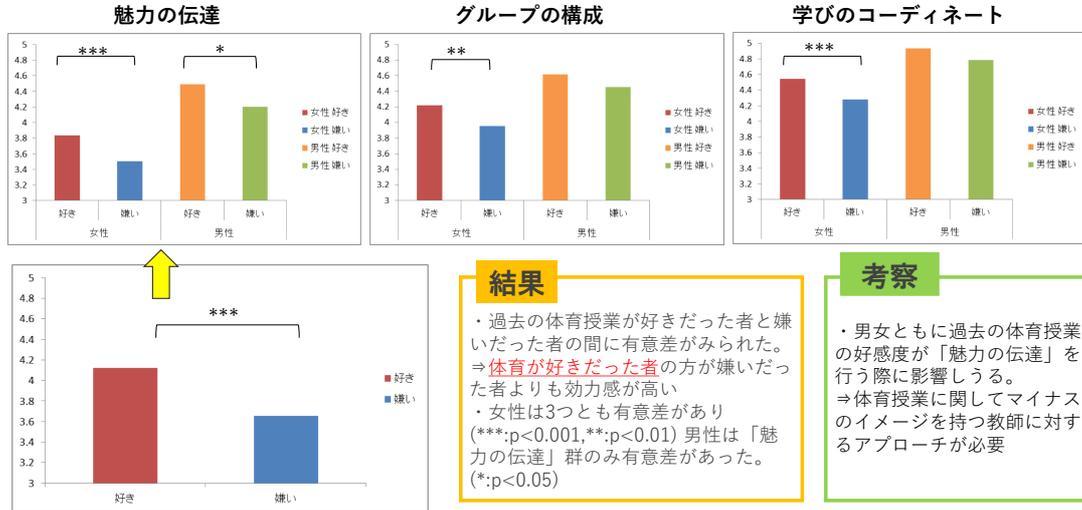
結果

・3群全てにおいて若手とベテラン、若手と中堅の間に有意差がみられた。 (***: $p < 0.001$)
 ⇒ **ベテラン・中堅**は若手よりも効力感が高い
 * 中堅とベテランの間には有意差がなかった

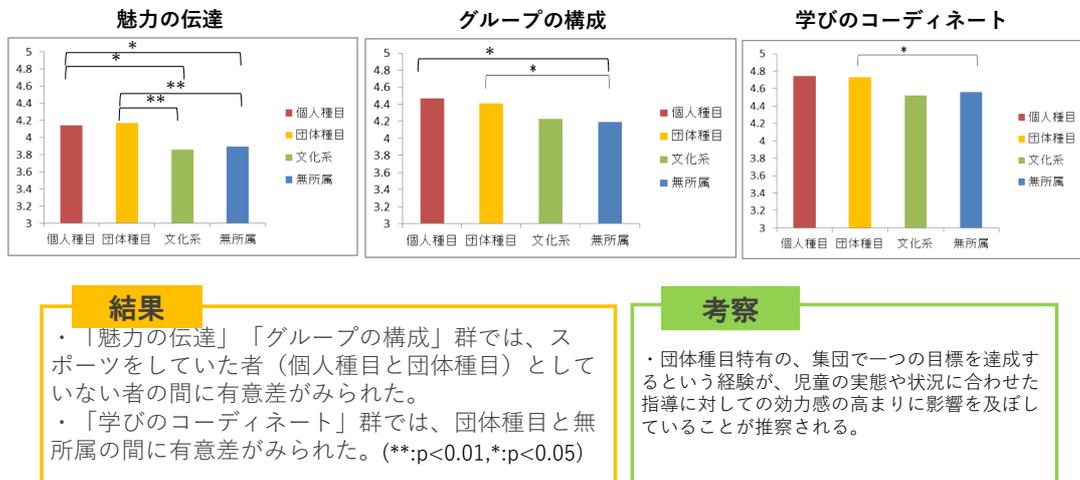
考察

・教職歴10年以上の経験が効力感につながっている
 ・研修や校務分掌を担うことによって職業的な慣れが生じたことが推察される

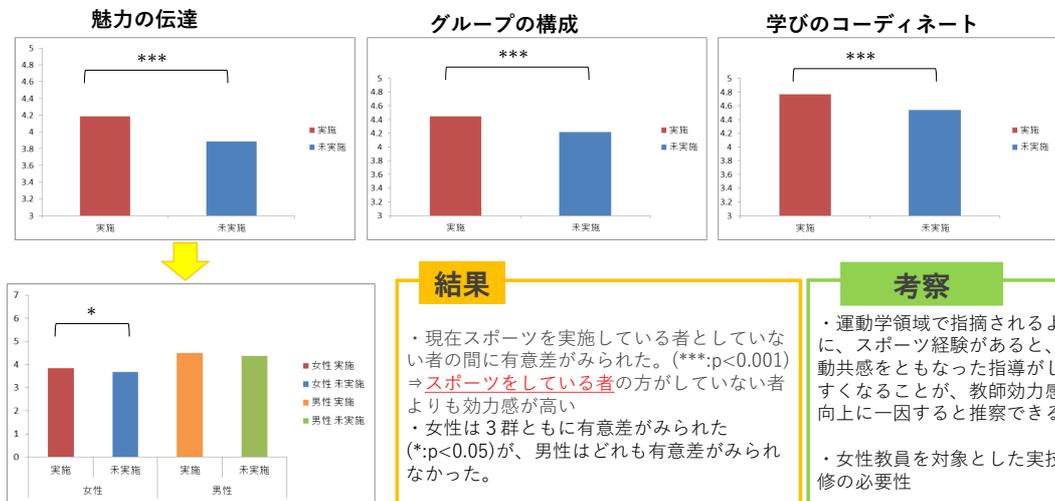
結果と考察 過去の体育授業好感度



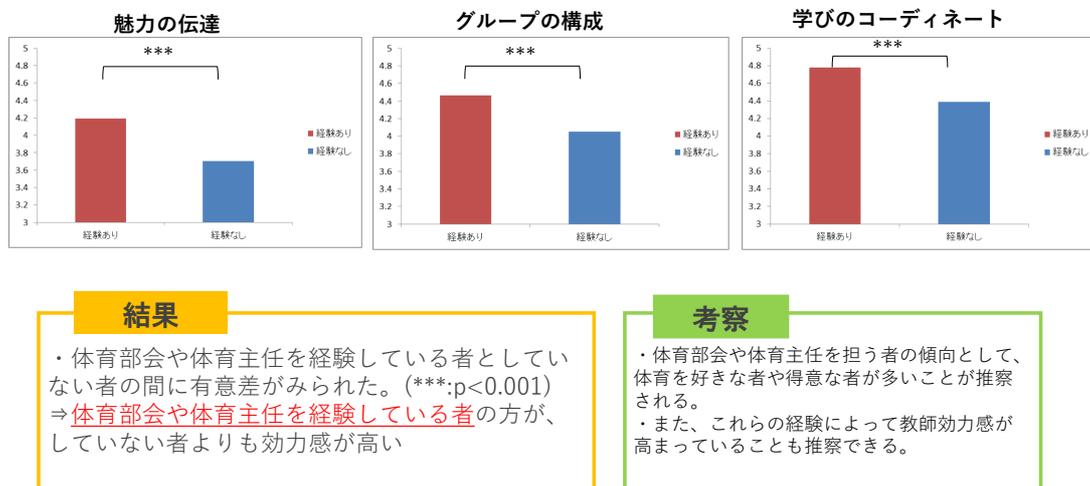
結果と考察 過去のスポーツ経験(大学)



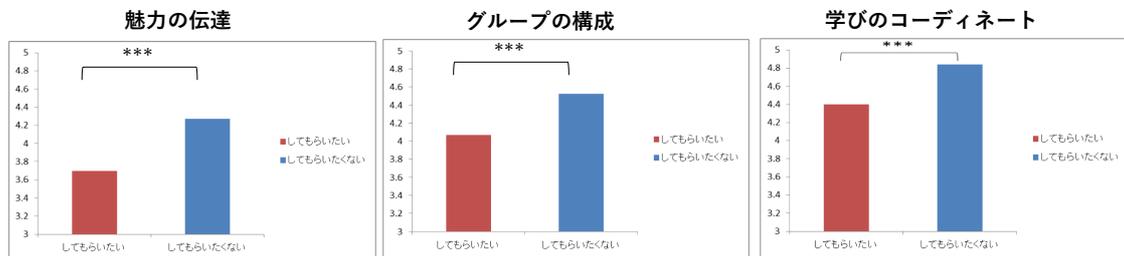
結果と考察 現在のスポーツ実施



結果と考察 体育部会や体育主任の所属



結果と考察 体育の授業を専科にしてもらいたいのか



結果

・体育授業を専科にしてほしい者とそうでない者の間に有意差がみられた。
⇒ 専科にしてほしくない者の方が、してほしい者よりも効力感が高い

考察

・体育の授業を専科にしてもらいたい者は、体育授業の指導に対する苦手意識によって教師効力感が低いことが推察される。

6章 まとめ

本研究では教員に対して研修等を行ったりする中で、体育授業版教師効力感を高めることができるかという課題認識があり、そのために活用できる尺度開発が当初の目的であった。そこで、尺度を検討し、K市の教員に対して悉皆調査を行い、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討してきた。一つ一つの項目での傾向を把握するため①性別、②体育授業の得意不得意意識、③現在のスポーツ実施、④過去の体育授業に対するイメージ、⑤過去の運動・スポーツ好感度、⑥年代とのクロス集計を行い、全体的な傾向として男性、得意意識、好感を持っている教員ほど、各項目の効力感を高く認識する傾向にあった。年代については、それぞれの項目によって異なり、経験によって効力感が高まる可能性のあるものとそうでないものの存在があると考えられた。これらのことから、体育授業における教師効力感は、様々なカテゴリーによってどの程度の効力感が高いのかについては分布がわかれるため、今後の検討課題とし、尺度化され得点化されたときの標準を考慮する必要性が明らかとなった。

また、クラスタ分析の結果、3つのクラスタ「魅力の伝達」、「グループの構成」、「学びのコーディネート」を抽出することができた。今後、具体的な指導場面に活用していく際には、これらの情報を組み合わせながら検討していく必要性が認められた。

2016年度の調査を受けて本年度は一層詳細に分析を行った。その結果をスライドにまとめた。今後は、再度尺度の修正し、全国的に無作為抽出による調査及び分析することを検討したい。

【参考文献】

-
- ⁱ Bandura, Albert.、1977、*Social Learning Theor.* Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.(原野広太郎訳、1979、『社会的学習論-人間理解と教育の基礎-』、金子書房.)
- ⁱⁱ池辺さやか・三國牧子、2014、「自己効力感研究の現状と今後の可能性」、『九州産業大学国際文化学部紀要』57、159-174.
- ⁱⁱⁱ淵上克義・西村一生・広島県立久井高等学校、2004、「教師の協働的効力感に関する実証的研究」、教育学研究編『日本教師学会学会誌』、1-12.
- ^{iv}松田惺・鈴木眞雄、1997、「教師の自己効力感に関する基礎的研究」、教育科学編『愛知教育大学研究報告』46、57-65.
- ^v鈴木眞雄・松田惺・石田靖彦、2001、「教師の自己効力感のあり方を探る—総合的学習の時間に対する態度との関連から—」、教育科学編『愛知教育大学報告』50、51-57.
- ^{vi}谷島弘仁、2013、「教師の自己効力感がバーンアウトに及ぼす影響」、『生活科学研究』35、85-92.
- ^{vii}貝川直子・鈴木眞雄、2006、「教師バーンアウトと関連する学校組織特性、教師自己効力感」、教育科学編『愛知教育大学研究報告』55、61-69.
- ^{viii}伊藤美奈子、2000、「教師のバーンアウト傾向を規定する諸要因に関する探索的研究—経験年数・教育観タイプに着目して—」、『教育心理研究』48、12-20.
- ^{ix}白旗和也、2013、「小学校教員の体育科学学習指導と行政作成資料の活用に関する研究」、『スポーツ教育学研究』32(2)、59-72.
- ^x 淵上克義、西村一生(2004)教師の協働的効力感に関する実証的研究、教師学研究、5・6、1-12.

第V部 本調査研究の総括

1章 各調査研究の概要

1節 研修プログラムの設定と実際

本研究の目的は、体育の授業を実施するに当たって、苦手意識を持っている小学校教員を対象に実技研修と単元計画を作成する演習を実施し、授業づくりの見通しがもてるようにすることであった。

昨年度の成果を踏まえて、今年度は、研修の実施主体である教育委員会と検討した結果、全ての研修を「体づくり運動領域」「7時間プログラム」として、ほぼ研修内容を統一して検証した。

また、昨年度の調査結果から、実技とそれに連動した授業づくりの演習の組み合わせが有効であることの知見を得た。そこで、7時間の時間を確保できることから、午前中には発達の段階を考慮した教材の工夫の仕方を中心とした実技研修を実施し、午後にはその経験を基に、指導内容の確認とそれを定着するための単元計画を基に1時間を詳細に立てる研修を実施し、授業づくりの見通しがもてるように設定した。対象学年は3年生とし、共通の条件で研修を行ったことが、昨年度との違いであった。このことにより、実技を通じた教材理解とそれを生かした単元計画の作成方法を理解することが可能ではないかと考えた。

加えて、事例1及び4については、参加者を女性のみに限定した。これまでの実技研修実施の反省から、本事業で特に対象としたい運動に苦手意識のある教員の場合、男性教員、とりわけ運動が得意な教員がいる場合、研修への参加に消極的になる傾向があることから、女性教員のみで実施することとした。

研修は、徳島県、熊本県、東京都、及び福岡県において実施し、受講者数は、238名であった。受講生に対するアンケート調査の結果、以下の9点が示された。

- ①学習指導要領の理解については、受講した多くの教師が、その理解度を高めることができていた。
- ②領域の考え方の理解については、研修を通して多くの教師が理解度を高めていたことがわかった。中でも「あまり思わない」が38.30%から2.15%へと減少していたことが特徴的であった。
- ③指導内容の理解については、今回の研修プログラムを通して、約90%の教師が指導の自信を得ていたことが確かめられた。
- ④教材づくりの理解については、本研修プログラムの受講を通して、多くの教師がその理解度を高めていたことがわかった。中でも「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」と回答した教師の多くが研修後に理解度が高まったと意識していたことが明らかになった。
- ⑤指導方法の理解については、今回の研修プログラムを通して、「とても思う」が0.85%から24.78%、「どちらでもない」が32.48%から8.26%、「あまり思わない」が34.62%から0.43%へと変容していたことから、本プログラムが受講者の指導方法についてのニーズにフィットしていたものと推察することができた。
- ⑥単元計画づくりの理解については、「あまり思わない」が38.30%から1.74%へと減少していたことから、単元として体づくり運動をとらえる力量を高めることができた受講者がいた一方で、「どちらでもない」の割合が研修後に約20%であったことから、この点についての受講者のニーズの把握や研修内容の再検討が求められる結果であった。
- ⑦評価の視点と方法の理解については、「とても思う」「少し思う」の割合がそれぞれ0.43%から12.99%、20.43%から51.52%へと高まっていたが、一方で「どちらでもない」が37.87%から28.57%と、研修後も約3分の1の受講者が「理解が高まったとはいえない」と回答していたことから、この点についての研修プログラムの再検討が求められる結果であったということができた。

- ⑧研修後に「授業のイメージが持てたか」については、多くの受講者が「授業のイメージを持つことができた」と回答していた。しかしキャリアの少ない受講者の割合は低かったため、この層の教師に対するプログラムについても、あらためて検討する可能性があるものと思われた。
- ⑨「授業で十分指導できる」かどうかについては、約70%の受講者は「できる」と回答したが、約25%の受講者は「どちらでもない」と回答しており、研修で学んだことと子どもたちに直接的に指導することの間の指導の自信をどう持たせるかについて、検討の余地が残ったともいえる。

2節 授業実践を踏まえた研修プログラムの効果の検討

本研究の目的は、より効果的な教員研修の在り方を検討するための資料を収集するために、第Ⅱ部で実施した研修がどのように教師自身の授業に役だったのか、また、よりわかりやすく、活用しやすい研修にするにはどのような改善点があるのかをインタビューにより把握することであった。

そこで、夏期に実施した研修参加者の中で「2学期以降に体づくり運動を実施すること」及び「授業実践を基にインタビューに応じてくれること」の条件を満たす教員を研修時に募集し、4名の教員（福岡県2名、熊本県2名）にインタビュー調査を実施した。

その結果、本研修プログラムの成果として以下の5点が確認された。

- ①参加者を体育授業の苦手な教員として、参加者を絞ったことが応募しやすい要因になっている。特に熊本は女性教員に限定したことで参加者に安心感を与えていたこと。
- ②午前中に授業づくりを意識した実技研修を行い、午後にその実践を基に指導案づくりをしたことで内容の系統性がわかりやすく、理解しやすかったこと。
- ③実技研修の間に、適宜、プレゼンテーションで情報を補ったことが、体づくり運動領域の内容や指導方法の理解を促進したこと。
- ④午後の演習では、学習指導要領解説で指導内容を確認した上で、具体的な授業づくりを実施したことにより、活動だけでなく、指導内容を意識した授業づくりがイメージできたこと。
- ⑤グループ単位での演習であったため、対話を通して、悩みの共有や身の丈に合った授業づくりができたこと。

加えて、課題として以下の3点が確認された。

- ①1日に実践できる研修内容は限られてしまうが、毎年継続できれば、参加者の授業力は確実に上がっていくこと。単年度開催になるのが残念であること。
- ②組み合わせの運動など、領域固有の知識が必要な場面では、一層ていねいな指導が必要であったこと。
- ③体育の苦手な教員のみで研修を実施したため、アイデアが広がりにくかった。授業づくりのヒントをもう少し出した方が時間内に効率よく指導案が作成できたと感じたこと。

3節 教師の効力感に関する検討

本研究の目的は、教員に対する研修等において、体育授業版教師効力感を高めることができるかという課題認識のもと、活用できる尺度を開発することであった。

そこで、尺度を検討し、O県K市の教員に対して悉皆調査を行い、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討した。分析対象者は、回答の得られた986名（回収率59.6%）のうち、有効回答である859名（男性331名（38.5%）、女性527名（61.5%））であった。

分析は、一つ一つの項目での傾向を把握するため①性別、②体育授業の得意不得意意識、③現在のスポーツ実施、④過去の体育授業に対するイメージ、⑤過去の運動・スポーツ好感度、⑥年代とのクロス集計を行った。

その結果、次の2点の傾向が示された。

- ① 男性、得意意識、好感を持っている教員ほど、各項目の効力感を高く認識する傾向にあった。
- ② 年代については、それぞれの項目によって異なり、経験によって効力感が高まる可能性のあるものとそうでないものの存在があると考えられた。

これらの結果から、体育授業における教師効力感は、様々なカテゴリーによってどの程度効力感が高いのかについては分布がわかるため、今後の検討課題とし、尺度化され得点化されたときの標準を考慮する必要性が明らかとなった。

また、クラスタ分析の結果、3つのクラスタ「魅力の伝達」、「グループの構成」、「学びのコーディネート」を抽出することができた。

今後、具体的な指導場面に活用していく際には、これらの情報を組み合わせながら検討していく必要性が認められた。2016年度の調査を受けて本年度は一層詳細に分析を行った。その結果をスライドにまとめた。今後は、再度尺度の修正し、全国的に無作為抽出による調査及び分析することを検討したい。

2章 本調査研究のまとめ及び今後の検討課題

本研究の目的は、体育の授業を実施することに苦手意識を持っている小学校教員が、指導内容がしっかり身につく授業を展開できることにより、教師が自信と意欲を持って体育の授業に取り組み、結果として運動好きな子供を育て、体力の向上に寄与することを目指すものである。そのために、どの研修会でも効果を上げることができる研修プログラムを目指して作成する。具体的には、以下の3つの観点から研究を行った。

- ① 平成28年度に実施した研修における効果及び単独教員に実施した支援方法を精査し、教員の研修に対するニーズ、指導内容を身に付けることができる授業のために必要な知識などを特定することで、対象、内容、研修時間、領域、規模別に、効果が期待できる研修方法のプログラムを修正すること(第Ⅱ部)。
- ② 同様の内容であっても、プログラムの順番を変えたり、導入の仕方を変えることなどにより、受講者の意欲に相違が見られることから、研修プログラムを活用する上での講師としての支援の在り方も検証すること。加えて、統合した研修(指導案づくりと授業の進め方)プログラムを構築し、その活用方法も含めて協力体制のある教育委員会の研修で実施し、自己効力感、知識、意欲などの変化を検証すること(第Ⅲ部)。
- ③ 小学校教師の体育授業に対する自己効力感や授業づくりの課題を明らかにするために、平成28年度に実施した予備調査結果を精査し、質問紙法による調査を実施して、自己効力感因子や課題を明確にすること(第Ⅳ部)。

第Ⅱ部では、4都県(東京都、徳島県、福岡県、熊本県)でのべ5回(福岡県は2回)、受講者238名を対象に「体づくり運動領域」「7時間プログラム」を実施し、その効果を各研修の受講生に対するアンケート調査並びに講師の印象の点から検討した。その結果、体づくり運動領域に関する「学習指導要領の内容」、「領域の考え方」、「指導内容」、「教材づくり」、及び、「指導方法」の理解については概ね成果を得ることができたと考えられる。他方、「単元計画づくり」、「評価の観点と方法」、「研修後の授業イメージ」、及び、「授業での十分な指導」については、対象者のキャリアあるいはニーズに応じた検討が必要であることが示唆された。

第Ⅲ部では、研修に参加した4名の教師を対象にインタビュー調査を実施し、第Ⅱ部で実施した研修がどのように教師自身の授業に役だったのか、また、よりわかりやすく、活用しやすい研修にするにはどのような改善点があるのかを検討した。その結果、対象者を限定したことにより研修に参加しやすくなったこと、研修内容を実技と理論の組み合わせることにより授業をイメージしやすくなったこと、他の教師とのグループワークによる対話を取り入れたことにより情報を共有しながら取り組めたことが成果として示された。

第Ⅳ部では、小学校教師の体育授業に対する自己効力感を測る尺度を検討し、859名の教師から得られた回答を分析し、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討した。その結果、①男性、得意意識、好感を持っている教員ほど、各項目の効力感を高く認識する傾向にあること、②年代については、それぞれの項目によって異なり、経験によって効力感が高まる可能性のあるものとそうでないものの存在があると考えられること、の傾向が示された。また、クラスタ分析の結果、3つのクラスタ「魅力の伝達」、「グループの構成」、「学びのコーディネート」を抽出することができた。

これらの結果を受け、今後の検討課題として次の3点を示す。

- ① 小学校教師の体育授業に対する自己効力感や授業づくりの課題を明らかにするために、再度尺度の修正し、全国的に無作為抽出による調査及び分析すること
- ② 質問紙調査及びインタビュー調査より得られた成果を踏まえて継続的な研修の実施、参加者の多様化等、研修プログラムの構築、並びに、その活用方法を検討すること
- ③ 研修プログラムの効果を、教師の体育授業に対する効力感の観点から検討すること

謝 辞

本報告書は、「平成 29 年度スポーツ庁企画事業」における「事業名：学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト」のテーマ①「体力低下種目等の課題対策プログラムの開発等」に関する調査研究報告書である。

最後になりましたが、本調査研究遂行に関する予算的支援は、平成 29 年度スポーツ庁企画事業によって得られました。本研究を遂行するにあたり、スポーツ庁の関係者の皆様、徳島県、熊本県、東京都、及び、福岡県において開催した研修にご参加いただきました小学校教員の皆様並びに教育委員会の皆様等から、極めて温かなご協力を頂きました。また、日本体育大学、立命館大学、国士舘大学、並びに、岡山大学大学院の教職員、大学院生、及び学生から大きな協力を頂きました。

各位に対して、心より感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月 9 日

研究代表者 白旗 和也

している					
7 評価の視点と方法を理解している	①	②	③	④	⑤
8. 体づくり運動を, 単元として計画・実践したことがある	①	②	③	④	⑤
9. 体づくり運動の指導が得意である	①	②	③	④	⑤

【研修後のアンケート】

C 体づくり運動について回答してください。当てはまる数字に○を付けてください。

	とても 思う	少し思 う	どちら でもない	あまり思 わない	全く思 わない
1 学習指導要領について理解できた	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					
2 領域の考え方について理解できた	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					
3 指導内容(動きのポイントを含む)についての理解できた	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					
4 教材づくりについて理解できた	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					
5 指導方法について理解できた	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					
6 単元計画づくりについて理解できた	①	②	③	④	⑤

(具体的な内容をお書きください)					
7 評価の視点と方法について理解できた	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					
8 授業づくりができると思う(授業のイメージを持つことができた)	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					
9 授業で十分指導できると思う	①	②	③	④	⑤
(具体的な内容をお書きください)					

D 本日の研修について以下に記載してください。

1. 初めて知ったことや再確認できたことがあった方は、その内容を記載してください。

2. もっと知りたいと思うことがある方は、その内容を記載してください。

3. これから継続的に授業力向上の取り組みをしていくために、どのような情報やサポートがあればいいと思いますか。

【継続的な調査への協力依頼】

2学期に、単元として体づくり運動の授業を実践する予定の先生方にお尋ねします。

本日の講師を中心とする研究チームは、スポーツ庁の委託事業として、体づくり運動の授業改善の実態把握と教師の授業力向上への取り組みについて調査研究をしております。

先生方の2学期の実践に関わって、単元前後の教師及び児童へのアンケート調査にご協力いただけるかどうか、以下の選択肢に「○」を付けてご回答ください。

- ①継続調査に参加したい（興味がある） ②興味はあるが、即答できない
③興味はない

(学校名) _____ 小学校, (お名前) _____

①もしくは②と回答された先生方には、後日、関係資料を郵送させていただき、具体的な手続きを進めさせていただきたいと考えております。よりよい体づくり運動の授業づくりに向けて、ご協力の程、よろしく願い申し上げます。

ありがとうございました。

【資料2】 体育授業に関わる教師効力感に関する調査紙

(小学校教員版) 体育授業に関わる教師効力感に関する調査

体育授業用教師効力感研究プロジェクト (代表: 岡山大学 原祐一)

この調査は、小学校教員が教科指導をする際に、どのような効力感を持っているのかを中心に調査研究を進めるものです。正しい答えということはありませんので、あまり深く考えずにありのままを答えてください。なお、アンケートの結果は統計的に処理されるため、個人が特定されるなどプライバシーを侵害したり、この調査研究目的意外にデータを使用されたりすることはありません。お忙しいところ恐縮いたしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

A あなたご自身のことについてお尋ねします。

- 問1 性別 (男 ・ 女) 問2 年齢 (①~25 ②26~35 ③36~46 ④46~55
⑤56~)
- 問3 担当学年 (年) 問4 クラスの人数 (人)
- 問5 研究部 (区市町村の教育研究会) の所属
(①国語 ②算数 ③理科 ④社会 ⑤生活 ⑥音楽 ⑦図画工作 ⑧体育 ⑨家庭 ⑩道徳 ⑪英語 ⑫その他)
- 問6 指導するときに最も得意な教科 ()
- 問7 指導するときに最も不得意な教科 ()

B ご自身の学級経営のことについて、以下の項目を読んで最も当てはまるものに○で囲んでください。

	あ て は 非 常 に ま る	あ て は か な り ま る	あ て は ま る や	い え な い ど ち ら と も	あ て は ま ら な い	あ て は ま ら な い	あ て は ま ら な い 全 く
1 授業中に、児童が騒いだり、授業の妨害をしたりしたとき、素早く効果的に対応できる。	7	6	5	4	3	2	1
2 きわめて効果的なクラス経営の技術をもっている。	7	6	5	4	3	2	1
3 もし児童がクラスでの活動を逸脱するならば、彼らをもとに戻すことができる。	7	6	5	4	3	2	1
4 自分が本気になって当たれば、非常に難しいと思われる児童でも指導できる。	7	6	5	4	3	2	1
5 扱い方のわからない児童はクラスにほとんどいない。	7	6	5	4	3	2	1
6 クラスでの適切な行動の仕方を児童に伝えることができる。	7	6	5	4	3	2	1
7 自分が一生懸命やれば、無気力な児童にもやる気を起こさせることができる。	7	6	5	4	3	2	1
8 2、3人の児童がクラス全体をトラブルに巻き込むことから防ぐことができる。	7	6	5	4	3	2	1
9 もしクラスのある児童が騒ぎ始めたら、すぐに落ち着かせる技術を知っている。	7	6	5	4	3	2	1
10 授業中の児童の予想外の反応や質問にも的確に対応できる。	7	6	5	4	3	2	1

裏面に続く

平成 29 年度
スポーツ庁企画事業
事業名：学校における子供の体力向上課題対策プロジェクト
(テーマ① 体力低下種目等の課題対策プログラムの開発等)

体育の授業を苦手としている小学校教員向け
研修プログラムの作成及び実践研究
調査研究事業報告書

研究代表者 白 旗 和 也 日本体育大学体育学部
研究分担者 大 友 智 立命館大学スポーツ健康科学部
細 越 淳 二 国士舘大学文学部
原 佑 一 岡山大学大学院教育学研究科
発行者 白 旗 和 也 日本体育大学体育学部
発行年月 平成 30 年 3 月